

<参考資料6>書誌情報

分野：言語・文学

担当：岡田 真美子

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	東北大学国語学研究室	2011 年 10 月 1 日	東北大学方言研究センター研究報告書『東日本大震災と方言』 https://www.sinsaihougen.jp/センターの取り組み/伝える-励ます-学ぶ-被災地方言会話集/	東北大学方言研究センター
1	高民定編	2012 年 3 月 1 日	『被災外国人住民の情報収集に関する聞き取り調査と災害情報支援の仕組み作りー浦安市と千葉市の事例調査を中心にー』	千葉大学平成 23 年度地域連携及び地域貢献に関わる助成 研究成果報告書、千葉大学
1	杉本妙子	2013 年、 2014 年、 2015 年、 2016 年	『文化庁委託事業報告書 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（茨城県）』	茨城大学
1	大野眞男・小島聡子・齋藤孝滋・田中宣廣・山下暁美・大橋純一・竹田晃子	2013 年	『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（岩手県）報告書』	岩手大学教育学部

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	坂喜美佳・小原雄次郎・工	2011 年 8 月 27 日	方言パンフレット『支援者のための気仙沼方言入門』	東北大学文学部国語学研究室

	藤千桜秀・青木佳世・小林隆		https://www.sinsaihougen.jp/センターの取り組み/方言パンフレット	
1	東北大学方言研究センター	2012 年	「伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—宮城県沿岸 15 市町 —」 https://www.sinsaihougen.jp/センターの取り組み/伝える-励ます-学ぶ-被災地方言会話集/	東北大学文学部国語学研究室
1	東北大学方言研究センター	2013-2016 年	『生活を伝える被災地方言会話集 1~4』 www.sinsaihougen.jp/生活を伝える被災地方言会話集 1/から同 4/	東北大学文学部国語学研究室

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	東北大学方言研究センター	2012 年 10 月 31 日	『方言を救う、方言で救う-3. 11 被災地からの提言』	ひつじ書房
1	大野眞男・小林隆編	2015 年 5 月 20 日	『方言を伝える 3. 11 東日本大震災被災地における取り組み』	ひつじ書房

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	Saho Tateno, Hiromi M. Yokoyama	2013 年 6 月 24 日	" Public anxiety, trust, and the role of mediators in communicating risk of exposure to low dose radiation after the Fukushima Daiichi Nuclear Plant explosion ", <i>Journal of Science communication</i> , http://jcom.sissa.it/archive/12/02/JCOM1202%282013%29A03/	SISSA – International School for Advanced Studies Journal of Science Communication ISSN 1824 – 2049
1	村岡英裕・高民定・今千春・ミラー成三	2013 年	「外国人住民は被災情報をどのように受容したか：浦安市の事例にみるリテラシー・ネットワークの意義」	『社会言語科学』 16(1), 39-48

1	小林隆ほか	2012 年	「東日本大震災と被災地の方言—東北大学方言研究センターの取り組み—」	『日本語学』31-6, 明治書院, pp. 28-41
1	小林隆	2013 年	「東日本大震災と方言の危機」	『日語日文学研究』84, pp. 1-6
1	大野眞男	2013 年	「言葉と絆—地域の言語生活と方言で語ること—」	石井正己編『震災と民話—未来へ語り継ぐために—』（三弥井書房）、74-81
1	大野眞男	2014 年	「被災地で言語研究者のできること—研究の対象から共に生きる関係へ—」	『多文化・共生コミュニケーション論叢』（フェリス女学院大学）、第9号、5-11

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	村岡英裕	2011 年 5 月 29 日	「地震被災時における外国人居住者の情報取得—浦安市の事例」	言語政策学会緊急研究報告会「災害・震災時、情報弱者のための言語政策について考える」
1	高民定, 村岡英裕, 今千春, 楊昉, 袁師, ミラー成三	2012 年 3 月 10-11 日	「非被災地域に住む外国人の行動と情報支援の問題 —千葉市の事例から」	社会言語科学会第 29 回大会（桜美林大学）
1	小林隆	2012 年 10 月 13 日	「東日本大震災と方言の危機」	韓国日語日文学会, 明知大学校,
1	小林隆	2013 年	「東日本大震災と方言の危機」	『日語日文学研究』84, pp. 1-6
1	Kan SASAKI	2013 年 6 月 27 日	Copula-initial consonant devoicing in the Hasaki dialect of Japanese	The 26th Paris Meeting on East Asian Linguistics Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, Paris
1	大野眞男・他 8 名	2016 年 5 月 14 日	「3. 11 被災地の方言と向き合って」	文化庁「被災地の方言の活性化支援事業」平成 27 年度報告会、（学習院大学）＜毎年度、日本語学会に併催して報告会を実施＞

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	文化庁	2013 年	http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/pdf/iwate_01.pdf	文化庁「被災地の方言の活性化支援事業」

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
1	岩手大学教育学部日本語学研究室	2016 年	『須知ナヨ昔話集：釜石漁火の会：おらほ弁で語っぺし：被災地の言語文化資料』他 7 種	地域のことばを伝承する学習材として地域に配布
1	岩手大学教育学部日本語学研究室		『三陸の声―被災をのりこえて―』他 9 種 CD	被災地の方言の音声談話資料 CD として作成し地域に配布

(9) その他

該当なし

複合 3 1-1 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-1	細野不二彦・森川ジョージ・ひうらさとる・信濃川日出雄・西條充敏	2014 年 6 月 29 日	「マンガ家の支援活動」	日本マンガ学会第 14 回大会シンポジウム「マンガと震災」
31-1	しりあがり寿・山本おさむ・とりみき・ヤマザキマリ	2014 年 6 月 29 日	「震災を描く」	日本マンガ学会第 14 回大会シンポジウム「マンガと震災」

分野：哲学

担当：岡田 真美子

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
2	星野英紀	2014 年	「原発難民と「ふるさと」と寺院—福島浜通りの寺院檀信徒調査より」	『宗教学年報』29、1-27 頁
2	星野英紀	2014 年	「原発被災寺院と原発難民—被災の法務執行の状況」	『密教学研究』46、1-9 頁
2	星野英紀	2015 年	「「忘れられた町」の「四日間」とその後—全町民避難の浪江町で起こったこと」	『宗教学年報』30、1-25 頁

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
2	西山雄二編	2014 年 9 月 22 日	『カタストロフィと人文学』	勁草書房

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
2	岡田真美子	2013 年 4 月 5 日	「伝統的地域ネットワークと地域 SNS」	稲場圭信・黒崎浩行編著『叢書 宗教とソーシャル・キャピタル 4 震災復興と宗教』明石書店。 pp. 140-158

2	伏見英俊	2014 年	「原発事故と仏教寺院 — 「原発事故被災寺院 補償問題対策有志の会」による東京電力との和 解交渉をめぐる一」	『仏教文化学会紀要』 第 23 号、73-99 頁
2	伏見英俊	2015 年	「原発事故被災寺院の諸相 — 「有志の会」 の 和解交渉から見た東日本大震災一」	『現代密教』 第 26 号、(81) - (106) 頁
2	星野英紀	2015 年	「高台復興住宅建設と行政・住民・菩提寺一相 馬市漁師地区の場合一」	『豊山学報』 58、134-119 頁
2	星野英紀	2016 年	「震災からの復興と宗教文化の行方」	『現代宗教 2016』、185-205 頁
2	星野英紀	2016 年	「被災地寺院の 4 年 8 ヶ月」	『大正大学研究紀要』 101、154- 138 頁 9

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
2	西山雄二	2013 年 3 月 15-16 日	L' honnêteté des Humanités face à la catastrophe : À « ce qui n' en finit pas »,	Colloque “La philosophie de la catastrophe: repenser les Humanités après Fukushima” シ ンポジウム「カタストロフィの哲 学——フクシマ以後、人文学を再 考する」, la Maison de la culture du Japon à Paris (MCJP)
2	西山雄二	2013 年 6 月 13 日	The Honesty of the Humanities in Face of a Catastrophe http://www.comp.tmu.ac.jp/nishiyama/Catastrophe/pg155.html	Joint Meeting between the Young Academies of Sweden and Japan
2	西山雄二	2013 年 9 月 26 日	「カタストロフィと人文学」	The University of Sofia “St. Kliment Ohridski”, In cooperation with the Department of Sociology and Human Sciences at the University of Plovdiv “Paisii Hilendarski”

2	西山雄二	2013 年 12 月 21 日	「人文学にもとづくカストロフィの思考と表象」	Workshop: Catastrophe and Philosophy
2	西山雄二	2014 年 4 月 3-4 日	《 Imaginer la terre abandonnée après Fukushima 》	Colloque "Fukushima : le politique après la catastrophe. Epistémologie, philosophie, politique
2	箭内任	2016 年 5 月 19 日	『東日本大震災ボランティア参加大学生からみる大学教育』	大学教育学会
2	伏見英俊	2016 年 5 月 27 日	「東京電力との財物賠償交渉ラストステージー原発事故被災寺院の復興へ向けてー」	第 60 回智山教学大会、別院真福寺

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
2	東京大学大学院 総合文化研究 科・教養学部附 属共生のための 国際哲学研究セ ンター		http://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/	
2	東京大学大学 院博士課程教 育リーディン グプログラム 「多文化共 生・統合人間 学プログラ ム」		http://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

分野：心理学・教育学

担当：廣瀬 真理子

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	小林功英編	2014 年	『災害ボランティア経験が持つ大学生への教育効果』 広島大学高等教育研究叢書 126 号 http://rihejoho.hiroshima-u.ac.jp/so/so126.html	広島大学高等教育研究センター
3	川口明子	2015 年	「岩手県の小・中学校と郷土芸能—平成 26 年度郷土芸能教育実施状況アンケート調査（第 4 次）」 岩手大学教育学部音楽科教育研究室	
3	筒井雄二	2012 年	多重災害ストレスが児童期および幼児期の精神的健康に及ぼす影響，福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト「緊急の調査研究課題」	福島大学
3	—	2014 年	日本認知心理学会学会発表	
3	—	2013 年	日本感情心理学会学会発表	
3	—	—	http://www.jsps.go.jp/j-gakujutsuchosa/report.html	

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	日本学術会議	2014 年	提言『災害に対するレジリエンスの向上に向けて』	
3	—		科研 課題番号 24531052	

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	NHK E テレ ニッポンのジレンマ制作班・	2013 年	『ニッポンのジレンマ ぼくらの日本改造論』 ISBN: 978-4022735225	朝日新書（東京）

	藤村龍至・古市憲寿・西田亮介・山崎亮・開沼博・藤沢烈・河村和徳			
--	---------------------------------	--	--	--

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	河村和徳・河北新報社（協力）	2014 年	『東日本大震災と地方自治－復旧・復興における人々の意識と行政の課題』。ISBN: 978-4-324-09814-1	ぎょうせい（東京）
3	河村和徳・湯浅壘道・高選圭（編著）	2013 年	『被災地から考える日本の選挙－情報技術活用の可能性を中心に』。ISBN: 978-4-86163-229-7	東北大学出版会（仙台）
3	岩手県立大学総合政策学部編	2014	いわて地誌アーカイブ [1] 岩泉・海・小本一 東日本大震災を経て、ふるさとを見る・知る・探るビジュアル資料	イー・ピックス
3	青木栄一編著	2015 年	『復旧・復興へ向かう地域と学校』	東洋経済新報社
3	早稲田大学・震災復興研究論集編集委員会編	2015 年	「震災後に考える：東日本大震災と向き合う 92 の分析と提言」	早稲田大学出版部
3	筒井雄二	2015 年	福島における原子力災害が引き起こした心理学的問題、発達障害医学の進歩	日本発達障害連盟
3	筒井雄二	2016	原子力災害が引き起こす心理的影響——福島県が経験した原子力災害の 5 年間、心理学ワールド	日本心理学会
3	筒井雄二，高谷理恵子，氏家達夫	年次なし	原子力災害が福島の子どもたちに与えた心理学的影響——発達心理学的研究がとらえた事実と今後の問題，子育て支援と心理臨床	福村出版

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	Hidaka T, Kakamu T, Hayakawa T, Kumagai T, Jinnouchi T, Sato S, Tsuji M, Nakano S, Koyama K, Fukushima T.	2016 年	Effect of age and social connection on perceived anxiety over radiation exposure among decontamination workers in Fukushima Prefecture, Japan. Journal of Occupational Health. 58; 186-195	
3	Kakamu T, Hidaka T, Hayakawa T, Kumagai T, Jinnouchi T, Tsuji M, Nakano S, Koyama K, Fukushima T.	2015 年	Risk and preventive factors for heat illness in radiation decontamination workers after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Journal of Occupational Health. 57; 331-338.	
3	Shun Ibaragi, Dávid Bohács, and Kazunori Kawamura.	2015 年	"Did Japanese People rely on the government after the Great East Japan Earthquake?" a paper delivered at 8th Australian Public Choice Conference (Brisbane, Queensland University of Technology).	
3	一方井祐子・ 横山広美	2016 年	東日本大震災後、科学コミュニケーターは何ができたのか、科学技術コミュニケーション（印刷中）	
3	茨木瞬・河村 和徳	2016 年	「日本における被災地市民の行政への信頼」 『日本研究』第 25 輯、201-217 頁。	

3	工藤大介・中谷内一也	2014 年	東日本大震災に伴う風評被害：買い控えを引き起こす消費者要因の検討. 社会心理学研究, 30(1), 35-44.	
3	根ヶ山光一・平田修三・石島このみ	2012 年	原発事故による避難家族への支援 臨床発達心理実践研究 7 42 - 46	
3	小原友行他	2012 年 3 月	「主権者を育成する社会科 N I E 単元の開発研究 - 中学校社会科「東日本大震災後の社会を考えよう」の開発 - 」『日本 NIE 学会誌』第 7 号, pp. 53-62	
3	小原友行他	2015 年 3 月 1 日	「『知る』『考える』『省みる』『伝える』社会科 NIE 単元の開発—中学校社会科公民的分野『東日本大震災の復興支援を考える』—」『日本 NIE 学会誌』第 10 号, pp. 27-36	
3	仁平義明	2014 年 5 月 1 日	「福島第一原子力発電所事故後の放射性物質拡散による”風評被害”は心理的”般化被害”である—社会関係資本としての地域間相互信頼の喪失への影響 『白鷗大学教育学部論集』第 8 巻, 131-162.	
3	木戸彩恵・サトウタツヤ	2013 年	文化的記号と文脈が織りなす心理—東日本大震災由来の風評克服のために, 立命館人間科学研究, 28, 115-126.	
3	木戸彩恵・天野丞可・サトウタツヤ		東日本大震災後の仮設住宅の生活とコミュニティの形成—福島県笹谷東部仮設住宅集会所のマイクロ・エスノグラフィから, 質的心理学研究, 査読中.	
3	河村和徳	2013 年	「被災地における住民意識—復旧・復興策に厳しい評価しているのは誰か?」『公共選択』第 59 号, 110-125 頁。	
3	平田修三・根ヶ山光一・石島このみ・持田隆平・白神晃子	2012 年	かささぎプロジェクトによる震災避難家族の支援 人間科学研究 25(265 - 272	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	Jinnouchi T., Kakamu T., Hidaka T., Kumagai T., Tsuji M., Hayakawa T., Nakano S., Koyama K. and Fukushima T.	2014 年 9 月 2 日	Trends of anxiety of radiation decontamination workers in Fukushima prefecture after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. The 21st Asian Conference on Occupational Health.	
3	Katsuro Kitamura, Takeshi Yamauchi, Ichiro Tokimitsu.	2015 年 4 月 19-20 日	A Quantitative Analysis of Well-Being and Physical Activity in Elderly Survivors of the Great East Japanese Earthquake. Proceedings of ISSP	ISSP(International Society of Sport Psychology) International Seminar, Roma, Italy
3	Tsutsui, Takaya, Tominaga, & Ujiie, Psychologica l Impacts Associated with the Fukushima Nuclear Disaster : Stress Among Mothers and Children	2015 年 3 月 5 日	105th Annual Meeting of the American Psychopathological Association	

	Living in Low-Exposure Regions,			
3	伊藤哲司・矢守克也・ハツ塚一郎他	2012 年 9 月	『被災地』からみた風評被害～茨城・大洗町の取り組みを軸に	日本質的心理学会第 9 回大会
3	見市建・橋本裕之他	2013 年 3 月 16 日	シンポジウム：東日本大震災と岩手県沿岸の民俗芸能、岩手県立大学総合政策学部防災復興研究会、	
3	工藤大介	2012 年	風評被害発生メカニズムの検討(1) -買い控え行動を引き起こす心理的要因の探索と福島県産農産物の購買に与える影響	日本社会心理学会第 53 回大会
3	工藤大介・中谷内一也	2013 年	風評被害発生メカニズムの検討(2) -主婦を対象とした買い控えモデルの一般性の検討	日本社会心理学会第 54 回大会
3	小原友行	2011 年 10 月 8 日	「主権者としての資質を育成する社会科授業デザイン - 「東日本大震災」の教材化を求めて - 」全国社会科教育学会第 60 回全国研究大会	
3	仁平義明	2013 年 6 月 30 日	「般化被害としての風評被害 -地域間の相互信頼という社会関係資本喪失への影響-」	日本認知心理学会第 11 回大会 (筑波大学)
3	中川真・橋本裕之・川口明子	2012 年 11 月 10 日	プレセッション：震災後の民俗芸能の復興その後、東洋音楽学会第 63 回大会、	
3	筒井雄二	2015 年 9 月 22 日	原子力災害が引き起こす心理的影響：心理学は福島の人々の幸福に寄与できるのか？	第 79 回日本心理学会、大会企画シンポジウム、
3	筒井雄二	2014 年 9 月 1 日	福島における原子力災害が人々にもたらしたの心理的問題の現状と今後を考える	第 78 回日本心理学会（シンポジウム）
3	ハツ塚一郎・矢守克也・伊藤哲司他	2011 年 11 月	質的心理学の東日本大震災——『質心フォーラム』緊急特集連動シンポジウム	日本質的心理学会第 8 回大会
3	北村勝朗, 山内武巳, 永山貴洋.	2014 年 11 月 1-2 日	東日本大震災は被災者の心理的健康にどのような影響を与えたのか？：被災者を対象とした震災時の身体活動と主観的健康感に関する質的分析 P1-15.	日本健康心理学会第 27 回大会 沖縄科学技術大学院大学

3	—	—	石巻事例を報告	日本社会学会 (?大会)
---	---	---	---------	--------------

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	日本質的心理 学会	2013 年	東日本大震災に対する本学会の取り組み http://www.jaqp.jp/news/110830_oshirase/	
3	—	—	http://www.jaqp.jp/news/110830_oshirase/ 東日本大震災に対する本学会の取り組み (2013 年 5 月更新)	
3	—		http://fukushima-kids.org/ふくしまキッズの 教育的効果-2/	
3	—	2012 年 3 月	学生ボランティア研究会 https://sites.google.com/site/gfsovas/	
3	—	2014 年 4 月	http://cpsd.sss.fukushima-u.ac.jp/ , 福島大 学災害心理研究所, 2014 年 4 月	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
3	—	—	全日本特別支援教育研究連盟機関誌「特別支援 教育研究」	
3	—	—	報道等 http://cpsd.sss.fukushima- u.ac.jp/report/ http://cpsd.sss.fukushima - u.ac.jp/report/paper.html	
3	一方井祐子・ 横山広美 (主 催)	2014 年	3.11 と科学コミュニケーター～私たちは何ができ て何ができなかったのか～、サイエンスアゴラ でのワークショップ	

複合 3 1-3 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	根本泰雄	2013 年	持続発展教育の観点を踏まえた地球惑星科学分野での新しい実験・実習・演習教材の開発科研費報告書	JSPS
31-3	渋谷和彦	2017 年 3 月	科研費研究成果報告書「風評被害による販売網の崩壊予防とレジリエンス	科研費研究成果報告書
31-3	大谷忠、藤本登	2013 年 3 月 1 日	中学生の技術に関わるガバナンス能力の調査結果報告平成 24 年度国立教育政策研究所科学研究費助成事業シンポジウム	文部科学省
31-3	東大社研・中村尚史・玄田有史編	2015 年	『〈持ち場〉の希望学：釜石と震災、もう一つの記憶』	東京大学出版会
31-3	藤岡達也ほか	2016 年	東アジア等との関連性を踏まえた日本の防災・減災教育の展開と課題科研費報告書	JSPS
31-3	日本環境教育学会	2011 年	原発事故のはなし	日本環境教育学会、
31-3	日本環境教育学会	2012 年	原発事故のはなし 2	日本環境教育学会
31-3	日本環境教育学会	2013 年	原発事故のはなし 3	日本環境教育学会
31-3		2012 年 5 月	こどもと築く復興まちづくり 実施プログラムの立案調査	公益財団法人日本ユニセフ協会
31-3	—	2013 年 2 月	特別授業「未来の教室を考えよう」（大槌町）実施記録	公益財団法人日本ユニセフ協会
31-3	—	2014 年	http://www.ajcp.info/?page_id=135	

複合 31-3 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	日本ユニセフ協会 竹中工務店 山形大学	2013 年	子どものまちいしのまきの記録 2013 年 02 月 DVD 版	

複合 3 1-3 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	—	2013 年 05 月	「未来の教室を考える」試みと子どもたち, 建築雑誌, 128(1645) 4-5,	
31-3	Toshiyuki Monma, et al	2015 年	Agricultural and Forestry Reconstruction After the Great East Japan Earthquake,	Springer
31-3	根本泰雄	2011 年	実験で実践する魅力ある理科教育 高校編 第 2 編「地学」分野地学 1~4	オーム社
31-3	根本泰雄,	2011 年	持続可能な社会と防災教育 第 1 章 4 なぜ, 自然災害への防災教育に対しても PISA 型学 力・科学的リテラシーを育む必要があるのか,	協同出版
31-3	太田幸夫	2016 年 10 月刊行予定	『安全安心のピクトグラム』	株・フォーラムエイト刊
31-3	太田幸夫+ RGSS 参加メン バー共編著	2016 年 10 月刊行予定	『避難誘導サイン・トータルシステム／解説・ 実施マニュアル』	株・フォーラムエイト刊
31-3	東京農業大学	2014 年	東日本大震災からの真の農業復興への挑戦	ぎょうせい
31-3	日高真吾	2015 年	『災害と文化財——ある文化財科学者の視点か ら』	千里文化財団
31-3	日高真吾編	2012 年	『記憶をつなぐ——津波被害と文化遺産』	千里文化財団
31-3	日本環境教育 学会	2013 年	東日本大震災後の環境教育	東洋館出版社

複合 3 1-3 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	Tsuchida, S., Tsujioka, N., Shiotani, T., Nakagawa, Y., Comparing	2013 年 7 月 5 日	"Emerging Issues Learned from the 3.11 Disaster as Multiple Events of Earthquake, Tsunami and Fukushima Nuclear Accident", The Society for Risk Analysis, Japan, 59- 61,	

	disaster perception in Japan and the US, S. Ikeda & Y. Maeda (eds.)			
31-3	Tsujikawa, N. , Tsuchida, N., Shiotani, T.	2016 年	Changes in the Factors Influencing Public Acceptance of Nuclear Power Generation in Japan Since the 2011 Fukushima Daiichi Nuclear Disaster, Risk Analysis, 36(1), 98-113,	
31-3	根本泰雄	2015 年	学校での地震教育, 地震防災・減災教育の現状 と課題～「理科」などの教科活動と教科外活動 での“安全教育”との関係～, 日本地震学会モ ノグラフ, 4, 19-26	
31-3	根本泰雄ほか	2013 年	桜美林大学町田キャンパスおよび桜美林幼稚園 での 2011 年度放射線 (γ 線) 量時空間分布, 桜美林論考『自然科学・総合科学研究』, 4, 69-140	
31-3	佐藤 大輔, 高野 裕治, 須藤 竜之介, 持田 岳美	2016 年	災害輻輳発信可能時間内の経過時間と通話時 間の関係, 電子情報通信学会総合大会 講演論 文集	
31-3	小寺敦之・林 文	2013 年	「東日本大震災における不安感と情報行動ー東 洋英和女学院大学の保護者・学生アンケートを もとに」東洋英和女学院大学人文社会科学論集 30 : 93-114	
31-3	土田昭司	2013 年	原子力利用に世論がめざすもの 61-67,	伝熱, 219,

複合 3 1-3 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-3	SHIBUYA Kazuhiko	2015 年 1 月	A Simulation on Networked Market Disruptions and Resilience from “Fuhyo- Higai”	The Tokyo Conference on International Study for Disaster Risk Reduction and Resilience Towards a new science and technology to consolidate disaster risk reduction and sustainable development
31-3	伊東明彦, 根 本泰雄, 大木 聖子, 数越達 也	2012 年 5 月 20 日	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震発 生時の学校の対応調査ー栃木県	日本地球惑星科学連合 2012 年連 合大会
31-3	原田眞理、鶴 田信子、金田 一賢顕、成澤 知美	2015 年 9 月 18 日	在京避難者団体における当事者支援者の現状の 把握ー今後の支援活動における臨床心理士のか かわり方の検討ー	第 34 回日本心理臨床学会
31-3	根本泰雄ほか	2011 年	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震に よる神奈川県央域での被害状況 (速報)	JpGU2011 年大会予稿
31-3	佐藤 大輔, 須藤 竜之介, 高野 裕治, 持田 岳美,	2015 年	災害輻輳自己抑制促進制御実験	電子情報通信学会 ソサイエティ 大会
31-3	小玉敏也他	2012 年	原発と環境教育	日本環境教育学会
31-3	小森次郎	2016 年 8 月 1 日 (予定)	「福島県浜通り地域での地学/防災/資源に関す る巡検」	第 319 回生存圏シンポジウム「地 球惑星科学の持続的発展を目指す 教育の将来像」
31-3	上原 巖、瀬 山智子、中村 幸人、橘 隆 一、江口文 陽、大林宏也	2014 年	福島県南相馬市の山林における放射線量の定期 測定結果ー2014~2014 年の継続調査ー.	第 4 回中部森林学会大会 (於: 名 古屋大学)
31-3	上原 巖、瀬 山智子、中村 幸人、橘 隆	2014 年	キノコの廃オガ炭を用いた除塩、除染試験.	第 4 回中部森林学会大会 (於: 名 古屋大学)

	一、江口文陽、大林宏也			
31-3	森高一他、	2015 年 3 月	福島の再生と ESD	日本環境教育学会
31-3	深井和彦他	2013 年 6 月 5 日	下仁田町における放射能除染活動、	環境放射能除染学会・第 2 回研究 発表会 東京
31-3	須藤 竜之介、 佐藤 大輔、 高野 裕治、 持田 岳美、	2015 年	災害時電話安否確認における発信者のストレスと対策法の検討、	日本心理学会 第 79 回大会
31-3	倉石政彦他	2013 年 6 月 5 日	放射能汚染土壌の地域差～粒子径と放射能比～	環境放射能除染学会・第 2 回研究 発表会 東京
31-3	藤本登、藤木 卓、上野耕史	2013 年 8 月 17 日	技術ガバナンスから見た原子力に対する中学生の意識調査、	日本エネルギー環境教育学会第 8 回全国大会、島根大学
31-3	藤本登、藤木 卓、上野耕史	2013 年 8 月 24 日	中学生の「エネルギー変換に関する技術」に関わるガバナンス能力の調査結果報告、	日本産業技術教育学会第 56 回全 国大会、山口大学
31-3	野口普子・松 村健太・山越 健弘	2014 年 9 月 10- 12 日	東日本大震災後の精神健康の回復に関する縦断的研究	日本心理学会・日本心理学会第 78 回大会・
31-3	小森次郎	2016 年 5 月 22 日	「ジオ」と「エネ」の視点による福島県浜通り地域のスタディーツアー」参考 URL https://confit.atlas.jp/guide/event- img/jpgu2016/G03-06/public/pdf?type=in	日本地球惑星科学連合 2016 年大 会
31-3	—	2015 年 4 月	子どもと築く復興まちづくり 協働プロジェクトについて こどもにやさしい復興まちづくり・基調講演、こども環境学研究 11(1) 18-19、	
31-3	—	2015 年 9 月	大槌さとやままるごとプレーパークの試み、日本建築学会学術講演梗概集、133-134、	

複合 31-3 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	日本環境教育 学会	2011 年 7 月	http://www.jsoee.jp/npp-and-ee	

複合 3 1－3（8）データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	群馬県教育委員会	2011 年	保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等 における放射線量測定結果	

複合 3 1－3（9）その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-3	日本環境教育学会	2014 年 3 月	「原発事故のはなし」授業案作成ワーキンググループ、授業案 原発事故のはなし	国土社
31-3	—	—	現在、5 の内容を日本エネルギー環境教育学会に投稿中	

分野：社会学

担当：廣瀬 真理子

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	近本聡子	2012 年 8 月	福島県双葉町民を支援するさいたまコープ——子育て層避難者への支援を紹介—— 別タイトル/雑誌名 生活協同組合研究 号数/シリーズ 439 備考 特集 震災2年目, 協同と葛藤 保管場所 生協総合研究所	公益財団法人 生協総合研究所
4	「社会と基盤」研究会編,	2012 年	『東日本大震災クロニクル 2011. 3. 11-2011. 5. 11——別刷報告書』「社会と基盤」研究会.	
4	「被災地域コミュニティの復興と再生」研究会	2015 年	『被災地域コミュニティの復興と再生』第 29 回 ニッセイ財団助成研究ワークショップ	
4	K. Yamaguchi	2014 年	An Intimate Interpersonal Ties Approach to Earthquake Disaster Volunteer Activities”, Sociology in the Post-Disaster Society, JSPS 科研費(A)「東日本大震災と日本社会の再建」, pp. 33-49.	
4	Study Group on Infrastructure and Society ed.,	2014 年	Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan (災害・基盤・社会—東日本大震災から考える), No.1-4 (合本), Study Group on Infrastructure and Society.	
4	安渡町内会防災計画づくり検討会	2013 年 3 月	『安渡地区津波防災計画—東日本大震災の教訓を次世代に継承する』	
4	関礼子・廣本由香編	2013 年	『とすのつむぎ』	
4	関礼子・廣本由香編	2013 年	『とすのうた』	

4	関礼子編	2013 年	『大規模複合災害研究 1』(2012 年度科研費研究成果報告書)	
4	関礼子編	2013 年	『大規模複合災害研究 1』(2012 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書 課題番号 24330161 代表・関礼子).	
4	関礼子編	2013	『被災・避難生活を写真で語る 福島県楢葉町、私たちのいま』	
4	原口弥生	2013 年	『茨城県内における広域避難者アンケート結果報告書』	茨城大学人文学部市民共創教育研究センター
4	原口弥生	2015 年	『茨城県内における広域避難者アンケート(2014) 結果報告書』	茨城大学人文学部市民共創教育研究センター
4	後藤研究室	2014 年	社会学的映像モノグラフ(映像ドキュメンタリー作品)「つむぎ合う、未来。ーポストフクシマの新しい生き方と社会像ー」(62 分、DVD 版)	
4	黒田由彦研究室	2015 年	「脆弱性とプリペアドネス」研究会活動報告書」黒田由彦研究室	
4	黒田由彦研究室	2015 年	「女川町における防災と生活再建に関する住民意識調査報告書」黒田由彦研究室 (URL: http://kuroday.com/project.html)	
4	山本唯人編	2014 年	東日本大震災における支援活動と地域社会ー岩手県大船渡市を中心に、「社会と基盤」研究会	
4	室井研二	2016 年 3 月	南海トラフ巨大地震被災想定地域の社会構造と防災対策に関する社会学的研究	
4	西野淑美・石倉義博・平井太郎・秋田典子	2013 年 6 月	「釜石市 A 地区町内会の皆様への聞き取り調査」第 1 回調査報告書(別名『「被災住民個別の生活再建判断が生み出す地域移動・地域変容の社会学的縦断調査」報告書』) ※「A」は本来は地名だが Web 公開の可能性を鑑み伏せている ・	
4	西野淑美・石倉義博・平井太郎・秋田典子	2014 年 8 月	同第 2 回(2013 年夏)調査 報告書	
4	西野淑美・石倉義博・平井	2015 年 8 月	同第 3 回(2014 年夏)調査 報告書	

	太郎・秋田典子			
4	西野淑美・石倉義博・平井太郎・秋田典子	2016 年 8 月 予定	同第 4 回（2015 年夏）調査 報告書	
4	早稲田大学東日本大震災復興研究拠点・自然文化安全都市研究所編	2016 年 3 月	『東北復興のまちづくり報告書』	早稲田大学東日本大震災復興研究拠点・自然文化安全都市研究所
4	総務省消防庁	2014 年	『東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会』	
4	総務省消防庁	2012 年 3 月	『東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会』（中間報告）	
4	総務省消防庁	2012 年 8 月	『東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会』（最終報告）	
4	大阪商業大学 JGSS 研究センター編	2013 年	『日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS2012』 . http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2012_Codebook_Published.pdf	
4	大阪商業大学 JGSS 研究センター編,	2016 年	『日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS2015 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2015_Codebook_Published.pdf JGSS-2012 の調査結果速報 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/news/news_J12.pdf http://jgss.daishodai.ac.jp/research/news/news_J12-2.pdf	

4	東京大学	2012 年	「平成23年度文部科学省国家基幹研究開発推進事業原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ 市民参加による熟慮型地震リスク分析の社会実験研究 成果報告書」	
4	東京大学	2013 年	「平成24年度文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ 原子力施設の地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家と市民のための熟議の社会実験研究 成果報告書」	
4	東京大学	2014 年	「平成25年度文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ 原子力施設の地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家と市民のための熟議の社会実験研究 成果報告書」	
4	東京大学	2015 年	「平成26年度文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ 原子力施設の地震・津波リスクおよび放射線の健康リスクに関する専門家と市民のための熟議の社会実験研究 成果報告書」	
4	福島子ども健康プロジェクト	2013 年	『福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書』	福島子ども健康プロジェクト
4	福島子ども健康プロジェクト	2014 年	『福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書』	福島子ども健康プロジェクト
4	福島子ども健康プロジェクト	2015 年	『福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書』	福島子ども健康プロジェクト
4	福島大学災害復興研究所	2013 年	「双葉地方の住民を対象とした災害復興実態調査 基本報告書」	
4	立教大学社会学部社会調査グループ編	2014 年	『生活と防災についての仙台仙北意識調査報告書—震災被害と社会階層の関連—』	立教大学
4	関礼子・廣本	—	アンケート調査の結果は2冊の報告書にまとめ	

	由香編		た（速報・暫定版 230 頁、Web 版 22 ページ、2012 年）	
4	—	2016 年	伊方原発に対する市民運動と県内原発避難者への支援団体に関する調査報告書	愛媛大学法文学部人文学科朝井研究室
4	—	2016 年（予定）	宮古市東日本大震災記録編集委員会編『東日本大震災宮尾 k 氏の記録（第 2 巻 民俗編）』宮古市	
4	社会と基盤研究会編	2013 年 7 月	「福島原発事故後の市民社会の活動に関する団体調査単純集計表」（Web 公開、 https://sgis.soc.hit-mosQE201305q.html ）	

（2）提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	近本聡子	2014 年 9 月	マルチステイクホルダー・アプローチによる政策実現 別タイトル/雑誌名 生活協同組合研究号数/シリーズ 464 備考 特集 社会保障の変遷と課題, そして展望 ——国内外の福祉事情を踏まえつつ——	公益財団法人 生協総合研究所
4	日本学術会議・東日本大震災復興支援委員会	2014 年 9 月	「東京電力福島第一原子力発電所事故による長期避難者の暮らしと住まいの再建に関する提言」	
4	日本環境会議	2013 年 9 月 1 日	第 30 回日本環境会議宮城宣言、『環境と公害』43 巻 3 号、p. 26-27.	
4	—	—	北上町 2014 年 9 月調査報告	
4	—	2015 年 12 月	浪江町 ADR 和解案受諾勧告書 http://www.town.namie.fukushima.jp/uploaded/attachment/4488.pdf	
4	—	—	北上町 2013 年 8 月調査報告	
4	—	—	北上町 2014 年 8 月調査報告	

4	—	—	JGSS-2012 に基づく分析結果は、日本学術会議 社会学委員会東日本大震災の被害構造と日本社 会の再建の道を探る分科会の提言「原発災害か らの回復と復興のために必要な課題と組み 態勢についての提言」平成 25 年（2013 年）6 月 27 日に引用されている。2 ページ注 3 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t174-1.pdf	
4	—	—	北上町 2012 年 8 月調査報告	

（３）データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	社会と基盤研 究会編	2013 年	「福島原発事故後の市民社会の活動に関する団 体調査単純集計表」2013 年 7 月（Web 公開、 https://sgis.soc.hit-u.ac.jp/smosQE201305q.html ）	
4	—	2016 年	回答の分布：変数名索引 http://jgss.daishodai.ac.jp/surveys/sur_variables_index.html 事項索引 http://jgss.daishodai.ac.jp/surveys/JGSS%2000-15.pdf JGSS/EASS 関連文献の 8 災害 （2016 年 4 月 30 日時点；定期的に更新） http://jgss.daishodai.ac.jp/research/JGSS_bibliography_j_2016.pdf	

（４）学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	トム・ギル、 ブリギッテシ テガー、デ ービッド・ス レーター編	2013 年	「東日本大震災の人類学」, Tom Gill, Brigitte Steger, David Slater eds., Japan Copes with Calamity, Peter Lang.	人文書院

4	浦野正樹・野坂真・吉川忠寛・大矢根淳・秋吉恵,	2013 年 4 月	『津波被災地の 500 日-大槌・石巻・釜石にみる暮らし復興への困難な歩み』（早稲田大学ブックレット「震災後」に考える No. 29）125 p.	
4	鎌田薫監修、早稲田大学震災復興研究論集編集委員会編	2015 年 3 月	『震災後に考える 東日本大震災と向きあう 92 の分析と提言』	早稲田大学出版部
4	関西学院大学災害復興制度研究所	2015 年	『原発避難白書』	人文書院
4	関礼子・廣本由香編,	2014 年	『鳥栖のつむぎ——もうひとつの震災ユートピア』	新泉社
4	関礼子編	2015 年	『生きる” 時間のパラダイム—被災現地から描く原発事故後の世界』.	日本評論社
4	吉原直樹 仁平義明 松本行真編著	2015 年	『東日本大震災と被災・避難の生活記録』	六花出版
4	吉川弘之ほか	2015 年	による「特集 原発事故から 4 年—いま問われる「知の統合」 福島原発事故に対する各学会の取り組み」 日本原子力学会誌	日本原子力学会
4	金菱清	2015 年 6 月	『震災メメントモリー 第二の津波に抗して』	新曜社
4	金菱清	2016 年 2 月	『震災学入門—死生観からの社会構想』	ちくま新書
4	金菱清編	2012 年 3 月	『3. 11 慟哭の記録 - 71 人が体感した大津波・原発・巨大地震』【2013 年第 9 回出版梓会新聞社学芸文化賞】	新曜社
4	金菱清編	2013 年 3 月	『千年災禍の海辺学—なぜそれでも人は海に暮らすのか』	生活書院
4	金菱清編	2016 年 1 月	『呼び覚まされる霊性の震災学—3. 11 生と死のはざままで』	新曜社
4	佐田務	2015 年	「知の連携や協働に向けて」日本原子力学会誌	日本原子力学会

4	山口健一	2015 年	「〈つながり〉の現地変革としてのワークキャンプ」（第 5 章）、西尾雄志・日下渉・山口健一著『承認欲望の社会変革』137-168 頁	京都大学学術出版会
4	山口健一	2015 年	「ワークキャンプにおける〈公共的な親密圏〉形成」（第 6 章）、西尾雄志・日下渉・山口健一著『承認欲望の社会変革』169-202 頁	京都大学学術出版会、
4	山口健一	2015 年	「震災ボランティア」とワークキャンプ」（終章）、西尾雄志・日下渉・山口健一著『承認欲望の社会変革』204-213 頁。	京都大学学術出版会
4	成元哲・牛島佳代、松谷満、阪口祐介	2015 年	『終わらない被災の時間』	石風社
4	成元哲・牛島佳代・松谷満・阪口祐介	2015 年	『終わらない被災の時間：原発事故が福島県中通りの親子に与える影響』	石風社
4	西城戸誠・宮内泰介・黒田暁編、	2016 年	『震災と地域再生—石巻市北上町に生きる人びと』	法政大学出版局
4	町村敬志・佐藤圭一編	2016 年	『脱原発をめざす市民活動——3.11 社会運動の社会学』	新曜社
4	長谷川公一・保母武彦・尾崎寛直編	2016 年	『岐路に立つ震災復興—地域の再生か消滅か』	東京大学出版会
4	長泥記録誌編集委員会編	2016 年	「もどれない故郷ながどろ——飯舘村困難区域の記憶」	芙蓉書房
4	—	2014 年	『原子力総合年表—福島原発震災に至る道』	すいれん舎

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	Iwai, Noriko and Shishido, Kuniaki	2014 年 7 月 2 日	“The Impact of the Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi Nuclear Accident on People’ s Perception of Disaster Risks and Attitudes Toward	

			Nuclear Energy Policy, “Asian Journal for Public Opinion Research, 2(3):172–195. http://dx.doi.org/10.15206/ajpor.2015.2.3.172	
4	KIYOSHI KANEISHI		The Inner Shock Doctrine: Life Strategies for Resisting the Second Tsunami p24–41 Social Theory and Dynamics vol.1	Institute on Social Theory and Dynamics
4	MACHIMURA Takashi,	2011 年	“Chronicle of a Disaster: Understanding How Multiple Disasters are Constructed in the Time and Space of Events,” Disaster, Infrastructure and Society: Learning from 2011 Earthquake in Japan, Study Group on Infrastructure and Society, No.1, pp.6–10 (Available at https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/22111).	
4	SATOH, Keiichi, Atsushi OKADA, Sunmee KIM, Jiyoung KIM, Reeya KOMODA, Tomoyuki TATSUMI, Uichi TAN, and Takashi MACHIMURA ,	2015 年	“Reshaping the Nuclear Energy Policy Domain: The Japanese Anti-nuclear Movement after the Fukushima Nuclear Power Plant Accident”, in Grant-in-Aid for Scientific Research(A) Reconstruction from the disaster project eds., Sociology in the Post-Disaster Society: Reconstruction from the Great East Japan Earthquake: The Road to Overcome the Earthquake, Tsunami, and Nuclear Disaster, pp.178–199.	
4	UEDA, Takefumi,	2013 年	“The Great East Japan Earthquake and Responses from Civil Engineering, Urban Planning, and Architecture Industry: Reconsidering Tokyo as a Center of Expertise,” Disaster, Infrastructure and Society: Learning from 2011 Earthquake in	

			Japan, Study Group on Infrastructure and Society, No. 4, pp. 22-29, (Available at http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/25617).	
4	浦野正樹	2014 年 5 月	「津波被災地域の復旧・復興過程における課題—災害イメージの忘却・固定化と地域生活イメージの再構築の葛藤のなかで—」『地域社会学会年報』Vol. 26, pp11-28.	
4	関礼子	2014 年	「原発事故と『住み続ける権利』」『学術の動向』19-2: 68-71.	
4	関礼子	2013 年	「『生きる力』と『こころの堤防』—東日本大震災後の環境教育と防災・減災教育」『学術の動向』18-12: 46-51.	
4	関礼子	2013 年	「強制された避難と『生活（life）の復興』」『環境社会学研究』19: 45-60	
4	浦野正樹	2013 年 3 月	「東日本大震災の災害過程にみる生活困難の諸相—過疎地域における脆弱性形成のメカニズムと復元＝回復力をめぐって—」『社会学年誌』第 54 号（早稲田社会学会）pp. 33-51	
4	浦野正樹	2014 年 3 月	「東日本大震災における災害過程と脆弱性に関する—考察—危険認知の観点から—」『早稲田大学文学研究科紀要』Vol. 59（第 1 分冊）pp. 71-86	
4	浦野正樹・岡芳明・鈴木興太郎・濱田政則	2012 年 9 月	『災害に強い社会をつくるために』（早稲田大学ブックレット「震災後」に考える No. 22）早稲田大学出版部 139 頁	
4	岩井紀子・矢戸邦章	2013 年 2 月	「東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故が災害リスクの認知および原子力政策への態度に与えた影響」『社会学評論』64（3）420-438	

			https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsr/64/3/64_420/_pdf	
4	岩間 信之, 佐々木 緑, 田中 耕市, 駒木 伸比 古, 浅川 達 人	2013 年	「東日本大震災被災地における食料品小売業の復興プロセスと仮設住宅居住者の生活環境問題」E-journal GEO Vol. 7, No. 2, pp. 178-196	
4	岩間信之・田 中耕市・浅川 達人・佐々木 緑・駒木伸比 古,	2014 年	「商業機能の郊外化と買い物環境：岩手県山田町」『地理』1月号, pp. 14-21	
4	牛島佳代、成 元哲、松谷 満、	2014 年	福島県中通り子育て中の母親のディストレス持続関連要因：原発事故後の親子の生活・健康調査から、ストレス科学研究、29、84-92	
4	金菱清	2012 年 6 月	「例外状態に抗する社会科学の構築にむけて」『社会学史研究』第 34 号特集論文「他者論——連帯と排除」p37-51	
4	金菱清著	2013 年 10 月	「震災メメントモリー「痛み温存」としての記録筆記法と死者をむすぶ回路」『震災学』3号 p176-189	
4	原口弥生	2013 年	「東日本大震災にともなう茨城県内への広域避難者アンケート調査結果」『茨城大学地域総合研究所年報』46 号、pp. 61-80	
4	後藤範章・宝 田敦史	2015 年	「原発事故契機の広域避難・移住・支援活動の展開と地域社会—石垣と岡山を主たる事例として—」『災後の社会学』第 3 号（震災科研プロジェクト 2014 年度報告書）所収	
4	佐藤章彦	2013 年	「原発避難者を取り巻く問題の構造——タウンミーティング事業の取組・支援事業からみえてきたこと」『社会学評論』64(3) 439-459	

4	山下祐介	2015 年	「東日本大震災・福島原発事故の復興政策と住民—コミュニティ災害からの回復と政策」『地域社会学会年報』27 13-26.	
4	松園祐子	2016 年	「二つのコミュニティを生きることの意味—原発避難者の事例にみる避難元コミュニティと避難先コミュニティ」『淑徳大学研究紀要』50 15-30	
4	松谷満・成元哲・牛島佳代・阪口祐介	2014 年	福島原発事故後における「自主避難」の社会的規定因：福島県中通り地域の母子調査から、アジア太平洋レビュー、11, 68-77	
4	須網隆夫	2015 年 3 月	「東日本大震災被災者支援と「法の支配」—東日本大震災復興支援法務プロジェクトの活動と浪江町—」鎌田薫監修、早稲田大学震災復興研究論集編集委員会編、『震災後に考える 東日本大震災と向きあう 9 2 の分析と提言』早稲田大学出版部	
4	成元哲	2014 年	放射能災害の子どものウェルビーイング：福島原発事故後の中通りの親子の生活と健康調査から、東海社会学会年報、6、7-24	
4	早田宰	2015 年 3 月	「コミュニティ・レジリエンスの適応可能キャンペーン—2011 年津波後の日本沿岸地域の分析」鎌田薫監修、早稲田大学震災復興研究論集編集委員会編、『震災後に考える 東日本大震災と向きあう 9 2 の分析と提言』早稲田大学出版部	
4	丹波史紀	2012 年 4 月	「福島第一原子力発電所事故と避難者の実態—双葉 8 町村調査を通して—」環境と公害, 41 巻 4 号, pp. 39-45	
4	丹波史紀	2012 年 6 月	「被災者の生活再建の課題—東日本大震災における福島原発事故の経験から—」法律時報, 84 巻 6 号, pp. 30-35,	
4	丹波史紀	2014 年 6 月	「東京電力福島第一原子力発電所事故の現状と復興に向けた課題」学術の動向, 第 19 巻第 6 号（通巻 219 号）, pp. 72-76	

4	中川武	2015 年 3 月	「文化遺産の継承とコミュニティにおける自然調和思想の再生」鎌田薫監修、早稲田大学震災復興研究論集編集委員会編、『震災後に考える東日本大震災と向きあう 92 の分析と提言』早稲田大学出版部	
4	町村敬志・佐藤圭一・辰巳智行・菰田レエ也・金知榮・金善美・陳威志	2015 年	「3.11 以後における「脱原発運動」の多様性と重層性：福島第一原発事故後の全国市民団体調査の結果から」、一橋社会科学 7, 1-32	
4	長谷川公一	2015 年	, 2015, 「被災地域コミュニティの復興と再生をどう考えるのか」『環境と公害』44-3, 30-33	
4	長谷川公一	2014 年	「3.11 災害に立ち向かうリスク下の日本の市民社会——連帯／孤立、信頼／不信の両義性」猪口孝編『現代日本の政治と外交 4 日本とドイツ——戦後の政治的変化』原書房, 90-105	
4	辻岳史	2016 年 3 月	「津波被災地域の寺社・祭礼と災害支援ネットワーク—東日本大震災・東松島市大曲浜における神社再建、祭礼再開を事例に一」、『災後の社会学』N04（科学研究費補助金（基盤研究（A）研究課題番号 24243057）研究代表者・加藤眞義）、p11-26	
4	辻岳史	2015 年 3 月	「復興プロセスへの住民参加—宮城県女川町におけるアンケート調査から」、『日本災害復興学会 2015 東京大会講演論文集』、p18-21	
4	辻岳史	2015 年 9 月	「仙台平野型混住地域におけるコミュニティの再編と機能回復—東日本大震災・宮城県東松島市の事例から」『名古屋大学社会学論集』34、p1-32.	
4	土屋智子・上田昌文・松浦正浩・谷口武俊、	2016 年	科学の不定性と専門家の役割：原子力施設の地震・津波リスクと放射線の健康リスクに関する専門家間の熟議の試みから、科学技術社会論研究, No. 12, pp. 227-241	

4	平井太郎	2015 年	「『集合性』をめぐる豊かさ：『見えない』復興から学ぶ」『NETT』87、pp. 27-31	
4	堀久美	2016 年	「被災地の女性が担った“炊き出し”の意義と課題：女性たちへのインタビュー調査より」女性学研究 23 84-108	
4	野坂真・浦野正樹	2015 年 3 月	「津波避難地域の安全対策と地域社会の持続可能性」鎌田薫監修『震災後に考える』早稲田大学出版部 pp. 129-140.	
4	—	2013 年	放射能と「周辺地域の知恵」民博通信 139 巻 14-15, 2013 年	
4	—	2014 年	Radiation and Responsibility: What is the Right Thing for an anthropologist to do in Fukushima? Japanese Review of Cultural Anthropology Vol. 151-163	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	IWADATE, Yutaka,	2015 年 8 月 27 日	“Reconfiguration of Things Driven Transgression: Case Study on Crisis of Water Supply in Tokyo,” International Sociological Association Research Committee 21 International Conference on the Ideal City: between Myth and Reality, Urbino: University of Urbino	
4	HASEGAWA Koichi,	2014 年 7 月 14 日	“Thinking on a Recovering Process from the 3.11 Disaster,” Japanese Thematic Session 1, Natural/Human Disasters and the Recovery of the Local Society,	The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan
4	IWAI, Noriko, and SHISHIDO, Kuniaki	2014 年 7 月 12 日	“The Impact of Fukushima Daiichi Nuclear Accident on People’s Attitudes Toward Nuclear Energy Policy: Silent Movement, “ Pre-Congress Conference in Yokohama, Japan, XVIII ISA World Congress	

			of Sociology, RC24 Session: Regular Session [Part 1]	
4	Miyauhi, T.	2015 年 10 月 31 日	"Community as the resilient factor?: The diverse role of communities in the recovery process from the 2011 tsunami in Japa" (口頭発表)	5th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia
4	Miyauhi, T.	2013 年 8 月 30 日	"Common property systems and resilience following disasters: case study of tsunami-hit villages in Kitakami area of Miyagi, Japan" (口頭発表),	ESA (European Sociological Association)
4	原口弥生	2012 年 12 月 2 日	「広域避難者の生活実態と支援ニーズ～茨城県避難者アンケート調査結果報告」	環境社会学会第 46 回大会
4	後藤範章		「原発避難者の生活再編と地域再生(4)ーベクレルフリーを求めて東京圏から避難・移住する人々ー」	日本社会学会第 89 回大会, 九州大学,
4	長谷川公一	2015 年	, 2015, 「被災地域コミュニティの復興と再生をどう考えるのか」『環境と公害』44-3, 30-33	
4	長谷川公一	2014 年	「3.11 災害に立ち向かうリスク下の日本の市民社会——連帯／孤立、信頼／不信の両義性」猪口孝編『現代日本の政治と外交 4 日本とドイツ——戦後の政治的変化』原書房, 90-105	
4	土屋智子	2012 年 11 月 18 日	原子力施設の耐震問題にかかわる科学的不確実性と共同事実確認の課題	科学技術社会論学会第 11 回年次研究大会
4	土屋智子	2014 年 11 月 16 日	専門家が真に語り合う場は可能か～原子力施設の地震・津波リスクに関する専門家間の議論の場の試み～	科学技術社会論学会第 13 回年次研究大会
4	徳田剛	2015 年 3 月	「災害時のペット同伴避難者への支援体制構築に向けてー東日本大震災時の新潟での取り組み事例よりー」	ヒトと動物の関係学会第 21 回学術大会
4	徳田剛	2016 年 3 月	「ペット飼育者と非飼育者の” 架橋” に向けた一試論ーペット同行避難の現場での” 語り” を題材にー	ヒトと動物の関係学会第 22 回大会

4	徳田剛・亀田由香利・斎藤文江	2015 年 9 月	「被災地における『ペット共生型』の住環境構築に関する考察-宮城県仙台市の避難所・仮設住宅・復興住宅の事例から-」	日本都市社会学会第 33 回大会
4	堀久美	2015 年 5 月 17 日	「被災地の女性が行った“炊き出し”の意義と課題」	日本女性学会
4	堀久美	2016 年 6 月 19 日	「震災経験を記録する女性の活動の意義と課題」	日本女性学会
4	—	—	福島県中通りの子育て中の母親のディストレス持続関連要因 —原発事故後の親子の生活・健康調査から—	
4	—	—	福島原発事故後における「自主避難」の社会的規定因—福島県中通り地域の母子調査から	
4	—	—	Risk, the fear of risk, and the risk of the fear of risk: The Bureaucratic response to radiation in contemporary Fukushima..	Presentation at Shiga University Symposium on Risk
4	西野淑美	2015 年 5 月 10 日	「岩手県釜石市 A 地区住民が語る住まいの見通し—東日本大震災後の質的縦断調査より—」地域社会学会第 40 回大会	

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	「社会と基盤」研究会	2011 年 11 月	「社会と基盤」研究会 HP (https://sgis.soc.hit-u.ac.jp/index.ja.html)	
4	浦野正樹	2015 年 4 月	http://www.waseda.jp/prj-sustain/Kaken2012-14/Kaken2012-14title.html 早稲田大学地域社会と危機管理研究所・2015 年 4 月	
4	関礼子研究室	2012 年 11 月	http://www2.rikkyo.ac.jp/web/reiko/lspcd/	
4	早稲田大学東日本大震災復興研究拠点・	2011 年 6 月	http://www.tohoku-waseda.jp	

	自然文化安全 都市研究所			
4	大阪商業大学 JGSS 研究セ ンター編	2013 年	『日本版 General Social Surveys 基礎集計 表・コードブック JGSS2012』 . http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2012_Codebook_Published.pdf 	
4	大阪商業大学 JGSS 研究セ ンター編	2016 年	『日本版 General Social Surveys 基礎集計 表・コードブック JGSS 2015』 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/codebook/JGSS-2015_Codebook_Published.pdf	
4	東京大学政策 ビジョン研究 センター	2014 年	http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/riskcafe/index.html	
4	日本環境教育 学会		http://www2.rikkyo.ac.jp/web/reiko/lspcd/ 、関礼子研究室、2012 年 11 月	
4	福島子ども健 康プロジェクト	2015 年	http://www.fukushima-child.org	
4	—	—	http://www.aesj.net/document/atomos-201503mokuji.pdf 	
4	—	—	https://sgis.soc.hit-u.ac.jp/index.ja.html 、「社会と基盤」研究 会、2011 年より継続	
4	—	—	JGSS-2012 の調査結果速報 http://jgss.daishodai.ac.jp/research/news/news_J12.pdf http://jgss.daishodai.ac.jp/research/news/news_J12-2.pdf	
4	—	—	http://imugensya.blogspot.jp/2016/03/blog-post.html	
4	—		日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室のウ ェブサイト (http://n510.com)	
4			http://www.fukushima-child.org/	

4			http://apjjf.org/2013/11/49/Shoji-Masahiko/4046/article.html http://www.nippon.com/ja/in-depth/a04304/	
---	--	--	--	--

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	社会と基盤研究会編	2013 年 7 月	「福島原発事故後の市民社会の活動に関する団体調査単純集計表」 (Web 公開 https://sgis.soc.hit-u.ac.jp/smosQE201305q.html)	
4	檜葉町・大規模複合災害研究グループ	2012 年 11 月	「警戒区域見直しにともなう檜葉町住民調査」調査報告書 (速報・暫定版)」 http://www2.rikkyo.ac.jp/web/reiko/lspcd/results/_asset/pdf/naraha_100.pdf	
4	—	2013 年 9 月	気仙沼復興塾編『世界のスローシティ (海沿いのまち) 比較研究レポート—世界のスローシティ気仙沼へ向けて—』、早稲田大学	

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
4	「社会と基盤」研究会	2011 年 12 月	Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan, No.1 (Special Issue: The Great East Japan Earthquake Chronicle) (https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/22085 、一橋大学機関リポジトリ)	
4	「社会と基盤」研究会	2013 年 3 月	Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan, No.5 (Special Issue: Disaster in Transition: Displacement and Networked Assistance in the 2011 East Japan Tsunami) (https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/22085 、一橋大学機関リポジトリ)	

			u. ac. jp/rs/handle/10086/27174 一橋大学機関 リポジトリ)	
4	「社会と基 盤」研究会	2013 年 3 月	Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan, No.4 (Special Issue: Disrupted Tokyo) (https://hermes-ir.lib.hit- u. ac. jp/rs/handle/10086/25611、一橋大学機 関リポジトリ)	
4	「社会と基 盤」研究会？	2012 年 12 月	Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan, No.2 (Special Issue: An Interdisciplinary Dialogue on Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Disaster in Japan, No.3 (Special Issue: The Logic of Cascading: Infrastructural Perspectives on Post- disaster Situation) (https://hermes- ir.lib.hit- u. ac. jp/rs/handle/10086/25356、一橋大学 機関リポジトリ)	
4	関礼子	2013 年 3 月	「〈災害と環境教育〉コメント 災害文化・調 査・故郷と ESD」(コメンテーター)日本学 術会議公開シンポジウム「災害と環境教育—内 発的な ESD からの復興の道筋の展望」	日本学術会議
4	山本薫子 高 木竜輔 佐藤 章彦 山下祐 介	2015 年	『原発避難者の声を聞く』岩波ブックレット No. 927	
4	東大社研・中 村尚史・玄田 有史(編)	2014 年 12 月	『〈持ち場〉の希望学 釜石と震災、もう一つ の記憶』東京大学出版会、担当:第 9 章「『住 まいの見通し』はなぜ語りづらいのか」(西野 淑美執筆)、第 10 章「『住まいの選択』をめぐる 困難さ」(石倉義博執筆)	

4	國學院大學研究開発推進センター編	2016 年	「震災復興と大槌町 文化・自然・人のつながり」	丸井工文社
4	—	—	日本政策金融公庫総合研究所編『調査月報』2013 年 1 月～3 月号に調査結果を掲載。「JGSS でよむ日本人の意識と行動 第 1 回：東日本大震災が仕事に与えた影響」「第 2 回：東日本大震災の寄付行動とボランティア活動」「第 3 回：節電行動と再生可能エネルギーの利用状況」	
4	—	—	研究会として下記の、英文逐次刊行物を作成し、一橋大学機関リポジトリ上で一般公開した。DISASTER, INFRASTRUCTURE AND SOCIETY: Learning from the 2011 Earthquake in Japan, No. 1 (2011)–5 (2015) 継続中 http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/22084	
4	—	—	「避難指示解除後の檜葉町における町民の復興と将来に関する意識調査」町民向け報告書 (6 と同じ内容のもの)	

複合 3 1－4 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	稲場圭信	2015 年 4 月	「自治体と宗教施設との災害協定に関する調査報告」『宗教と社会貢献』第 5 巻第 1 号, 71-86 頁.	
31-4	福田充・宮脇健	2013 年	福島第一原子力発電所事故に対する原発周辺住民の意識に関する実証研究	日本大学福田充研究室・宮脇健研究室
31-4	—	2015 年 3 月	「東北の観光復興に関する研究（2014 年度自主研究）」	公益財団法人日本交通公社
31-4	—	—	http://www.cneas.tohoku.ac.jp/staff/takakura2/shinsai/report.html	

複合 31-4 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	(稲場圭 信?)	2014 年 10 月 26 日	「災害時に寺社活用急増」朝日新聞（大阪本 社）	
31-4	(稲場圭 信?)	2014 年 11 月 17 日	「近所の寺社災害時の安心」朝日新聞（大阪本 社）	
31-4	稲場圭信	2013 年	「大災害にむけた平常時のそなえ」	『中外日報』（論・談）
31-4	山野直樹	2015 年	リスクコミュニケーション再考－原子力リスク ミの再構築、日本原子力学会誌 57[2], pp. 109-113	
31-4	山野直樹	2015 年	リスクコミュニケーション再考－原子力リスク ミの再構築、、日本原子力学会誌 57[2], pp. 109-113	

複合 31-4 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	(稲場圭 信?)		http://relief- map.jimdo.com/%E7%81%BD%E5%AE%B3%E6%95%91% E6%8F%B4%E3%83%9E%E3%83%83%E3%83%97/	

複合 31-4 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	Mikihito Tanaka	2015 年	‘Agenda building intervention of socio- scientific issues: A Science Media Centre of Japan perspective,’ Yuko Fujigaki (ed.) “Lessons from Fukushima: Japanese Case Studies on Science, Technology and Society” Springer	
31-4	N. Yamano	2016 年	“A Community-based Risk Communication Approach on Low-Dose Radiation Effect,” “Earthquakes, Tsunamis and Nuclear Risks:	

			Prediction and Assessment Beyond the Fukushima Accident,” (Ed. K. Kamae), Part IV, Chapter 13, 171-177, Springer, ISBN 978-4-431-55822-0.	
31-4	玄田有史	2015 年	『危機と雇用 災害の労働経済学』	岩波書店
31-4	稲場圭信	2011 年 11 月	『利他主義と宗教』	弘文堂
31-4	稲場圭信・黒崎浩行編著	2013 年 4 月	『震災復興と宗教』	明石書店
31-4	高倉浩樹・滝澤克彦編	2014 年	『無形民俗文化財が被災すること 東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌』	新泉社
31-4	小川明子	2016 年	『デジタル・ストーリーテリング』	リベルタ出版

複合 3 1-4 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	稲場圭信	2015 年	「自治体と宗教施設との災害協定に関する調査報告」, 『宗教と社会貢献』 第 5 巻第 1 号, 71-86 頁.	
31-4	稲場圭信	2012 年 9 月 1 日	「東日本大震災における宗教者と宗教研究者」 『宗教研究』 373 号 29-52 頁	
31-4	宮脇健	2014 年	「政府の原発事故対応と原発立地自治体住民の 原発態度に関する考察」 『政経研究』 50 (3) 681-717	
31-4	篠田佳彦, 山野直樹	2015 年	敦賀市における放射線とリスクに関する意識調査, 日本原子力学会和文論文誌 14 [2], pp. 95-112, doi:10.3327/taesj.J14.018	

複合 3 1-4 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	Hara, Hiroko	2016 年 2 月 16 日	“Women Pioneers in DRR: Diversity and Risk Governence.”	the 27th ISS Symposium

31-4	N. Yamano	2015 年 10 月 1-5 日	“A Community-based Risk Communication Method for Nuclear Applications,”	Asia-Pacific Science, Technology and Society Network Biennial Conference, Disaster, Controversies and Public Engagement, Kaohsiung, Taiwan
31-4	Naiwen H. and Tanaka M	2016 年	“The Parallax View on Fukushima: A Comparative Analysis of 3/11 Anniversary Coverage in Japan”	IAMCR, Leicester, UK. (Conference Paper)
31-4	Osawa, Mari	2015 年 3 月 20 日	“Challenges in Supporting Employment and Promoting Industries in Tohoku.	” the 28th International Conference of JSAC (Japan Studies Association of Canada).
31-4	Rantasila, A. , Hong, N., Tanaka M., Valaskivi, K. , and Kunelius, R.	2016 年 6 月 13 日	“Controlling Affect in the Hybrid Media System: Articulating and Circulating Emotion during a Disruptive Media Event”	ICA 2016, ” Changes in Broadcasting and News Systems”
31-4	Shineha R., and Tanaka M	2016 年	“Resilience and the Media: Information Gap in the 3.11 Disaster News Reports”	, Workshop on Sociotechnical Resilience, Singapore, (Conference Paper)
31-4	Takeshi Miyawaki, Shinya Sasaoka	2014 年 11 月	The Fukushima Nuclear Accident and Environmental Risk: A Questionnaire Survey of Fukushima Residents	ANPOR (Asian Network for Public Opinion Research) ANNUAL Conference Asian Network for Public Opinion Research
31-4	第 1 部司会・ 表智之：細野 不二彦・森川 ジョージ・ひ うらさとる・ 信濃川日出 雄・西條充	2014 年 6 月 29 日	「マンガと震災」第 1 部「マンガ家の支援活動」／第 2 部「震災を描く」／第 3 部「全体討議」	日本マンガ学会 第 14 回大会シンポジウム

	敏, 第2部 (司会・藤本 由香里: しり あがり寿・山 本おさむ・と りみき・ヤマ ザキマリ, 第3部司会・ 藤本由香里: 全員			
31-4	稲場圭信	2011年9月 3日	「宗教の救援活動・応答—宗教者災害救援ネットワークから—」パネル「東日本大震災と宗教」	日本宗教学会第70回学術大会 (於: 関西学院大学)
31-4	稲場圭信	2012年9月 7日	「災害時における宗教者と連携の力—その意義と今後の課題—」シンポジウム「ためされる宗教の公益」	日本宗教学会第71回学術大会 (於: 皇學館大學)
31-4	稲場圭信	2015年3月 16日	「災害における宗教者の可能性」	第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム「防災と宗教」シンポジウム(於: AER TKP ガーデンシティ仙台 ホールB)
31-4	稲場圭信	2014年9月 13日	「宗教施設と自治体の災害時協力」	日本宗教学会第73回学術大会 (於: 同志社大学)
31-4	宮脇健・福田 充	2012年 10月6日	「民主党政権の原発対応に関する福島県被災住民の意識」	日本政治学会 研究大会
31-4	山野直樹, 泉 佳伸, 安田仲 宏, 松本義 久, 林崎規 託, 篠田佳彦	2016年3月 28日	原子力合意形成学に関する一考察(X); 地域参画型リスクコミュニケーション: 低線量放射線健康影響に対する社会実装	日本原子力学会 2016年春の年会 (東北大学) 3B06、

複合31-4(7)ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-4	—	—	メディアコンテ（デジタル・ストーリーテリング プロジェクト作品アーカイブ 2011, 2012）	
31-4	—	—	https://www.jtb.or.jp/wp-content/content/img/publish/bunka/bunka218_P22-25.pdf 、JTBF、2013 年 7 月	
31-4	—	—	http://www.cneas.tohoku.ac.jp/staff/takakura2/shinsai/report.html	
31-4	—	—	https://sites.google.com/site/fbnerjmap/	
31-4	—	—	http://relief-map.jimdo.com/	
31-4	—	—	www.cbriskcommunication.org	

複合 31-4（8）データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	—		https://www.facebook.com/FBNERJ/	
31-4	—		わすれん（寄託）	

複合 31-4（9）その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-4	朝日新聞（25 面）.	2015 年 1 月 12 日	「この人に聞く、放射能リスク どう向き合うか 危害回避 話し合う場を」 山野直樹	
31-4	福井新聞	2014 年 2 月 13 日	「リスク、平時に議論を」 山野直樹	
31-4	福井新聞	2014 年 1 月 31 日	「原発事故 情報正しく」 山野直樹,	
31-4	毎日新聞	2013 年 10 月 29 日	「発言、低線量被ばくどう判断」（11 面）. 山野直樹	
31-4	毎日新聞	2014 年 8 月 24 日	「不安への答え、市民と探し」（26 面）、山野直樹,	

分野：史学

担当：山川 充夫

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
5	佐藤由紀男・ 菅野文夫・安 田隼人	2012 年	『岩手県上閉伊郡大槌町被災文化財確認調査報告書』	岩手歴史民俗ネットワーク
5	高民定編	2012 年 3 月 1 日	『被災外国人住民の情報収集に関する聞き取り調査と災害情報支援の仕組み作りー浦安市と千葉市の事例調査を中心にー』	千葉大学平成 23 年度地域連携及び地域貢献に関わる助成 研究成果報告書、千葉大学
5	杉本妙子	2013 年、 2014 年、 2015 年、 2016 年	『文化庁委託事業報告書 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（茨城県）』	茨城大学
5	大野眞男・小 島聡子・齋藤 孝滋・田中宣 廣・山下暁 美・大橋純 一・竹田晃子	2013 年	『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（岩手県）報告書』	岩手大学教育学部

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

5	梶秀樹・和泉潤・山本佳世子編	2012 年	『東日本大震災の復旧・復興への提言』	技報堂出版
5	木部暢子編	2015 年	『災害に学ぶ』	勉誠出版
5	日本考古学協会東日本大震災対策特別委員会編	今年度末刊行予定	『東日本大震災に関わる日本考古学協会の取り組み』（仮題）	日本考古学協会

（５）論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
5	芳賀満	2012 年	「過去からの預言～震災にあたっての歴史学からの所感」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第 7 号, 239-241 頁.	
5	西村慎太郎	2012 年	「文書の保存を考える」『歴史評論』750 号	
5	佐藤大介	2012 年	「宮城での歴史資料保全と 3.11 大震災－震災「前」・震災「後」・これから－」『アーカイブズ学研究』第 17 号、1～22 頁	
5	佐藤由紀男・桂川いずみ	2013 年	「災害時における文化財保護について」、『静岡県考古学研究』第 44 号、63-70 頁	
5	芳賀満	2014 年	「大災害と歴史学-我々は過去から未来のために学ぶことはできるのか、あるいは東日本大災害を記録する災害モニュメントの是非」『七隈史学』（福岡大学人文学部歴史学科紀要）大 16 号, 1-42 頁.	
5	掲載	2014 年	『考古学研究』第 61 巻第 2 号	考古学研究会
5	西村慎太郎	2016 年	「民間所在資料の課題と情報化」, 『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集』第 6 号	

（６）学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

5		2016 年		日本考古学協会第 78 (2011 年) ～ 82 回総会研究発表
---	--	--------	--	--------------------------------------

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
5			シンポジウム資料集の公開 http://www013.upp.so-net.ne.jp/kouken/reikai-kansai.html	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 3 1-5 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-5	稲葉政満	2013 年	『被災紙史料の超音波処理が紙の劣化に及ぼす 影響 第 44 回三菱財団研究・事業報告書』	三菱財団

複合 3 1-5 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-5	日高真吾編	2012 年	『記憶をつなぐ——津波被害と文化遺産』	千里文化財団
31-5	日高真吾	2015 年	『災害と文化財——ある文化財科学者の視点から』	千里文化財団

複合 3 1-5 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考

31-5	李 壇、稲葉 政満、久利元昭	2013 年	「海水で被災した紙資料の洗浄とその保存性評価」『文化財保存修復学会誌』第 56 号、73-80 頁	
31-5	日高真吾	2014 年	「有形文化遺産のレスキュー」『アジアにおける博物館・博物館学の「いま」ーモンゴル、ミュージアム・クリタイ』 115-125 頁	モンゴル国立文化遺産センター
31-5	日高真吾	2015 年	「大規模災害における文化財レスキュー事業に関する一考察ー東日本大震災の活動から振り返るー」『国立民族学博物館研究報告』第 40 巻第 1 号、1-52 頁	国立民族学博物館
31-5	日高真吾	2015 年	「東日本大震災で被災した民俗文化財の脱塩処理に関する一考察」『民具研究』第 152 号、99-114 頁	日本民具学会

複合 3 1-5 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-5	金森絵里	2012 年 8 月	Accounting for Nuclear Power in Japan	17th REFORM Group Meeting

複合 3 1-5 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-5		2012 年	人間文化研究機構 http://pj.ninjal.ac.jp/shinsai/b1	

分野：地域研究

担当：山川 充夫

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6		2011 年	『東北地方太平洋沖地震後の陸中海岸地域における観光資源の状況把握調査報告書』	(財)日本交通公社
6	高倉浩樹・滝澤克彦・政岡伸洋	2012 年	『東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査 2011 年度報告集（東北アジア研究センターシリーズ 5 号）』	東北大学東北アジア研究センター
6	高倉浩樹編	2012 年	『東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査 2011 年度報告－宮城県地域文化遺産復興プロジェクト』	平成 23 年文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」東北大学北東アジア研究センター
6	高倉浩樹・滝澤克彦	2013 年	『東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査 2012 年度報告集（東北アジア研究センターシリーズ 9 号）』	東北大学東北アジア研究センター
6	東日本大震災女性支援ネットワーク	2013 年	『東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書 東日本大震災女性支援ネットワーク・調査チーム報告書 II』	東日本大震災女性支援ネットワーク
6			『東日本大震災で生じた地域福祉資源の実態および社会的企業化を促進する仕組みに関する調査研究事業 報告書』 http://www.personal-support.org/report/investigation.html	2014 年度一般社団法人パーソナルサポートセンター
6	東日本大震災女性支援ネットワーク		『東日本大震災における支援活動の経験に関する調査報告書 東日本大震災女性支援ネットワーク・調査チーム報告書 I』	東日本大震災女性支援ネットワーク

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

6	東日本大震災 女性支援ネット ワーク	2012 年	『国・自治体の「防災計画」への提言』	
6	東日本大震災 女性支援ネット ワーク	2012 年	『復興計画・復興政策に組み込むべき提言』	
6	代表：大西隆 東京大学教 授・日本学術 会議会長		『南海トラフ巨大地震事前対策に係わる提言』	

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6	東北大学東北 アジア研究セ ンター	2013 年から	みやしんぶんで一たべす	

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6	一般社団法人 パーソナルサ ポートセンタ ー	2012 年	『仙台市内の仮設住宅入居世帯の被災 1 年後の 状態と将来像』 http://www.personal- support.org/report/investigation.html	
6	宮城豊彦編	2012 年	『地域災害と環境脆弱性の克服（国際会議と地 域会議）』	
6	金菱 清編	2012 年	「3.11 慟哭の記録」	新曜社
6	竹沢尚一郎	2013 年	『被災後を生きる：吉里吉里・大槌・釜石奮闘 記』	中央公論新社
6	高倉浩樹、滝 澤克彦（編）	2014 年	『無形民俗文化財が被災するということ—東日 本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌』	新泉社
6	鈴木智子・阿 久津聡・コー	2014 年	『東日本大震災による日本人の寄付意識の変化 と幸福感についての研究』	吉田秀雄記念事業財団

	ルバツハフロ ーリアン			
6	高倉浩樹・滝 澤克彦編	2014 年	『無形文化財が被災するということー東日本 大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌』	新泉社
6	愛知東邦大学 地域創造研究 所編	2015 年	『〈地域創造研究叢書 23〉東日本大震災被災者体 験記』	唯学書房
6	Hiroki Takakura	2016 年	Situated Perspectives, Global Knowledge. ASA monograph 52.	London: Bloomsbury
6	長谷川公一他 編	2016 年	『岐路に立つ震災復興』	東京大学出版会
6	竹沢尚一郎編	2016 年	『ミュージアムと負の記憶』	東信堂
6	畑明郎編	2016 年	『鉱害・環境問題と東電福島原発事故』	本の泉社
6	Takezawa Shoichiro		『The Aftermath of the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami : Living among the Rubble』	Lexington, (in Press)
6	John Gledhill (Ed.)		Lessons from anthropological projects related to the Great East Japan Earthquake and Tsunami: Intangible Cultural Heritage Survey and Disaster Salvage Anthropology.	World anthropologies in Practice:

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6	柳沢英明・柳 沢緋奈子	2012 年	「東北地方太平洋沖地震津波による家屋被害と フラジリティ関数」『土木工学会論文集 B2』 1401-1405 頁	
6	Miyagi, T. et al	2011 年	「Reconnaissance report on landslide disasters in northeast Japan following the M9 Tohoku earthquake」『Landslide』第 8 巻, 339-342 頁	
6	菅野拓	2012 年	「東日本大震災避難世帯の被災 1 年後の状態と 生活再建への障壁—仙台市の応急仮設住宅入居	

			者へのアンケートに見る生活・居住・就労― 『貧困研究』第9号, 86-108 頁	
6	池田恵子	2012 年	「女性の視点による被災者ニーズの把握― 東 日本大震災における活動経験の聴き取り調査か ら―」『国際ジェンダー学会誌』第10号、9- 32 頁	
6	OKADA Hiroki	2012 年	「An Anthropological Examination of Differences between the Great East Japan Earthquake and the Great Hanshin Earthquake」『Asian Anthropology』第11 巻、55-64 頁	
6	竹沢尚一郎	2013 年	「津波の破壊に抗する被災コミュニティ」『国 立民族学博物館研究報告』第37巻第2号, 127-197 頁	
6	吉井美知子	2013 年	「日本の原発輸出―ベトナムの視点から―」 三重大学国際交流センター編『三重大学国際交 流センター紀要』Vol.8, 津、pp.39-53	
6	Miyagi, T. et al	2013 年	「The protective role of mangroves and other coastal forests against tsunami damage: Lesson learned from case studies of two tsunamis」『Global Environmental research』第17巻, 247-254 頁	
6	磯望・黒木貴 一・後藤健 介・宗建郎・ 黒田圭介	2013 年	「東北地方太平洋沖地震津波による宮城県の津 波被害地域の特徴とその後の変化」『西南学院 大学人間科学論集』第8巻第2号, 185-213 頁。	
6	菅野拓	2014 年	「東日本大震災における被災者支援団体の収入 構造」『地域安全学会論文集』第24号, 263- 271 頁	
6	池田恵子、八 幡悦子、ゆの まえ知子・柘 植あづみ・吉 浜美恵子	2014 年	「特集、災害時におけるジェンダーに基づく暴 力」『国際ジェンダー学会誌』第12号、5-50 頁	

6		2014 年	『計画行政』第 37 巻第 3 号	計画行政学会
6	菅野拓	2015 年	「社会問題への対応からみるサードセクターの形態と地域的展開—東日本大震災の復興支援を事例として—」『人文地理』第 67 巻第 4 号, 1-24 頁	
6	菅野拓	2015 年	「東日本大震災におけるサードセクターの実像と法人格」ノンプロフィット・レビュー, 15 巻 2 号, pp. 33-44 (2015)	
6	菅野拓	2015 年	「東日本大震災の仮設住宅入居者の社会経済状況の変化と災害法制の適合性の検討—被災 1・3 年後の仙台市みなし仮設住宅入居世帯調査の比較から—」『地域安全学会論文集』第 27 号, 47-54 頁.	
6	吉井美知子	2016 年	「日本の原発は輸出先でどのように見られているのか—ベトナム、ニントゥアン省および周辺出身者への聴き取り調査より—」『沖縄大学人文学部紀要』第 18 号、11-24 頁	
6	磯望		「防災対策を考慮した九州におけるこれからの地域づくりや社会資本整備の視点」『九州技法』第 50 号, 101-104 頁	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6	Kimura, M	2012 年 1 月 21 日	The Great Earthquake and the Media – NAB–Japan’ s Report on the Role of Broadcasting in the Great Earthquake	Media Concentration around the World : Analyses towards Conclusions, Columbia Institute for Tele–Information, Institute of Information Security, Institute of Information Security, Yokohama.

6		2012 年 11 月 27 日	Vai trò của các tổ chức xã hội trong giải quyết vấn đề trẻ em đường phố ở Thành phố Hồ Chí Minh, (The Role of Social Organizations in Resolving Street Children Problem in Ho Chi Minh City)	The Fourth International Conference on Vietnamese Studies (Hanoi)
6		2012 年 12 月 1 日	日本の原発輸出は開発と呼べるかーベトナムの事例よりー	国際開発学会第 23 回全国大会 (神戸) 企画セッション「原発震災から再考する開発・発展のあり方」
6		2013 年 6 月 2 日	日本からベトナムへの原発輸出が内包する差別構造と研究者の役割	東南アジア学会第 89 回研究大会 (鹿児島) パネル 4 「日本からベトナムへの原発輸出ー開発・市民社会・研究者」
6		2013 年 8 月 12 日	Vai trò của các tổ chức xã hội dân sự trong việc chăm sóc và bảo vệ trẻ em ở Việt Nam - Hướng cải cách và kinh nghiệm từ Nhật Bản -, (The Role of Civil Society Organizations in Caring and Protecting Children in Vietnam - Reform Tendency and Experiences from Japan -)	Summer Seminar “Wither reforms in Vietnam ?” at Singapore Management University
6	Takezawa Shoichiro	2014 年 5 月 15 日	Positive or Negative?	IUAES, 2014
6		2014 年 8 月 14 日	Export of Japanese Nuclear Power Plant or Structure of Discrimination - Case of Vietnam-	IPRA 2014 in Istanbul, Turkey, 25th General Conference of International Peace Research Association, Ecology and Peace Commission
6	石山雄貴	2014 年 9 月	教師が復興の当事者性を獲得していく過程とその意義-石巻市雄勝地区のある教員を事例として-	第 25 回日本環境教育学会大会
6		2014 年 9 月 16 日	Social Abuse of Children and the Role of Civil Society Organizations in Japan - Case Study of Fukushima -,	XXth IsPCAN (International Congress on Child Abuse and Neglect) in Nagoya, OS-4A : Children and Disasters,

6	Fang HE	2014 年 11 月 1 日	Changes in Population Movement and Employment after the Great East Japan Earthquake	The 14th International Convention of the East Asian Economic Association (EAEA), Chulalongkorn University (Bangkok).
6		2014 年 11 月 2 日	Government Attitude for Child Protection in Vietnam—Comparative Analysis on Agent Orange and Radiation —	“Agent Orange and the Politics of Poisons” International Conference 2014, Okinawa Christian University
6	菅野拓	2015 年 3 月 28 日	東日本大震災におけるアソシエーションの支援実態と被災地域	日本地理学会 2015 年春季学術大会
6		2015 年 6 月 18 日	世論調査が行われない国の世論調査—ベトナム、ニントゥアン省周辺出身者に聴く原発計画への意見—	東南アジア学会関西例会「ベトナム特集」（京都）
6		2015 年 7 月 18 日	日本の原発輸出—ベトナム・立地地元住民への人権侵害に関する考察	
6		2015 年 7 月 25 日	Vai trò của chính phủ Việt Nam trong việc chăm sóc và bảo vệ trẻ em - So sánh hậu quả chất độc da cam-dioxin với phóng xạ -, (The Role of government of Vietnam in Caring and Protecting Children - Comparison between agent orange and radiation -	Summer Seminar “Vietnam, after 40 years ” at Humboldt University, Berlin, Germany
6	石山雄貴	2015 年 8 月	ESD としての復興教育の意義と可能性	第 26 回日本環境教育学会大会
6		2015 年 10 月 31 日	Export of Japanese Nuclear Power Plant - Destruction and Desecration of Indegenous Cham People’ s Faith-	“Discourse of Development, Destruction and Desecration : Studies in the Manipulation of Nature” International Symposium 2015, Okinawa Christian University

6		2016 年 3 月 5 日	ベトナムの NPO による子どもの保護—枯葉剤・ ストリートチルドレン・放射能の冠する活動の 自由度についての考察とシミュレーション—	日本 NPO 学会第 18 回年次大会 (京都)
6	黒木貴一・磯 望・後藤健 介・宗建郎・ 黒田圭介	2014 年 3 月 27-28 日	仙台・石巻平野の津波による生垣の被害と経過	日本地理学会春季学術大会, (ポ スター発表)
6		2014 年 6 月 21 日	原発震災から再考する開発教育—三重県・芦浜 フィールドスタディを事例に—	国際開発学会第 15 回春季大会、 セッション 8 (企画) 「原発震災 より開発実践・研究を再考する」
6	芳賀麻誉美・ 鈴木智子・阿 久津聡・ Florian Kohlbacher	2014 年	相互独立的—相互協調的自己観からみた寄付行 動の文化差	日本マーケティング・サイエンス 学会 第 96 回研究大会
6			パッケージ企画「日本の原発輸出計画と輸入側 社会への影響—アジアの事例を中心に」	
6				日本平和学会 2015 年度春季研究 大会 (広島) 報告

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6		2011 年～	東日本大震災女性支援ネットワーク http://risetogether.jp.org/?cat=10	
6			www.bbb-fukushima.org	
6			http://ci.nii.ac.jp/naid/110009586743	
6			https://www.jtb.or.jp/report/reconstruction-004	
6			http://mukeidb.cneas.tohoku.ac.jp/TopPage	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
6	東日本大震災 女性支援ネッ トワーク	2012 年	こんな支援が欲しかった！～現場に学ぶ、女性 と多様なニーズに配慮した災害支援事例集	

複合 31-6 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-6	木村幹夫、浅 利光昭	2011 年	『東日本大震災時のメディアの役割に関する総 合調査報告書』	日本民間放送連盟研究所
31-6	学校法人柊檀 学園東北福祉 大学	2012 年	『「平成 23 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「複合大規模災害地域 の高齢者福祉に関する総合的調査研究事業」』	
31-6	東日本海岸調 査委員会	2013 年	『震災後の海岸植物、海、そして人—東日本海 岸調査報告書一』 http://www.nacsj.or.jp/katsudo/higashiniho n/pdf/20130204higashinihonhoukokusyo. pd	日本自然保護協会
31-6	藤本頼生編	2014 年	『延喜式内社を中心とした神社と自然災害伝承 の宗教史的研究』	平成 24 年度～26 年度公益財団法人 三菱財団人文科学研究助成研究 成果報告書
31-6	東日本海岸調 査委員会	2014 年	『東日本海岸調査報告書』 http://www.nacsj.or.jp/katsudo/higashiniho n/pdf/touhoku_kaigan2013_fin2. pdf	日本自然保護協会
31-6	黒木貴一	2014 年	『都市域における時空間情報を用いた氾濫原の 特性評価の研究』	平成 23～25 年度科研費基盤研究 一般 (C) 研究成果報告書
31-6	小岩直人	2016 年	『2011 年東北地方太平洋沖地震津波による地形 変化と再生過程』	科学研究費助成事業研究成果報告 書
31-6			『2014 年度、2015 年度福島プロジェクト報告 書』	学振萌芽研究研究報告書

複合 31-6 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-6	日本自然保護協会	2012 年	『海岸堤防・防潮堤復旧事業と海岸防災林復旧事業に関する意見書』	日本自然保護協会
31-6	岩船昌起他 13 名	2013 年	『「東日本大震災における仮設住宅の生活環境と住民の健康—パーソナル・スケールでの実証的研究に基づく提言」 E-journal GEO Vol. 8(1) 184-191。 https://www.jstage.jst.go.jp/article/ejgeo/8/1/8_184/_pdf	日本地理学会 年春季学術大会シンポジウム、
31-6	日本自然保護協会	2015 年	『東北沿岸部におけるエコトーン（移行帯）のレジリエンス・自然資本価値の評価と、震災復興の実践』	日本自然保護協会
31-6	日本自然保護協会	2016 年	『東北沿岸部におけるエコトーン（移行帯）のレジリエンス・自然資本価値の評価と提言』	日本自然保護協会

複合 31-6 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-6	Yuka Kaneko, T. Toyoda, and K. Matsuoka	2012 年	『Asian Law in Disaster』	Routledge
31-6	佐藤大介	2014 年	「「宮城方式」での保全活動・一〇年の軌跡——技法と組織に見る成果と課題」奥村弘編 『歴史文化を大災害 から守る 地域歴史資料学の構築』	東京大学出版会
31-6	神戸大学震災復興支援プラットフォーム編	2015 年	『神戸発・震災復興学』	ミネルヴァ書房
31-6	松岡勝実・金子由芳・飯考行	2016 年	『災害復興の法と法曹』	成文堂

31-6	岩船昌起 編	2016 年	『被災者支援のくらしづくり・まちづくり—仮設住宅で健康に生きる』	古今書院
------	--------	--------	----------------------------------	------

複合 3 1-6 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-6	金子由芳	2012 年	「産業経済復興と生業支援」『日本災害復興学会誌復興(5号)』Vol. 4, No. 1, p. 29-36.	
31-6	氷見山幸夫	2012 年	「東日本大震災を踏まえた安全安心で持続可能な国土利用への課題」『学術の動向』第 17 号第 8 号, 38-45 頁.	
31-6	木村幹夫	2012 年	「東日本大震災時にメディアが果たした役割」『情報の科学と技術』第 62 巻第 9 号、378-384 頁	情報科学技術協会
31-6	東日本大震災 調査団事務局 (編)	2012 年	「特集：東日本大震災」『国土問題』第 73 号、88 頁	国土問題研究会
31-6	金子由芳	2013 年	「災害復興計画における参加と私権—日本・タイの法制比較」『日本災害復興学会誌復興』第 8 号、37-46 頁.	
31-6	金子由芳	2013 年	「災害復興における参加の手続保障—日本・タイ・インドネシアの比較検討」『国際協力論集』第 22 巻第 2 号、1-40 頁.	
31-6	氷見山幸夫	2013 年	「2011 年東北地方太平洋沖地震津波と土地利用」『地球環境』第 18 巻第 1 号、35-44 頁.	
31-6	東日本大震災 調査団事務局 (編)	2013 年	「東日本大震災調査報告書」『国土問題』第 74 号	国土問題研究会
31-6	金子由芳	2014 年	「災害復興における国家と私権のゆくえ—東日本大震災とアジア」、小柳晴春一郎編『災害と法(法文化叢書 12 号)』	国際書院
31-6	Himiyama, Y., T.	2014 年	「The Impact of the Great East Japan Tsunami of 2011 on Land Use」『Global	

	Watanabe, K. Hara		Environmental Research』第18第2号, 191-206 頁	
31-6		2014 年	「自然災害との共存—自然災害伝承と神社由緒との関係性にみる—」古沢広祐責任編集『共存学2 災害後の人と文化、ゆらぐ世界』弘文堂、103-120 頁	
31-6	岩船昌起	2014 年	「本来の復興を成し遂げるための『政策提言』が必要」トヨタ財団広報誌「ジョイント」第14巻、8-9 頁	公益財団法人トヨタ財団
31-6	高橋信人・岩船昌起	2015 年	「東日本大震災後に建設された仮設住宅の室内気候：岩手県宮古市での通年観測に基づく温湿度の実態」『季刊地理学』第67巻1号、22-38 頁	
31-6	岩船昌起	2016 年	「東日本大震災から5年：「持続的な社会」の存立をめざして」『高等学校 地理・地図資料』2016年度1学期号3-6 頁。 https://www.teikokushoin.co.jp/journals/geography/pdf/201601g/03_hsggbl_2016_01g_p03_p06.pdf	帝国書院
31-6	大沼あゆみ、朱宮文晴	2016 年	「東日本大震災復興計画としての防潮堤と被災地復興をめぐる諸問題」村松岐夫、恒川恵市大震災に学ぶ社会科学『被害・費用の包括的把握』東洋経済新報社。	
31-6	岩船昌起他	2016 年	「東日本大震災での避難行動と避難生活—岩手県山田町の津波被災地での地理学的「震災記録」」『E-journal GEO』第11巻	
31-6			「東日本大震災支援にみる異文化交流・慈善・共生。—イスラーム系 NGO ヒューマニティ・ファーストと被災者たち—」『宗教と社会貢献』第3巻第1号、27-51 頁	

複合 31-6 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-6	阿部修人	2012 年 12 月 22 日	The Great East Japan Earthquake and its Short-run Effects on Household Purchasing Behavior	Econometric Society Asian Meeting
31-6		2013 年 12 月 6 日	神道と自然災害－神社に遺された自然災害伝承から見る－	神道宗教学会 2013 年度学術大会
31-6	黒崎浩行	2013 年 12 月 8 日	福島県南相馬市の神社における災害の記憶継承と地域再生の祈り	神道宗教学会 2013 年度学術大会
31-6	高野裕基	2013 年 12 月 8 日	東南海地震被災想定域の神社と災害伝承－水害の記録を中心に－	神道宗教学会 2013 年度学術大会
31-6	藤本頼生	2013 年 12 月 8 日	神社由緒と災害伝承をめぐる研究の課題と展望	神道宗教学会 2013 年度学術大会
31-6	半田竜介	2013 年 12 月 8 日	東日本大震災津波浸水域神社に残る災害伝承	神道宗教学会 2013 年度学術大会
31-6		2015 年 6 月 28 日	東南海・南海地震の減災における瀬戸内の役割－災害時の物流に着目して	地域地理科学会（岡山大学）
31-6	IKEDA, Keiko	2015 年 8 月	Women' s Leadership for Disaster Risk Reduction: Japanese experience since 3.11	International Workshop “Advancing Women' s Leadership and Participation in Peace-building and Disaster Risk Reduction” ,27
31-6		2015 年 9 月 4 日	非常時における行政対応：法学と経済学の共同の取り組みを通じて	仙台市メトロポリタンホテルにおいて公開シンポジウム
31-6	岩間信之、楳原京子、田中耕市、中村努、松多信尚	2015 年 9 月 18 日	救援物資輸送の地理学	日本地理学会（愛媛大学）ポスター
31-6	新田香、貴田啓子、稲葉政満、赤沼英男	2014 年	セルロースの分子量分布への次亜塩素酸ナトリウム処理の影響	マテリアルライフ学会第 25 回研究発表会（東京
31-6	H. Maeda, S. Matsuno, S. Watanabe	2016 年 7 月 24-29 日	Evaluation of “environmental reconstruction” and social networks following the Great East Japan Earthquake	第 31 回国際心理学会議（ICP2016；横浜

			through an online survey conducted in Iwate Prefecture	
31-6	鈴木智子・阿久津聡・コールバツハフローリアン	2012 年	寄付行為の文化差に関する探索的研究：日本人の寄付への動機ならびに幸福感との関係から	第 45 回消費者行動研究コンファレンス
31-6	小岩直人・葛西未央・伊藤晶文・松本秀明	2013 年 9 月	津波によって侵食された海浜地形の修復過程—2011 年東北地方太平洋沖地震津波による宮城県中部沿岸での事例—	日本地理学会
31-6	小岩直人・武田開・葛西未央・伊藤晶文・松本秀明	2015 年 3 月	宮城県野蒜海岸における 2011 年東北地方太平洋沖地震津波後の地形変化の定量的把握の試み	日本地理学会
31-6	伊藤晶文・小岩直人・武田開	2015 年	宮城県井土浦周辺における 2011 年東北地方太平洋沖地震津波後の地形変化—DEM および SfM 処理による DSM を用いた検討—	東北地理学会

複合 31-6 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-6		2011 年	国土問題研究会 http://kokudoken.lolipop.jp/oldspecial/Resume1106.pdf	
31-6		2011 年	国土問題研究会 http://kokudoken.lolipop.jp/oldspecial/Resume1112.pdf	
31-6	藤田裕嗣	2014 年	神戸大学大学院人文学研究科地理学教室 http://historicalgis.jp/	
31-6			http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/bitstream/11094/24494/1/rsc03_01-027.pdf	
31-6			http://www.tfu.ac.jp/research/earthquaq/elderly_research.html	

分野：法学

担当：佐藤 岩夫

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
7	佐藤岩夫編	2015 年	『被災地の暮らしと法律に関する意識調査（宮城県東松島市調査）基礎集計書』	調査研究グループ刊行

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
7	佐藤岩夫	2015 年	「宮城県東松島市被災者調査の結果の概要：震災から 4 年目の被災者支援の現状と課題」『総合法律支援論叢』7 号, pp. 23-56	日本司法支援センター
7	小谷眞男	2015 年	「L' Aquila 震災リスク裁判論・序説：日伊比較法研究の一素材として」, Diritto e giustizia in Italia e Giappone: problemi attuali e riforme, a cura di Andrea Ortolani, pp. 45-62	Cafoscarina
7	小谷眞男	2014 年	「イタリアにおける大規模災害と公共政策：2009 年アブルッツォ州震災の事例を中心に」『海外社会保障研究』no. 187、pp. 45-57	

7	難波知子・伊藤亜矢子・香西みどり・小谷眞男・須藤紀子・元岡展久	2016 年	「「防災・災害」を切り口とした分野横断型授業「生活科学概論」の試み：専門知識を実践活動につなげる」『人文科学研究』vol. 12、pp. 381-393	
---	---------------------------------	--------	--	--

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
7	Masao KOTANI	2013 年 6 月	“La Protezione civile e la cultura giuridica italiana” (イタリア語)	日伊比較法研究会設立大会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
7	(作成・管理) 東京大学社会科学研究所佐藤岩夫研究室	公開 2015 年	http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/survey/higashi_matsushima/index.html	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 31-7 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-7	自然由来重金属評価研究会	2011 年	『茨城県つくばみらい市みらい平ふたばランドこども園の放射性物質状況調査報告書』	

分野：政治学

担当：佐藤 岩夫

(1) 報告書

該当なし

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
8	千葉大学法経 学部総合政策 学科震災復興 インターンシ ップ	2013-2015 年	『各年次提言書』	千葉大学法経学部総合政策学科震災復興インターンシップ

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
8	辻中豊編著	2016 年	『政治過程と政策』	東洋経済新報社
8	縣公一郎・藤 井浩司編	2016 年	『ダイバシティ―時代の行政学』 (刊行予定)	早稲田大学出版部

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
8	倉阪秀史	2016 年	「災害公営住宅のコミュニティづくりをどう進めるか：陸前高田市での戸別聞き取り調査から」(特集 復興の現在位置と第2ステージ：東日本大震災から5年)『ガバナンス』(179), pp. 36-38	

8	Takashi Inoguchi	2013 年	“Japan in 2012: Voters Swing, and Swing Away Soon”, Asian Survey 53:1, pp.184-197	University of California Press
8	Takashi Inoguchi	2014 年	“Japan in 2013: Abenomics and Abegeopolitics”, Asian Survey 54:1, pp.101-112.	University of California Press
8	谷口尚子, 佐伯友美	2011 年	「都心部大規模大学の地震防災対策と学生の意識」『東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報』8, pp. 37-47	
8	大島尚, 谷口尚子	2012 年	「大学と大学生の地震防災対策」東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター編『東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報』9, pp. 83-97	
8	谷口尚子	2012 年	「大学の地震防災対策と学生の地震防災意識・行動に関する研究」研究科編『災害リスク・ソリューションに関する体系的研究 2011』, pp. 16-24	
8	寺迫剛	2015 年	「集中復興期間最終年の復興庁：「司令塔機能」から「管制塔機能」へ」『季刊・行政管理研究』150 号	(一財) 行政管理研究センター
8	寺迫剛	2016 年	「東日本大震災から熊本地震へ：「復興・創生期間」1 年目の復興庁」『季刊・行政管理研究』154 号	(一財) 行政管理研究センター
8	寺迫剛	2016 年	「危機管理政策：日本とドイツの危機管理体制の比較」縣公一郎・藤井浩司編『ダイバシティ—時代の行政学』（早稲田大学出版部、2016）第 7 章（刊行予定）	早稲田大学出版部
8	Go Terasako	2015 年	Japan's Reconstruction Agency after the Earthquake 2011: Creating Task Forces to enhance good administration	KAPAIC2015(Korean Association for Public Administration International Conference) 報告論文集

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
8	谷口尚子, 大島尚	2012 年	「大学の地震防災対策と大学生の地震防災意識・行動の計量分析」	日本行動計量学会, 新潟県立大学

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 31-8 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-8	丸岡泰・大森信治郎・清水義春 [他]	2012 年	「東日本大震災後の復興初期の石巻圏への旅行振興：旅行実態と奥尻島の防災研修事例に基づく考察（特集 東日本大震災と観光）」 『観光研究』24(1), pp. 53-56	日本観光研究学会
31-8	丸岡泰, 泰松範行	2016 年	「東日本大震災の被災地への復興ツーリズムの可能性：宮城県南三陸町の事例から（特集「里山・里地・里海の多面的機能の総合評価と豊かな海と地域づくりに向けた取り組み）」、 『日本海水学会誌』70 巻 4 号, pp. 230-237	日本海水学会

複合 31-8 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-8	パネリスト：丸岡泰, 泰松範行, 手塚崇子、コーディネー	2015 年 9 月 19 日	ニューツーリズムの可能性：災害対応教育の実践と継承	第 38 回計画行政学会大会ワークショップ

	ネーター：原 田博夫			
--	---------------	--	--	--

分野：経済学

担当：山川 充夫

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	東日本学術調査マクロ経済班	2014 年	報告書『GIS データに基づいた東日本大震災津波被害と原発事故の影響に関する推計手続きについて』 http://www.econ.hit-u.ac.jp/~makoto/DP_2014-9_data.htm	

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	日本環境会議		『提言書』	

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	慶應義塾大学 パネルデータ 設計・解析センター	2011 年	東日本大震災に関する特別調査 (Great East Japan Earthquake Special Survey)	

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	神取道宏, 澤田康幸, 塩路悦朗, 照山博司編	2015 年	『現代経済学の潮流 2015』	東洋経済新報社
9	梶秀樹ほか	2012 年	『東日本大震災の復旧・復興への提言』	技報堂

9	後藤康夫・森岡孝二・八木紀一郎編	2012 年	『いま福島で考える：震災・原発問題と社会科学の責任』	桜井書店
9	瀬古美喜・照山博司・山本勲・樋口美雄・慶應-京大連携グローバル COE (編)	2012 年	『日本の家計行動のダイナミズム VIII——東日本大震災が家計に与えた影響——』	慶應義塾大学出版会
9	八木紀一郎	2015 年	「災害の時間・空間構造と市民的公正」 似田貝香門・吉原直樹編『震災と市民 1』東京大学出版会	
9	齊藤誠編	2015 年	『震災と経済』	東洋経済
9	齊藤誠	2015 年	『震災復興の政治経済学：津波被災と原発危機の分離と交錯』	日本評論社
9	齊藤誠編	2015 年	『大震災に学ぶ社会科学第 4 巻 震災と経済』	東洋経済新報社
9	岩船昌起他	2016 年	第 3 章「避難」, 『山田町震災記録誌 (仮) 』	山田町
9	Okamoto, K. and Sato, K. Distribution of Non-Japanese Residents and Support Activities for Them in the 2011 Earthquake and Tsunami Disaster-Stricken Areas. in Karan, P. and	2016 年	Japan After 3/11	The University Press of Kentucky

	Suganuma, U. eds.			
9	齊藤誠・野田 博編	2016 年	『非常時対応の社会科学：法学と経済学の共同 の試み』	有斐閣

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	Naohito Abe, Chiaki Moriguchi, Noriko Inakura	2012 年	「The Impact of the Great East Japan Earthquake on Commodity Prices: New Evidence from High-Frequency Scanner Data」『Research Center for Price Dynamics Working Paper Series』第 12 巻	
9	佐々木公明、 横井渉央、	2013 年	「東日本大震災と日本人の価値観の変容」瀬 古・照山・山本・樋口編『日本の家計行動のダ イナミズム 8：東日本大震災が家計に与えた影 響』慶応義塾大学出版会, 285-300 頁	
9	樋口美雄、小 林徹、何芳、 佐藤一磨	2013 年	「東日本大震災の就業、健康への影響とその後 の変化」『季刊社会保障研究』第 49 巻第 3 号、282-297 頁.	
9	Naohito Abe, Chiaki Moriguchi, Noriko Inakura	2014 年	「The Effects of Natural Disasters on Prices and Purchasing Behaviors: The Case of the Great East Japan Earthquake」 『RCESR Discussion Paper Series』第 14 巻第 1 号	
9	佐々木公明、 横井渉央、	2014 年	「東日本大震災と「他者の共感」の変容：” 絆”の強さに関する統計的分析」『東北都市学 会研究年報』第 14 巻, 23-38 頁	

9	齊藤誠, 中川雅之, 顧濤, 泉谷将登, 岩佐丈, 木澤諒平, 武藤蔵, 張瑩, 中村京介	2014 年	「GIS データに基づいた東日本大震災津波被害と原発事故の影響に関する推計手続きについて」『一橋大学 DP2014-09』。http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/26829/5/070econDP14-09.pdf	
9	齊藤誠, 中川雅之, 顧濤	2014 年	東日本大震災の社会経済的な影響について『一橋大学 DP2014-10』。http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/26847/5/070econDP14-13.pdf	
9	渡邊聡	2016 年	「被災地域における復興プロセスとソーシャル・キャピタルの効果：東日本大震災後の岩手県を事例に」『鈴鹿大学紀要 CAMPANA』第 22 号, 93-106 頁.	
9			「『流通』から見た東日本大震災」「日本流通学会『流通』第 32 号	
9			「シリーズ東日本大震災」『環境と公害』	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9	阿部修人	2014 年 12 月 12 日	震災と経済学—経済学は何を学び、何をすべきか	日本経済学会 2014 年度秋季大会
9	. 高橋義文・ 宮田勉・若松 宏樹	2015 年 8 月 7 日	ファジィ AHP による高品質カキの品質評価	第 9 回 TEMF 研究会, 皇学館大学
9	岩船昌起・田 村俊和・松井 圭介	2016 年 3 月 22 日	東日本大震災での避難行動と避難生活—岩手県山田町の津波被災地での地理学的「震災記録」	2016 年日本地理学会春季学術大会 理事会主催シンポジウム

9	OKADA Hiroki	2013 年 8 月 6 日	What is the “Public” in stricken area?: Differences between the Great Eastern Japan Earthquake and Tsunami (GEJET), and the Great Hanshin Earthquake (GHE)	Panel PE52:Observing the disaster and/or participating in the aftermath; Exploring the role of anthropologists and anthropological perspective on the Great East Japan Earthquake and Tsunami, Convener; Hiroki TAKAKURA) , The 17th World Congress The International Union of Anthropological and Ethnological SciencesUniversity of Manchester, Manchester, UK.
---	--------------	-------------------	---	--

(7) ウェブサイト

分野番 号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9			東日本大震災特別調査に関する拠点 http://www.pdrc.keio.ac.jp/open/about-shinsai-panel.html	
9			https://sites.google.com/site/yasuyukisawadapage/home/re	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
9		2013 年 2 月 15 日	ボランティアを考える	『中部経済新聞』（オピニオン欄）

複合 3 1 - 9 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-9	吉田謙太郎	2013 年	『生物多様性と生態系サービスの経済学』	昭和堂

複合 3 1 - 9 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-9	吉田謙太郎	2013 年	「放射能汚染による農林水産物回避行動に関する計量分析」『農業経済研究、2013 年度日本農業経済学会論文集』	
31-9	高橋義文	2014 年	「東京都民のカキの好みから宮城県産カキの販売戦略を考える」『FRA ニュース』第 39 号, 15 頁.	
31-9	Yoshifumi Takahashi, Tsutomu Miyata and Hiroki Wakamatsu	2016 年	「An analysis of Effective Marketing Strategies for Miyagi Shelled Oyster after the Great East Japan Earthquake of 2011」 『Journal Faculty of Agriculture, Kyushu University』第 61 巻第 1 号, 251-255 頁.	

複合 3 1 - 9 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-9	吉田謙太郎	2013 年 3 月 30 日	放射能汚染による農林水産物回避行動に関する計量分析	2013 年度日本農業経済学会大会、 東京農業大学
31-9	吉田謙太郎・ 西浦あさみ	2013 年 9 月 22 日	放射性物質汚染がもたらす風評被害に関する計量分析	環境経済・政策学会 2013 年度大会、神戸大学
31-9	Yoshida, K. and A. Nishiura	2013 年 9 月 30 日	“Consumers’ Behavior toward Radioactive Contamination and its Effect on Food Security	First International Conference on Global Food Security, Noordwijkerhout, The Netherlands
31-9		2016 年 6 月 1 日	原子炉の人類誌一数值が意味するもの一	第 50 回日本文化人類学会、名古屋

31-9		2016 年 6 月	NARRATIVE CASE STUDIES: HOW MADE THEIR FINAL DECISION TO SURVIVE FROM JAPANESE MAGA-EARTHQUAKE, TSUNAMI, AND NUCLEAR REACTOR ACCIDENT FOR TRANSGENDER PEOPLES.	WPATH Symposium, Amsterdam
31-9	Yoshifumi TAKAHASHI, Tsutomu MIYATA and Hiroki WAKAMATSU	2015 年 11 月 17-21 日	An analysis of the potential success for an improved “high quality	” oyster entering the existing market” The 16th Japanese -French Oceanography Symposium, Tohoku/Tokyo, Japan

複合 3 1 - 9 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-9		2015 年	中部大学 http://www3.chubu.ac.jp/faculty/ito_kayo/	

分野：経営学

担当：山川 充夫

(1) 報告書

該当なし

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
10	事業継続計画 とテレワーク 研究部会（略 称：BCP研 究部会）		『緊急提言 テレワークによるオフィスの電力 需要削減を ～休日効果で 100 万 kW の電力削 減～』 http://sikibu.eco.u- toyama.ac.jp/bcp/files/PDF/BCPtelework.pdf	日本テレワーク学会

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
10		2012 年	『日本情報経営学会誌』第 32 巻第 2 号、58 ～67 頁	
10	枝澤 祥子・ 秋川 卓也、	2012 年	「震災時における石油サプライチェーンの混乱 に関する課題」『日本物流学会誌』第 20 巻、 285-292 頁	
10	秋川 卓也・ 久野 桂史	2012 年	「救援物資ロジスティクスにおける PPP(公民連 携)」『日本物流学会誌』第 20 巻、221-228 頁	
10		2013 年	「特集：東日本大震災からの経済復興－気仙地 区を中心に」『立命館経済学』第 62 巻第 2 号	

10	佐堀大輔・眞崎昭彦・大竹貢・通堂重則・赤間健一	2013 年	「オフィス閉鎖型テレワークの電力削減効果に関する研究」[日本テレワーク学会誌』第 11 巻第 2 号、4-18 頁	
10	秋川 卓也	2014 年	「広域型の緊急支援物資サプライチェーンにおける上流過程」『日本物流学会誌』第 22 巻、157-164 頁	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
10	松野正太郎	2014 年 10 月 14 日	レジリエントなサステイナブルシティの構築－エネルギー自治の観点から－	第 42 回環境システム研究論文発表会
10	OKADA Hiroki	2015 年 9 月 10 日	Modernity Emerging in the process of Reconstruction after Big Earthquake in Japan; The complex Relationship between the Community Resilience and the Planning by city engineering	2015 International Conference of Japan Anthropology Workshop, Boğaziçi University, Istanbul, Turkey.
10	Suzuki, S., Akutsu, S., & Kohlbacher, F	2014 年	When interdependents do not donate: The effect of fear on charitable giving	North American Conference of the Association for Consumer Research, Baltimore, MD, U. S.

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
10			日本大学秋川研究室 http://akikawa.info/result/	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 31-10 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-10	金森絵里	2012 年	「イギリスにおける発送電分離と核廃棄物負債 —ブリティッシュ・エナジー社の事例に焦点を 当てて—」『ビジネスの発見と創造—企業・社 会の発展と経営学』	
31-10	本間慎・畑明 郎編	2012 年	『福島原発事故の放射能汚染—問題分析と政策 提言』	世界思想社
31-10	伊藤正子・吉 井美知子	2015 年	『原発輸出の欺瞞— 日本とベトナム、「友 好」関係の舞台裏—』	明石書店
31-10	金森絵里	2016 年	『原子力発電と会計制度』	中央経済社

複合 31-10 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-10	Himiyama, Y.	2011 年	East Japan Earthquake & Tsunami - Responses, Relief and Restructuring. In “International Seminar on Global Environment & Disaster Management: Law & Society - Seminar Volume” , 108-113 頁.	(published by Indian Law Institute)
31-10	中瀬哲史	2011 年	「東京電力福島第 1 原子力発電所事故後の日本 の電力供給システム」『経営研究』第 62 巻第 3 号	
31-10	中瀬哲史	2011 年	「日本の電力システムと電力融通の歴史的経 緯」『都市問題』第 102 巻第 6 号	
31-10	金森絵里	2012 年	「過小計上の原発コスト」『エコノミスト』 2012/07/03	
31-10	畑明郎	2012 年	「福島放射能汚染調査報告」『人間と環境』第 38 巻第 1 巻、30-37 頁	
31-10	本間圭吾	2012 年	「放射能汚染による福島県内の現状とその課 題」『日本の科学者』第 47 巻第 3 号、56-62 頁	

31-10	金森絵里	2013 年	「東京電力の会計情報と原発事故」『環境と公害』第 43 巻第 1 号, 61-64 頁	
31-10	金森絵里	2014 年	「原発廃炉に係る会計処理ってどうなっているの?」『会計人コース』第 49 巻第 7 号, 69-71 頁	
31-10	金森絵里	2014 年	「東京電力の損害賠償と資金援助はどうなっているの?」『会計人コース』第 49 巻第 6 号, 67-69 頁	
31-10	佐野正博	2014 年	「原子力発電実用化前の原子力利用推進論 - 原子力利用に関する批判的検討のための資料紹介 Part 1」『技術史』第 9 号	
31-10	兵藤友博・佐野正博・横田陽子ほか	2014 年	「原子力発電の社会的普及プロセスの歴史的検討」『学術の動向』第 19 巻第 3 号, 55-76 頁	
31-10	佐野正博	2015 年	「技術史・技術論的視点から見た原子力発電関連文献ガイドー 原子力利用に関する批判的検討のための資料紹介 Part 2」『技術史』第 10 号	
31-10	金森絵里・大島堅一		「2014 年 3 月期に原発をすべて廃止した場合における電力会社の経営への影響」『立命館大学国際関係学部ワーキング・ペーパー』	

複合 31-10 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-10	金森絵里	2014 年 9 月 1 日	Nuclear Waste Governance in Japan : from Business & Accounting Perspective	19th REFORM Group Meeting

複合 31-10 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-10			http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/workingpaper/IR2014-2.pdf	

31-10	黒木貴一・磯 望・高本隆一	2011 年	日本地理学会災害対応本部, 横浜市中心部の地震被害 http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.htm	
-------	------------------	--------	--	--

分野：基礎生物学

担当：福田 裕穂

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	三村徹郎	2015 年	三井物産環境基金報告書（報告者代表：三村徹郎、2015 年）	三井物産環境基金
11	東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構	2012 年	平成 23 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）成果報告書	平成 23 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業補助金成果報告書
11	東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構	2013 年	平成 24 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）成果報告書	平成 24 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業補助金成果報告書
11	東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構	2014 年	平成 25 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）成果報告書	平成 25 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業補助金成果報告書
11	東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構	2015 年	平成 26 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）成果報告書	平成 26 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業補助金成果報告書
11	東北大学・東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構	2016 年	平成 27 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）成果報告書	平成 27 年度海洋生態系研究開発拠点機能形成事業補助金成果報告書

11	Takehisa Yamakita, Yoshihiro Fujiwara, Shinji Tsuchida, et al.	2016 年	Use of bottom image mapping by a new underwater camera system, and application of 3D mosaicking to observe the spatial distribution of benthic organisms off the coast of Sanriku. Marine Ecosystems after Great East Japan Earthquake in 2011 Our knowledge acquired by TEAMS, edited by K. Kogure, M. Hirose, H. Kitazato, A. Kijima. pp. 141-142.	TEAMS
11	農林水産省	2016 年	農地・森林等の放射性物質の除去・低減技術の 開発	農林水産省

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	東北大学、東 京大学大気海 洋研究所、海 洋研究開発機 構	2011 年	TEAMS 東北マリンサイエンス拠点形成事業（海 洋生態系の調査研究） http://www.i-teams.jp/j/index.html?mode=pc	文部科学省
11	東北大学、東 京大学大気海 洋研究所、海 洋研究開発機 構	2014 年	TEAMS データ案内所リラス http://www.i-teams.jp/catalog/rias/j/index.html	文部科学省
11	東北大学、東 京大学大気海 洋研究所、海 洋研究開発機 構		TEAMS 東北マリンサイエンス拠点形成事業（海 洋生態系の調査研究） データベース http://www.i-teams.jp/j/database/index.html	文部科学省

11	昆虫学データベース作成グループ（代表：多田内修）	2013 年	岩手県陸前高田市立博物館所蔵修復被災昆虫類標本データベース（RDS）	昆虫学データベース作成グループ
----	--------------------------	--------	------------------------------------	-----------------

（４）学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	三村徹郎他	2014 年	福島における植物と藻類の放射性セシウム汚染：その現状と将来について	日本植物学会
11	Teturo Mimura et al.	2014 年	Current status and future control of cesium contamination in plants and algae in Fukushima.	日本植物学会
11	日本生態学会 東北地区会 （編）	2016 年	生態学が語る東日本大震災ー自然界に何が起きたのかー	文一総合出版，東京
11	相馬市史編さん委員会・相馬市教育委員会生涯学習部生涯学習課市史編さん室 （編）	2015 年	相馬市史、第 8 巻特別編 I 自然	福島県相馬市
11	日本植物学会 編（論文集の 日本語抄訳 集）	2014 年	Current status and future control of cesium contamination in plants and algae in Fukushima, Journal of Plant Research. 2014 年 2 月号.	日本植物学会
11	藤倉克則	2015 年	深海生物研究のフィールドワーク、In: 海の底深くを探る（白山義久・赤坂憲雄 編）	玉川大学出版部
11	Yamakita T, Yamamoto H, Yokoyama Y, Sakamoto I,	2015 年	Distribution of the marine debris on seafloor from the primary report of five cruises after the Great East Japan Earthquake 2011. Marine Productivity:	Springer

	Tsuchida S, Lindsay D, Fujiwara Y, Kawato M, Kasaya T, Kitazato H		Perturbations and Resilience of Socio- ecosystems, edited by Hubert J. Ceccaldi, Yves Henocque, Yasuyuki Koike, et al. pp. 101-109. doi:10.1007/978-3-319-13878- 7_11	
11	日本生態学会 東北地区会編	2016 年	生態学が語る東日本大震災、文一総合出版	一般書

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	Terashima, I., Shiyomi, M. and Fukuda, H.	2014 年	134Cs and 137Cs levels in a grassland, 32 km northwest of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, measured for two years after the fallout of radioactive substances. J Plant Res., 127(1).	日本植物学会
11	塩見正衛、寺 島一郎、福田 裕穂	2015 年	東電福島第1原発から北西 32 km の牧草地にお ける事故後2年間半の放射線量変化 1. 牧草・ 土壌からの放射線強度、畜産の研究、69 (5)	養賢堂
11	Oguri, K., Furushima, Y., Toyofuku, T., Kasaya, T., Wakita, M., Watanabe, S., Fujikura, K., and Kitazato, H.	2015 年	Long-term monitoring of bottom environments of the continental slope off Otsuchi Bay, northeastern Japan. Journal of Oceanography. DOI:10.1007/s10872-015- 0330-4.	

11	Ohkouchi, N., H. Shibata, Y. Chikaraishi, H., Nomaki, N.O. Ogawa, T. Nagata, T. Goto, K. Fujikura, and H. Kitazato	(in press)	A monitoring result of polychlorinated biphenyls (PCBs) in deep-sea organisms and sediments off Tohoku during 2012–2014: Temporal variation and the relationship with the trophic position. J. Oceanogr.	
11	Sakaguchi–Orui, S., Takishita, K., Goto, T., Shibata, H., Kojima, S., Tsuchida, S., Kitazato, H., and Fujikura, K.	2014 年	Analyses of age and population genetic structure of the broadbanded thornyhead <i>Sebastolobus macrochir</i> in North Japan suggest its broad dispersion and migration before settlement. Journal of Oceanography, 70, 457–462. doi:10.1007/s10872-014-0240-x.	
11	Okutani T, Fujiwara Y, Tsuchida S, Lindsay DJ, Kawato M, Yamakita T	2015 年	Attack by a cranchiid squid on a deep-sea feather-star. Chiribotan 45:292-295 (in Japanese with English abstract).	
11	Oguri Kazumasa, Furushima Yasuo, Toyofuku		Long-term monitoring of marine environments in Sanriku region, northeastern Japan, Journal of Oceanography.	

	Takashi, Kasaya Takafumi, Wakita Masahide, Watanabe Shuichi, Fujikura Katsunori, Kitazato Hiroshi			
11	Nomaki Hidetaka, Arai Kazuno, Suga Hisami, Toyofuku Takashi, Wakita Masahide, Nunoura Takuro, Oguri Kazumasa, Kasaya Takafumi, Watanabe Shuichi		Sedimentary organic matter contents and porewater chemistry at upper bathyal depths influenced by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake and tsunami. Journal of Oceanography	
11	大野豊, 長谷 純宏, 佐藤勝 也, 野澤 樹, 鳴海一成	2015 年	イオンビーム育種技術による植物・微生物のセシウム吸収特性の改変, 放射線と産業, 138, 17-20	
11	E. Adams, V. Chaban, H.	2015 年	Selective chemical binding enhances cesium tolerance in plants through inhibition of cesium uptake, Scientific Reports, 5:8842.	

	Khandelia and R. Shin		http://www.riken.jp/pr/press/2015/20150305_1/	
11	E. Adams, P. Abdollahi and R. Shin	2013 年	Cesium inhibits plant growth through jasmonate signaling in Arabidopsis thaliana, International Journal of Molecular Sciences, 14:4545-4559.	
11	黒沢高秀	2012 年	福島第一原子力発電所の事故による警戒区域および計画的避難区域内の飯舘村, 浪江町, 双葉町, 大熊町, 富岡町, 楢葉町, 葛尾村の維管束植物相に関する文献および標本, 福島大学プロジェクト研究自然と人間, (9), 29-49.	福島大学
11	櫻井信夫、根本秀一、黒沢高秀	2013 年	東日本大震災前の福島県（および隣接する宮城県亘理町と茨城県北茨城市）の海岸およびその周辺部の維管束植物の分布, 福島大学地域創造, 25(1), 137-192.	福島大学
11	根本秀一、黒沢高秀	2014 年	福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域, 居住制限区域, 避難指示解除準備区域, および旧緊急時避難準備区域を含む市町村（福島県川俣町, 飯舘村, 南相馬市, 浪江町, 葛尾村, 田村市, 川内村, 双葉町, 大熊町, 富岡町, 楢葉町, 広野町）の文献に基づく野生維管束植物の情報, 福島大学地域創造 25(2), 89-174.	福島大学
11	根本秀一、黒沢高秀、藤原かおり	2013 年	東日本大震災後の福島県南部海岸の絶滅危惧植物等およびその生育地の状況, 福島大学地域創造 24(2), 81-95.	福島大学
11	黒沢高秀	2014 年	東日本大震災前後の福島県の海岸の植生と植物相の変化および植生や植物多様性の保全の状況, 植生情報, (18), 70-80	
11	渡邊祐紀、黒沢高秀	2015 年	東日本大震災により福島県相馬市松川浦に生じた干潟や塩性湿地に設けられた保護区の植物相および植生, 福島大学地域創造, 27(1), 67-92.	福島大学

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	日本植物生理 学会第 53 回 年会主催	2012 年 3 月 17 日	シンポジウム「福島第一原子力発電所事故にと もなう植物への放射性物質蓄積」	日本植物生理学会第 53 回年会
11	岡山大学資源 植物科学研究 所主催	2013 年 2 月 14 日	植物による東日本大震災被災農地の修復	岡山大学資源植物科学研究所
11	鈴木まほろ	2016 年 3 月 24 日	東北地方の津波浸水域に出現した湿生・水生植 物相の特徴	日本生態学会第 63 回大会
11	E. Adams	2014 年 7 月	Strategic approaches for improved phytoremediation of farmland contaminated with radiocesium in Japan.	International Congress: Phytoremediation of Polluted Soils, Vigo, 29th-30th

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	東北大学、東 京大学大気海 洋研究所、海 洋研究開発機 構	2011 年	TEAMS 東北マリンサイエンス拠点形成事業（海 洋生態系の調査研究） http://www.i-teams.jp/j/index.html?mode=pc	文部科学省
11	国立科学博物 館	2014 年	サイエンスミュージアムネット (s-net) http://science-net.kahaku.go.jp/	
11	文部科学省ナ ショナルバイ オ リソース プロジェクト	2007 年	地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) http:// www.gbif.jp/index.html	GBIF, JBIF
11	島根大学生物 資源科学部秋 廣高志研究 室、	2011 年	デジタル標本館 http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/	島根県立三瓶自然館、鳥取県立博 物館、陸前高田市博物館

	(株)T. R. Workers			
11	東北大学、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構	2014 年	TEAMS データ案内所リラス http://www.i-teams.jp/catalog/rias/j/index.html	文部科学省

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
11	日本植物学会 編	2014 年	Current status and future control of cesium contamination in plants and algae in Fukushima, urnal of Plant Research, 2014 年 2 月号. http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/KURCIS/fukusima_cesium.htm	日本植物学会、日本語抄訳集をダウンロード可

(9) その他

該当なし

複合 3 1 - 1 1 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	野田隆史	2014 年	科学研究費助成金(研究課題 24570012) 基盤研究 (C) 2013 年度 実施状況報告書(基金分)	2013 年度科研費研究成果報告書
31-11	野田隆史	2013 年	科学研究費助成金(研究課題 24570012) 基盤研究 (C) 2012 年度 実施状況報告書(基金分)	2012 年度科研費研究成果報告書
31-11	(独) 水産総合研究センター東北水産研究所：河邊玲(代表)	2012-2015 年度	データロガーを用いたヒラメ等底魚類の移動生態の解明	(独) 水産総合研究センター東北水産研究所

複合 31-11 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	植生学会長	2011 年	東日本大震災復興への提言：植生学会（ホームページ）に掲載	植生学会
31-11	植生学会企画 委員会委員長	2012 年	仙台平野の海岸林の復興事業に関わる緊急の要望（林野庁仙台森林管理署あて）	植生学会企画委員会
31-11	植生学会企画 委員会委員長	2012 年	津波被災地での防潮堤建設にあたっての自然環境への配慮のお願い（申立書）	植生学会企画委員会（生態学会生態系管理専門員会および日本水産学会水産環境保全委員会と連名）
31-11	植生学会長	2012 年	東日本大震災後の海岸林復興事業に関する緊急要望書（林野庁長官あて）	植生学会

複合 31-11 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	植生学会企画 委員会作成	2011 年	東日本大震災被災地周辺海岸部における植生に関する文献リスト 2011/10/11（学会ホームページ上で公開）	植生学会
31-11	浅見佳世（企画委員）	2011 年	東北地方海岸部における特定植物群落（環境省）の位置図 2011/09/13（学会ホームページ上で公開）	植生学会

複合 31-11 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	Noda T, Iwasaki A, Fukaya K	2011 年	Rocky intertidal zonation: impacts and recovery from the megaquake. In: Kogure K, Hirose M, Kitazato H, Kijima A (eds) Marine ecosystems after Great East Japan Earthquake in 2011. p. 73-74.	Tokai University Press, Hiratsuka
31-11	野田隆史	2016 年	磯の生き物たちと東日本大震災. 日本生態学会（編），生態学が語る東日本大震災-自然界に何が起きたのか-, p. 72-77	文一総合出版，東京

複合 3 1 - 1 1 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	Mayumi Yoshimura, Tetsuya Yokoduka	2014 年	Radioactive contamination of fishes in lake and streams impacted by the Fukushima nuclear power plant accident. Science of the Total Environment 482-483, 184-19.	
31-11	Mayumi Yoshimura, Akio Akama	2014 年	Radioactive contamination of aquatic insects in stream impacted by the Fukushima nuclear power plant accident. Hydrobiologia 722, 19-30.	
31-11	Noda T, Iwasaki A, Fukaya K	(in press)	Recovery of rocky intertidal zonation: two years after the 2011 Great East Japan Earthquake. Journal of Marine Biological Association of the UK. DOI:10.1017/S002531541500212X	
31-11	Noda T, Sakaguchi M, Iwasaki A, Fukaya K	(in press)	Influence of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake on population dynamics of a rocky intertidal barnacle: cause and consequence of alternation in larval recruitment. Coastal Marine Science.	
31-11	Kitamura, M., Y. Kumamoto, H. Kawakami, E. Cruz, K. Fujikura	2013 年	Horizontal distribution of Fukushima-derived radiocesium in zooplankton in the northwestern Pacific Ocean. Biogeoscience, 10, 5729-5738.	

複合 3 1 - 1 1 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-11	武田沙千愛・ 山中潤一・横 畑泰志・丸茂 克美・廣上清 一	2013 年 11 月 30 日	福島第一原発事故によるアズマモグラ (Mogera imaizumii) への放射性物質の影響 (予報)	2013 年日本生態学会中部地区会大 会
31-11	白川貴之・武 田沙千愛・井 出哲哉・横畑 泰志・丸茂克 美・廣上清一	2014 年 12 月 6 日	福島第一原発事故によるアズマモグラ (Mogera imaizumii) への放射性物質の影響 (予報 2) —2013 年と 2014 年の比較など—	2014 年度日本生態学会中部地区大 会大会
31-11	Yasushi Yokohata, Sachie Takeda, Takayuki Shirakawa, Tsukasa Okano, Manabu Onuma, Katsumi Marumo, Kiyokazu Hirokami	2015 年 7 月 26 日-7 月 30 日	Radiocesium concentration and partial albinism in lesser Japanese moles in Eastern Fukushima Prefecture, Japan, following the nuclear disaster of 2011.	Vth International Wildlife Management Congress
31-11	野田隆史	2016 年 3 月 21 日	企画集会「巨大攪乱の生態学的帰結をどう理解 するか：巨大地震が岩礁潮間帯生物群集に及ぼ した影響を例に考える」 (企画者 野田隆 史)	日本生態学会第 63 回全国大会, 仙台国際センター
31-11	原正利ほか (計 12 名)	2014 年 3 月 31 日	東日本大震災による津波が海岸植生に及ぼした 影響：再生と保全に向けて。(学会ウェブペー ジからダウンロード可能)	植生学会
31-11	平吹喜彦・原 正利・佐々木	2012 年 3 月 19 日	4 講演、自由集会「東北地方沿岸域の植生の現 状と修復、回復に向けて	日本生態学会第 59 回全国大会

	寧・佐々木真 二郎			
31-11	富田瑞樹ほ か・鈴木孝 男・小此木宏 明ほか	2013 年 3 月 7 日	3 講演、自由集会「仙台平野の海辺の自然を守 れるか―復興工事の負の影響の低減に向けて ―」	日本生態学会第 60 回全国大会
31-11	原正利・島田 直明・平吹喜 彦・黒沢高秀	2014 年 3 月 14 日	4 講演、自由集会「広域調査から見えた海岸植 生への津波の影響と回復」	日本生態学会第 61 回全国大会
31-11	植生学会・日 本自然保護協 会	2013 年 2 月 17 日	シンポジウム「岩手の海岸の自然再生に向けて ～東日本大震災後の海岸植生の自律的再生と共 存のために～」	植生学会・日本自然保護協会、会 場：いわて県民情報交流センター
31-11	平成 25 年度 植生学会	2013 年 9 月 7-8 日	平成 25 年度植生学会シンポジウム・エクスカ ーション「東日本大震災で被災した海岸林復旧 のあり方を考える～植生保全も目指した松川浦 での試み～	植生学会、会場：相馬商工会議所 会議室・松川浦
31-11	平成 25 年度 植生学会	2013 年 10 月 12 日	平成 25 年度植生学会第 18 回大会公開シンポジ ウム「自然の再生力とふるさとの海岸林復興」	植生学会、会場：戦災復興記念館 記念ホール
31-11	自然再生フォ ーラム	2015 年 11 月 14 日	自然再生フォーラム「仙台湾岸に学ぶ激甚災害 後の砂浜植生の再生と保全」	自然再生フォーラム、会場：東北 学院大学
31-11	岸野 薫・中 塚直征・勝又 勝郎・栗田 豊・佐久間 徹・島村信 也・古川誠志 郎・河邊 玲	2016 年 3 月 28 日	常磐海域におけるヒラメの移動生態に関する研 究－ 3，位置推定システムの改良：開放性沿岸 域のへ応用を目指して	平成 28 年度日本水産学会春季大 会，東京海洋大学
31-11	岸野 薫・中 塚直征・栗田 豊・佐久間 徹・島村信 也・河邊 玲	2015 年 3 月	常磐海域におけるヒラメの移動生態に関する研 究－ 1，周年の滞在深度・経験水温特性	平成 27 年度日本水産学会春季大 会，東京海洋大学

31-11	西野公規・栗田 豊・佐久間 徹・島村信也・中塚直征・河端雄毅・Gregory N Nishihara・河邊 玲	2015 年 3 月	常磐海域におけるヒラメの移動生態に関する研究－2，野外の経験水温記録を指標とした年間標準代謝量の推定（予報）	平成 27 年度日本水産学会春季大会，東京海洋大学
-------	---	------------	--	---------------------------

複合 3 1－1 1 （8）データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-11	植生学会	2011 年	植生学会 http://shokusei.jp/earthquake.html	2011 年 11 月より公開

分野：統合生物学

担当：福田 裕穂

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
12	Takehisa Yamakita	2016 年	Habitat mapping: potential distribution of the coastal benthic species and potential usefulness in offshore deep sea In Marine Ecosystems after Great East Japan Earthquake in 2011 Our knowledge acquired by TEAMS. Edited by K. Kogure, M. Hirose, H. Kitazato, A. Kijima, pp. 143-144.	TEAMS
12	茨城県生活環境部環境政策課編	2016 年	茨城における絶滅のおそれのある野生生物 動物編	茨城県

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
12	中西友子	2013 年	土壌汚染	NHKブックス
12	K. Tanoi, S. Mirua, E. Forssell- Aronsson, C. Bradshaw ed.	2015 年	Sweden-Japan Radioecology Workshop for Students, 2015,	The Univ. of Tokyo, in press

12	Nakanishi, T. M. & Tanoi, K. ed.	2013 年	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident. http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1	Springer
12	Nakanishi, T. M. & Tanoi, K. ed.	2016 年	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident: The First Three Years. http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-55828-6	Springer

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
12	Nakanishi, T.M.	2016 年	Agricultural implications of Fukushima Nuclear Accident. Review, Supplement - ICRP highlights. Journal of Radiation Research, pp. 1-6. doi: 10.1093/jrr/rrw042	
12	Tanoi, K., Uchida, K., Doi, C., Nihei, N., Hirose, A., Kobayashi, N. I., Sugita, R., Nobori, T., Nakanishi, T.M., Kanno, M., Wakabayashi, I., Ogawa, M., Tao, Y.	2016 年	Investigation of radiocesium distribution in organs of wild boar grown in Iitate, Fukushima after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 307 741-746.	

12	Nihei, N., Tanoi, K., Nakanishi, T. M.	2015 年	Monitoring inspection for radiocesium in agricultural, livestock, forestry and fishery products in Fukushima prefecture. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 1-4(online first).	
12	Hiraoka, Satoshi, et al.	2016 年	Genomic and metagenomic analysis of microbes in a soil environment affected by the 2011 Great East Japan Earthquake tsunami. BMC genomics 17.1: 1.	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
12	Nakanishi, T. M.	2015 年 5 月 1 日	Agricultural implications of Fukushima Nuclear Accident.	第 15 回国際放射線研究会議 (ICRR2015)

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
12	Nakanishi, T. M. & Tanoi, K. ed.	2013 年	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident. http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54328-2/page/1	Springer
12	Nakanishi, T. M. & Tanoi, K. ed.	2016 年	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident: The First Three Years. http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-55828-6	Springer
12	東京大学農学 生命科学研究 科の復興支援 プロジェクト	2011-2016 年	放射能の農畜水産物等への影響についての調査 報告会 http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html (動画)	一般の人向け報告会

12	東京大学農学 系研究科 AGRI-COCOON	2013 年-現在 まで	農学部における専攻横断的な単位取得可能な教育カリキュラム（講義や実習などの資料は全て公開） http://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg6/	放射能調査研究を基にした教育で、海外とのシンポジウムなども含まれる
12	中西友子	2014 年	著者と語る「土壌汚染 フクシマの放射性物質のゆくえ」	日本記者クラブでの講演と会見
12	東北大学 マ リンサイエン ス復興支援 室、海洋研究 開発機構 東 日本海洋生態 系変動解析プ ロジェクトチ ーム	2012 年	東北大学 マリンサイエンス復興支援室、海洋研究開発機構 東日本海洋生態系変動解析プロジェクトチーム http://www.i-teams.jp/j/index.html	
12	DDBJ/ENA/Gen Bank データ ベース		DDBJ/ENA/GenBank データベース、BioSample ID : SAMD00023516, SAMD00023517	ゲノム情報
12	JCM バイオリ ソースセンタ ー		JCM バイオリソースセンター、JCM31232, JCM31234, JCM31235	単離株寄託

（９）その他

該当なし

複合３１－１２（１）報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-12	大手信人	2016 年	科学研究費助成事業研究成果報告書「福島原発事故で沈着した 137Cs の集水域生態系における移動の実態把握とモデル化	日本学術振興会

複合３１－１２（４）学術書

分野	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----	-----	-----	------	--------

番号				
31-12	Ohte, N., M. Murakami, K. Iseda, K. Tanoi, and N. Ishii.	2013 年	Diffusion and transportation dynamics of ¹³⁷ Cs deposited on the forested area in Fukushima after the nuclear power plant accident in March 2011. in N. T. and T. K., editors. Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident.	Springer, New York.
31-12	Ohte, N., M. Murakami, I. Endo, M. Ohashi, K. Iseda, T. Suzuki, T. Oda, N. Hotta, K. Tanoi, N. I. Kobayashi, and N. Ishii	2016 年	Ecosystem Monitoring of Radiocesium Redistribution Dynamics in a Forested Catchment in Fukushima After the Nuclear Power Plant Accident in March 2011. in M. T. Nakanishi and K. Tanoi, editors. Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident: The First Three Years. Pages 175-188.	Springer Japan, Tokyo.
31-12	Sato, S. and Chiba, T.	2016 年	Ecological impacts and recovery of molluscan populations after the 2011 earthquake tsunami around Matsushima Bay and Sendai Bay, Miyagi Prefecture, northeastern Japan. Ecological impacts of tsunamis on coastal ecosystems: Lessons from the Great East Japan Earthquake, edited by Urabe, J. and Nakashizuka, T.	Springer

複合 31-12 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-12	Murakami, M., N. Ohte, T. Suzuki, N. Ishii, Y.	2014 年	Biological proliferation of cesium-137 through the detrital food chain in a forest ecosystem in Japan. Scientific Report. 4.10.1038/srep03599	

	Igarashi, and K. Tanoi			
31-12	Endo, I., N. Ohte, K. Iseda, K. Tanoi, A. Hirose, N. I. Kobayashi, M. Murakami, N. Tokuchi, and M. Ohashi	2015 年	Estimation of radioactive ¹³⁷ -cesium transportation by litterfall, stemflow and throughfall in the forests of Fukushima. Journal of Environmental Radioactivity 149:176-185. http://dx.doi.org/10.1016/j.jenvrad.2015.07.027	
31-12	Pumpanen, J., M. Ohashi, I. Endo, P. Hari, J. Bäck, M. Kulmala, and N. Ohte	2016 年	¹³⁷ Cs distributions in soil and trees in forest ecosystems after the radioactive fallout - Comparison study between southern Finland and Fukushima, Japan. Journal of Environmental Radioactivity 161:73-81. http://dx.doi.org/10.1016/j.jenvrad.2016.04.024	
31-12	大路樹生、大 石雅之	2014 年	岩手県田野畑村羅賀の津波石はどこからきたの か?、日本学会「化石」, 95, 1-4. http://ci.nii.ac.jp/els/110009815368.pdf?id=ART0010319543&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466519402&cp=	日本学会
31-12	蔭山麻里子	2013 年	東日本放射能汚染地域より採集された動物標 本・試料の取り扱いと保管についての技術的助 言 山階鳥類学雑誌 44: 49-65	山階鳥類研究所

分野：農学

担当：渡部 終五

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	登尾浩助	2013 年	「震災復興支援・防災研究プロジェクト」	明治大学、研究・知財戦略機構研究成果報告書
13	高田大輔(共著)	2016 年	農作物に対応した放射性物質移行低減対策技術の開発・果樹・茶における放射性セシウム移行要因の解明および移行低減対策技術の開発報告集	農林水産省
13	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会	2012 年	平成 23 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
13	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会	2013 年	平成 24 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
13	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会	2014 年	平成 25 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
13	野口康弘	2015 年	復興促進プログラム（マッチング促進）研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ハイリスク挑戦タイプ（復興促進型）完了報告書「土壌・栽培情報価値の可視化による精密復興農業モデルの構築」	JST
13	戸田浩人	2014 年	森林生態系における放射性核種と有機物・土壌養分の物質循環的解析	科学研究費助成事業研究成果報告書
31	鈴木譲	2015 年	放射能汚染地域のため池に棲むコイの健康状態、今中哲二・福本学編「福島原発事故による周辺生物への影響に関する専門研究会」報告書	京都大学原子炉実験所, 2015, pp. 92-97.

13	東日本大震災 における農業 被害の実態と 研究課題に関 する研究会	2011 年	NARO 研究戦略レポート第一号	農研機構
13	東日本大震災 における農業 被害の実態と 研究課題に関 する研究会	2012 年	NARO 研究戦略レポート第二号	農研機構
13	東京農業大学	2012 年	平成 24 年度 東京農業大学 東日本支援プロジ ェクト 研究成果概要	東京農業大学
13	東京農業大学	2013 年	平成 25 年度 東京農業大学 東日本支援プロジ ェクト 研究成果概要	東京農業大学
13	東京農業大学	2014 年	平成 26 年度 東京農業大学 東日本支援プロジ ェクト 研究成果概要	東京農業大学
13	新山陽子	2012 年	『消費者庁委託研究/食品リスクに関する消費 者の意識調査及び分析報告書：消費者のリスク 認識と消費者の疑問、必要とされる情報－放射 性物質と健康食品の健康影響－』	京都大学農学研究科農業組織経営 学分野・食と農の安全倫理論講座
13	小松知未・小 山良太	2014 年	「原子力災害の被災地域における農村生活の動 向と住民活動の意義－特定避難勧奨地点・福島 県伊達市霊山町小国地区を事例として－」『福 島大学うつくしまふくしま未来支援センター平 成 25 年度年報』 pp. 122-130, 2014 年 3 月	福島大学うつくしまふくしま未来 支援センター
13	福島第一原発 被曝動物対応 専門家会議	2013 年	日米専門家会議に提言を受けて、日本委員から の意見「東日本大震災が動物に及ぼした影響に 関する国際シンポジウム講義録」HSI 報告書	福島第一原発被曝動物対応専門家 会議 http://www.jarmec.jp/pdf/IFAW- all.pdf
13	公益財団法人 全国競馬・畜 産振興会	2014 年	「放牧が汚染牧野および牛に与える影響等調査 事業達成目標等報告書」	公益財団法人全国競馬・畜産振興 会

13	福島和彦	2014-2015 年	科研費実績報告書「放射性セシウムの樹幹内における分布と存在形態の動的解析」	新学術領域研究(研究領域提案型) 福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究
13	尾定誠他	2011 年度～ 毎年	東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）報告書	東北マリンサイエンス拠点形成事業
13	東京農工大学 農学部	2012-2016 年	平成 24 年度「大学固有の生物資源を用いた放射性元素除去技術、バイオ肥料・植物保護技術開発」概要集（福島農業復興支援バイオ肥料プロジェクト）」。 (ISBN 978-4-9906944-0-1-C3045-0000E)	東京農工大学 農学部文部科学省特別経費プロ バイオ肥料 出版者記号：9906944
13	遠藤宜成・西谷豪	2016 年	宮城県沿岸域の栄養塩環境と低次生産の調査、東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）における課題「漁場環境の変化プロセスの解明」の成果報告書	国立大学法人東北大学、学校法人北里研究所、東北マリンサイエンス拠点形成事業
13	林野庁	2013-2016 年	平成 24 年～平成 27 年度森林内における放射性物質実態把握調査事業報告書	林野庁

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	長澤寛道	2012 年	「玄米の放射性セシウムが1 キロ・グラム当たり 100 ベクレルを超えた地域における稲の「試験作付」推奨に関する提言」	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科 http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/20120213teigen.pdf
13	小国復興プラン 提案委員会	2015 年	「小国地区復興プラン「豊かな恵みと笑顔あふれる小国を目指して」	小国復興プラン提案委員会
13	日本学術会議 東日本大震災 復興支援委員 会福島復興支 援分科会	2013 年	『原子力災害に伴う食と農の「風評」被害対策と検査態勢の体系化に関する緊急提言』	日本学術会議

13	日本科学者会議除染問題検討チーム	2014 年	『「除染」にかかわる提言』	日本学術会議 日本の科学者, Vol. 49 No. 5, 日本科学者会議, pp. 295-297, 2014 年 5 月に所収
13	日本学術会議 東日本大震災復興支援委員会福島復興支援分科会	2014 年	『東京電力福島第一原子力発電所事故による長期避難者の暮らしと住まいの再建に関する提言』	
13	廣吉勝治・片山知史	2016 年	「東日本大震災における被災実態の把握と復旧・復興施策のあり方について」一調査研究の中間総括を中心に一水産振興 50(5), 1-63, 2016-05	東京水産振興会
13	田野井慶太郎・中西友子	2012 年	福島第一原子力発電所事故の農業・畜産に及ぼす影響を考える、遺伝、66, 13-18, 2012	エヌ・ティー・エス
13	加戸隆介	2014 年	東日本大震災が岸壁の潮間帯生物相にもたらした変化と新たな課題. 月刊海洋, 46, 72-77.	海洋出版株式会社

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	竹中千里	2014 年	陸域への放射性物質の拡散と沈着、原発事故環境汚染-福島第一原発事故の地球科学的側面-, 中島映至・大原利真・植松光夫・恩田裕一編、149-159.	東京大学出版会
13	森敏・加賀谷雅道	2015 年	放射線像	皓星社
13	T. M. Nakanishi and K. Tanoi (eds.)	2016 年	Agricultural implications of the Fukushima nuclear accident: The first three years.	Springer-Verlag

13	T. M. Nakanishi and K. Tanoi (eds.)	2013 年	Agricultural Implications of the Fukushima Nuclear Accident	Springer-Verlag
13	戸田浩人	2014 年	森林生態系の基盤サービス、調整サービスの原 発事故による再認識. 日本森林学会監修「教養 としての森林学」	文永堂
13	Satoru, I. and Ichinose, T.	2015 年	Annual change of Odonate richness and diversity in tsunami inundated lowland area – the case in Moune district, Kesennuma city, Miyagi prefecture, Japan. Pages 90–91 in Committee of International Affairs Association of Rural Planning, Japan editor. 2015 Japan-Korea rural planning seminar.	Association of Rural Planning, Japan, Ishikawa
13	一ノ瀬友博	2016 年	東日本大震災における高台移転の進捗と課題— 宮城県気仙沼市を例に. 83–93. (森林環境研究 会・一ノ瀬友博・鎌田磨人編, 『森林環境 2016 ／震災後 5 年の森・地域を考える』).	森林文化協会
13	中西友子	2013 年	土壌汚染 フクシマの放射性物質のゆくえ	NHK ブックス
13	千葉晋・園田 武・畠山信・ 横山勝英	2013 年	東日本大震災からの真の農業復興への挑戦	ぎょうせい
13	Chiba S., Sonoda S, Hatakeyama M, Yokoyama K	2015 年	Agricultural and Forestry Reconstruction After the Great East Japan Earthquake	Springer
13	日本学術会議 農学委員会・ 植物保護科学 分科会		植物保護科学の展望—農業生産の向上と生物多 様性—	日本学術会議

13	A. Inui and C. L. Mah	2013 年	"Japan-Canada Food Systems Resilience Symposium Conference Proceedings in Toronto, May 16-17, 2012"	Food Policy Research Initiative, University of Toronto, 京都大学農学研究科食と 農の安全倫理論講座・科研基盤 S 共同発行)
13	Yoko NIIYAMA, Yayoi KITO, and Haruyo KUDO	2013 年	An experimental interactive risk communication on the health effects of radioactive substances in food, Emerging Issues Learned from the 3.11 Disaster as Multiple Events of Earthquake, Tsunami and Fukushima Nuclear Accident, edited by S. Ikeda and Y. Maeda, pp54-58, March 11, 2013	Society for Risk Analysis Japan
13	Komatsu, T., T. Ohtaki, S. Sakamoto, S. Sawayama, Y. Hamana, M. Shibata, K. Shibata and S. Sasa	2015 年	Tsunami on seagrass and seaweed beds in Otsuchi Bay, Sanriku Coast, Japan. In Marine productivity: perturbations and resilience of socio-ecosystems, edited by Ceccaldi, H.J., Hénocque, Y., Koike, Y., Komatsu, T., Stora, G. and Tusseau- Vuillemin, M.-H., Cham, p. 43-53, 2015	Springer International Publishing Switzerland,
13	Sasa, S., S. Sawayama, S. X. Sakamoto, R. Tsujimoto, G. Terauchi, H. Yagi. and T. Komastu	2012 年	Did huge tsunami on 11 March 2011 impact seagrass bed distributions in Shizugawa Bay, Sanriku Coast, Japan? Proceedings of SPIE, 8525, 85250X-6, 2012. doi: 10.1117/12.999307	SPIE
13	Sasa, S., S. Sawayama, S. X. Sakamoto, R. Tsujimoto,	2012 年	Impact of huge tsunami in March 2011 on seaweed bed distributions in Shizugawa Bay, Sanriku Coast, revealed by remote sensing. Proceedings of SPIE, 8525, 85251B-7, 2012. doi: 10.1117/12.999308	SPIE

	G. Terauchi, H. Yagi. and T. Komastu			
13	野中昌法	2014 年	農と言える日本人：福島発・農業の復興へ	コモンズ
13	普後 一	2012 年	放射性物質は昆虫に蓄積されているか：自然保護：2012 巻号？	日本自然保護協会
13	日本農学会編	2013 年	シリーズ 21 世紀の農学東日本大震災からの農 林水産業と地域社会の復興	養賢堂

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	Mori S, Hirato A, Tanoi K, Takeda K, Yamakawa T, Nakanishi H	2012 年	Radioactive cesium distribution in bamboo (Phyllostachy reticulate (Rupr) K. Koch) shoots after the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant disaster. Soil Sci. Plant Nutr. 60, 801-808.	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	Hiromi NAKANISHI, Atsushi MORI, Kouki TAKEDA, Houdo TANAKA, Natsuko KOBAYASHI, Keitaro TANOI, Takashi YAMAKAWA, Satoshi MORI	2015 年	Discovery of radioactive silver (^{110}mAg) in spiders and other fauna in the terrestrial environment after the meltdown of Fukushima Dai-ichi nuclear power plant. Proceedings of the Japan Academy, Series B Vol. 91, 160-174	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	勝田洋平, 木 村勲人, 市田	2016 年	福島県飯舘村における水田土壌の物理性. 土壌 の物理性 (印刷中).	土壌物理学会

	知子, 森也寸 志, 登尾浩助			
13	鈴木心也, 岩 瀬広, 登尾浩 助, 溝口勝, 小林大樹, 伊 藤哲	2013 年	フォトダイオードを用いた土壌中の放射能鉛直 分布測定器の開発. 土壌の物理性 125:29-33.	土壌物理学学会
13	登尾浩助	2013 年	土壌環境を計測するセンサ. 計測と制御 52:672-678.	公益社団法人計測自動制御学会
13	Nihei, N. ; Fujimura, S. ; Tanoi, K. ; Yamashita, N. ; Morimoto, S. ; Nakanishi, T. M. ; Murakami, T.	2016 年	“Effect of the application of polluted wheat (<i>Triticum aestivum</i> L. Thell.) straw during plowing on the transfer of radiocesium from the soil to komatsuna (<i>Brassica rapa</i> L. var. <i>perviridis</i>)”, <i>Soil Science and Plant Nutrition</i> DOI:10.1080/00380768.2016.1154447 (2016) (online first)	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	Mukai, H. ; Hirose, A. ; Motai, S. ; Kikuchi, R. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T.M. ; Yaita, T. ; Kogure, T.	2016 年	“Cesium adsorption/desorption behavior of clay minerals considering actual contamination conditions in Fukushima”, <i>Scientific Reports</i> 6 21543 (2016)	Springer Nature
13	Tanoi, K. ; Uchida, K. ; Doi, C. ; Nihei, N. ; Hirose, A. ;	2016 年	“Investigation of radiocesium distribution in organs of wild boar grown in Iitate, Fukushima after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident”,	Springer

	Kobayashi, N. I. ; Sugita, R. ; Nobori, T. ; Nakanishi, T. M. ; Kanno, M. ; Wakabayashi, I. ; Ogawa, M. ; Tao, Y		Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 307 741–746 (2016).	
13	Ishida, K. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T.M.	2015 年	“Monitoring free-living Japanese Bush Warblers (Cettia diphone) in a most highly radiocontaminated area of Fukushima Prefecture, Japan ” , Journal of Radiation Research 56 i24–i28 (2015).	Oxford University Press
13	Kobayashi, N. I. ; Sugita, R. ; Nobori, T. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T.M.	2015 年	“Tracer experiment using 42K+ and 137Cs+ revealed the different transport rates of potassium and caesium within rice roots” , Functional Plant Biology 43(2) 151–160	CSIRO Publishing
13	Nihei, N. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T.M.	2015 年	“Monitoring inspection for radiocesium in agricultural, livestock, forestry and fishery products in Fukushima prefecture” , Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 1–4 (2015) (online first).	Springer
13	Nobori, T. ; Kobayashi, N. I. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T.M.	2015 年	“Alteration in caesium behavior in rice caused by the potassium, phosphorous, and nitrogen deficiency” , Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 1–3 (2015) (online first).	Springer

13	Endo, I. ; Ohte, N. ; Iseda, K. ; Tanoi, K. ; Hirose, A. ; Kobayashi, N. I. ; Murakami, M. ; Tokuchi, N. ; Ohashi, M.	2015 年	“Estimation of radioactive 137-caesium transportation by litterfall, stemflow and throughfall in the forests of Fukushima” , Journal of Environmental Radioactivity 149 176-185 (2015).	Elsevier
13	Sato, M. ; Abe, K. ; Kikunaga, H. ; Takata, D. ; Tanoi, K. ; Ohtsuki, T. ; Muramatsu, Y.	2015 年	“Decontamination Effects of Bark Washing with a High-pressure Washer on Peach [Prunus persica (L.) Batsch] and Japanese Persimmon (Diospyros kaki Thunb.) Contaminated with Radiocaesium during Dormancy” , The Horticulture Journal 84 295-304 (2015).	一般社団法人園芸学会
13	Ii, K. ; Tanoi, K. ; Uno, Y. ; Nobori, T. ; Hirose, A. ; Kobayashi, N. I. ; Nihei, N. ; Ogawa, T. ; Tao, Y. ; Kanno, M. ; Nishiwaki, J. ;	2015 年	“飯舘村除染圃場で試験栽培した水稻の放射性セシウム濃度” , RADIOISOTOPES 64 299-310 (2015).	公益社団法人日本アイソトープ協会

	Mizoguchi, M.			
13	Nakanishi, H. ; Mori, A. ; Takeda, K. ; Tanaka, H. ; Kobayashi, N. ; Tanoi, K. ; Yamakawa, T. ; Mori, S.	2015 年	“Discovery of radioactive silver (^{110m}Ag) in spiders and other fauna in the terrestrial environment after the meltdown of Fukushima Dai-ichi nuclear power plant”, Proceedings of the Japan Academy Series B 91 160-174.	日本学士院
13	Nihei, N. ; Tanoi, K. ; Nakanishi, T. M.	2015 年	“Inspections of radiocesium concentration levels in rice from Fukushima Prefecture after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant accident”, Scientific Reports 5 8653.	Springer Nature
13	Sato, M. ; Takata, D. ; Tanoi, K. ; Ohtsuki, T. ; Muramatsu, Y.	2015 年	“Radiocesium transfer into the fruit of deciduous fruit trees contaminated during dormancy”, Soil Science and Plant Nutrition 61 156-164 (2015).	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	Nakanishi, H. ; Tanaka, H. ; Takeda, K. ; Tanoi, K. ; Hirose, A. ; Nagasaka, S. ; Yamakawa, T. and Mori, S.	2014 年	“Radioactive cesium distribution in bamboo [<i>Phyllostachys reticulata</i> (Rupr) K. Koch] shoots after the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant disaster”, Soil Science and Plant Nutrition 60 801-808 (2014).	一般社団法人日本土壤肥料学会

13	Nobori, T. ; Kobayashi, N. I. ; Tanoi, K. and Nakanishi, T. M	2014 年	“Effects of Potassium in Reducing the Radiocesium Translocation to Grain in Rice” , Soil Science and Plant Nutrition 60 772–781 (2014).	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	高田 大輔; 佐藤 守; 阿 部 和博; 小 林 奈通子; 田野井 慶太 朗; 安永 円 理子	2014 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核種の分布(第8報)–摘果果実を用いたモモ成熟果実の放射性セシウム濃度の推定について– (Radioactivity Distribution in Each Part of the Fruit Trees from Radioactive Fall Out (VIII) –Prediction of Peach Fruit Radiocaesium Concentration by Thinning Fruits–)” , RADIOISOTOPES 63 293–298 (2014).	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	Ohmori, Y. ; Kajikawa, M. ; Nishida, S. ; Tanaka, N. ; Kobayashi, N. I. ; Tanoi, K. ; Furukawa, J. ; Fujiwara, T.	2014 年	“The effect of fertilization on cesium concentration of rice grown in a paddy field in Fukushima Prefecture in 2011 and 2012” , Journal of Plant Research 127 67–71 (2014)	Springer
13	Ohmori, Y. ; Inui, Y. ; Kajikawa, M. ; Nakata, A. ; Sotta, N. ; Kasai, K. ; Uraguchi,	2014 年	“Difference in cesium accumulation among rice cultivars grown in the paddy field in Fukushima Prefecture in 2011 and 2012” , Journal of Plant Research 127 57–66 (2014).	Springer

S. ; Tanaka, N. ; Nishida, S. ; Hasegawa, T. ; Sakamoto, T. ; Kawara, Y. ; Aizawa, K. ; Fujita, H. ; Li, K. ; Sawaki, N. ; Oda, K. ; Futagoishi, R. ; Tsusaka, T. ; Takahashi, S. ; Takano, J. ; Wakuta, S. ; Yoshinari, A. ; Uehara, M. ; Takada, S. ; Nagano, H. ; Miwa, K. ; Aibara, I. ; Ojima, T. ; Ebana, K. ; Ishikawa, S. ; Sueyoshi, K. ; Hasegawa, H. ; Mimura,			
--	--	--	--

	T. ; Mimura, M. ; Kobayashi, N. I. ; Furukawa, J. ; Kobayashi, D. ; Okouchi, T. ; Tanoi, K. ; Fujiwara, T.			
13	Sugita, R. ; Kobayashi, N. I. ; Hirose, A. ; Tanoi, K. and Nakanishi, T. M.	2014 年	“Evaluation of in Vivo Detection Properties of ^{22}Na , ^{65}Zn , ^{86}Rb , ^{109}Cd and ^{137}Cs in Plant Tissues Using Real-Time Radioisotope Imaging System” , Physics in Medicine and Biology 59 837–851 (2014).	IOP Publishing
13	Murakami, M. ; Ohte, N. ; Suzuki, T. ; Ishii, N. ; Igarashi, Y. and Tanoi, K.	2014 年	“Biological Proliferation of cesium-137 Through the Detrital Food Chain in a Forest Ecosystem in Japan” , Scientific Reports 4 1–5 (2014).	Springer Nature
13	高田 大輔; 安永 円理子; 田野井 慶太朗; 中西 友子; 佐々木 治人; 大下 誠一	2013 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核種の分布(第 7 報) – モモ側枝の放射性セシウム濃度の事故後 2 年間の経時変化 –” , RADIOISOTOPES 62 539–544 (2013).	公益社団法人日本アイソトープ協会

13	Nakanishi, T.; Kobayashi, N. I. and Tanoi, K.	2013 年	“RADIOACTIVE CESIUM DEPOSITION ON RICE, WHEAT, PEACH TREE AND SOIL AFTER NUCLEAR ACCIDENT IN FUKUSHIMA”, Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry 296 985-989 (2013).	Springer
13	大下 誠一; 安永 円理子; 高田 大輔; 田野井 慶太朗; 川越 義則; 白井 宏明; 中西 友子; 佐々木 治人; 牧野 義雄	2013 年	“福島第一原子力発電所事故に起因した土壌及び野菜の放射性核種濃度の測定 ー東京都及び福島県の低濃度汚染地域における事例ー”, RADIOISOTOPES 62 149-157 (2013).	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	山田 利博; 村川 功雄; 齋藤 俊浩; 大村 和也; 高德 佳絵; 才木 道雄; 井口 和信; 井上 淳; 齋藤 暖生; 辻 和明; 田野井 慶太朗; 中西 友子	2013 年	“福島第一原子力発電所事故に起因する放射性物質低汚染地域におけるキノコ類への放射性セシウムの蓄積 ー東京大学演習林における事例ー”, RADIOISOTOPES 62 141-147 (2013).	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	渡部 終五; 松岡 洋子; 中谷 操子; 潮 秀樹; 根本 芳春; 佐藤 美智男; 田野井 慶太	2013 年	“すり身製造における水晒し工程を利用した魚肉中の放射性セシウムの低減法”, RADIOISOTOPES 62 31-38 (2013).	公益社団法人日本アイソトープ協会

	朗; 中西 友子			
13	田野井 慶太郎; 小林 奈通子; 小野 勇治; 藤村 恵人; 中西 友子; 根本 圭介	2013 年	“2011 年における福島県の汚染された農地における収穫期イネの放射性セシウム濃度分布”, RADIOISOTOPES 62 25-29 (2013)	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	Mori, S.; Hirato, A.; Tanoi, K.; Takeda, K.; Yamakawa, T. and Nakanishi, H.	2013 年	“Radioactive Cesium Flow in Rhus Vernicifera”, Soil Science and Plant Nutrition 58 611-617 (2012).	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	高田 大輔; 安永 円理子; 田野井 慶太郎; 中西 友子; 佐々木 治人; 大下 誠一	2012 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核種の分布 (第 4 報) - モモ樹体内における放射性セシウム含量とその分布について-”, RADIOISOTOPES 61 607-612 (2012).	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	高田 大輔; 安永 円理子; 田野井 慶太郎; 小林 奈通子; 中西 友子; 佐々木 治人; 大下 誠一	2012 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核種の分布 (第 3 報) - 福島県南地域におけるブドウとモモの樹体内放射性セシウム濃度について-”, RADIOISOTOPES 61 601-606 (2012).	公益社団法人日本アイソトープ協会
13	高橋 友継; 榎本 百利子;	2012 年	“福島第一原子力発電所事故後の茨城県産牧草を給与した牛の乳における放射性核種濃度の経	公益社団法人日本アイソトープ協会

	遠藤 麻衣子; 小野山 一郎; 富松 理; 池 田 正則; 李 俊佑; 田野井 慶太郎; 中西 友子; 眞鍋 昇		時変化(第2報)”, RADIOISOTOPES 61 551-554 (2012).	
13	高田 大輔; 安永 円理子; 田野井 慶太 朗; 中西 友 子; 佐々木 治人; 大下 誠一	2012 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核 種の分布(第2報) - 福島第一原子力発電所事 故当年における土壌からの放射性 Cs の移行に ついて-”, RADIOISOTOPES 61 517-521 (2012).	公益社団法人日本アイソトープ協 会
13	田野井 慶太 朗	2012 年	“放射性セシウムによる農業への影響と復興に 向けた活動(Impact of Radiocaesium on Agriculture and Reconstruction Activity)”, 環境情報科学 41 15-20 (2012).	一般社団法人環境情報科学センタ ー
13	高田 大輔; 安永 円理子; 田野井 慶太 朗; 中西 友 子; 佐々木 治人; 大下 誠一	2012 年	“放射性降下物に起因した果樹樹体内放射性核 種の分布 -放射性降下物低濃度地域における核 果類に関する事例的調査-”, RADIOISOTOPES 61 321-326 (2012).	公益社団法人日本アイソトープ協 会
13	藤村 恵人; 柳沼 利和; 佐久間 祐樹; 佐藤 睦人; 田野井 慶太 朗; 中西 友 子	2012 年	“福島県の水田におけるリヤグレーダを用いた 表土剥離による放射性物質の除去効果”, RADIOISOTOPES 61 327-330 (2012).	公益社団法人日本アイソトープ協 会

13	尹 永根; 鈴井 伸郎; 山口 充孝; 河地 有木; 田野井 慶太郎; 中西 友子; 茅野 充男; 中村 進一; 藤巻 秀	2012 年	“NaI (TI) スペクトロメーターによるセシウム 134 および 137 を弁別した定量方法”, 日本土壤肥料学雑誌 83 296-300 (2012).	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	後藤 逸男・稲垣 開生	2015 年	福島県相馬市の津波による農地の被災状況および堆積物の性質と処理対策、日本土壤肥料学雑誌、86、412~414 (2015)	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	後藤 逸男・稲垣 開生	2015 年	青森県八戸市津波被災農地の堆積物混層・降雨方式による除塩と緑肥作付による除塩判定、日本土壤肥料学雑誌、86、421~423、2015	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	後藤 逸男・稲垣 開生	2015 年	福島県相馬市津波被災地の営農再開のための技術的対策、日本土壤肥料学雑誌、86、452~458、2015	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	Kanasashi T., Sugiura Y., Takenaka C., Hijii N. and Umemura M.	2016 年	Radiocesium distribution in sugi (Cryptomeria japonica) in Eastern Japan: translocation from needles to pollen (2015) Journal of Environmental Radioactivity 139 : 398-406.	Elsevier
13	Hoshino, Y., Higashi, T., Ito, T., and Komatuzaki, M.	2015 年	Tillage can reduce the radiocesium contamination of soybean after the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. Soil & Tillage Research 153, 76-85. 2015.	Elsevier
13	Niimura, N., K. Kikuchi, N. D. Tuyena, M. Komatsuzak	2015 年	Physical properties, structure, and shape of radioactive Cs from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident derived from soil, bamboo and shiitake	Elsevier

	i and Y. Motohashi		measurements. Journal of Environmental Radioactivity. 139: 234-23. (2015)	
13	Shibata, Y., Yamada, M., Wada, T., Itou, M., Yamada, H., Sohtome, T., Iwasaki, T., Sakuma, T. and Mizuno, T.	2015 年	A surplus production model considering movements between two areas using spatiotemporal differences in CPUE: Application to sea ravens <i>Hemitripterus villosus</i> off Fukushima as a practical marine protected area after the nuclear accident. Marine and Coastal Fisheries, 7: 325-337	American Fisheries Society
13	Ogura, S., Suzuki, T., Saito, M	2014 年	Distribution of radioactive cesium in soil and its uptake by herbaceous plants in temperate pastures with different management after the Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Station accident, Soil Sci. Plant Nutr., 60 (6), 790-800 (2014)	一般社団法人日本土壤肥料学会
13	森田茂・安江 健・出口善 隆・佐藤衆 介・岡田啓 司・菅野三樹 夫	2015 年	特集 原発事故警戒区域内に取り残された牛のその後、畜産技術. 平成27年1月1日発行号	公益社団法人畜産技術協会
13	Okada K., Sato I., Deguchi Y., Morita S., Yasue T., Yayota M., Takeda K. Sato S	2013 年	Distribution of radioactive cesium in edible parts of cattle. Animal Science Journal 84:798-801. 2013	公益社団法人日本畜産学会

13	石井雅久・奥島里美・森山英樹・相澤正樹	2012 年	平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震による宮城県沿岸部の園芸施設の被害状況、農工研技報、213、89～103, 2012	農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
13	矢ヶ崎太洋・一ノ瀬友博	2013 年	オーラルヒストリーの収集と分析による東日本大震災以前の記憶と地域イメージ—宮城県気仙沼市唐桑町舞根地区の事例。農村計画学会誌 32, 209-214	農村計画学会
13	Suzuki, Y	2015 年	Influences of radiation on carp from farm ponds in Fukushima, J. Rad. Res. 2015, doi: 10.1093/jrr/rrv076, pp. 1-5	Oxford University Press
13	Matsunami, H., Murakami, T., Fujiwara, H. and Shinano, T	2013 年	Evaluation of the cause of unexplained radiocaesium contamination of brown rice in Fukushima in 2013 using autoradiography and gamma-ray spectrometry. Scientific Reports, 2016, 6: 20386	Springer Nature
13	Kato, N., Kihou, N., Fujimura, S., Ikea, M., Miyazaki, N., Saito, Y., Eguchi, T. and Itoh, S.	2015 年	Potassium fertilizer and other materials as countermeasures to reduce radio cesium levels in rice: Results of urgent experiments in 2011 responding to the Fukushima Daichi Nuclear Power Plant accident. Soil Science and Plant Nutrition, 61, 179-190 (2015)	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	Eguchi, T., Ohta, T., Ishikawa, T., Matsunami, H.,	2015 年	Influence of the nonexchangeable potassium of mica on radio cesium uptake by paddy rice. Journal of Environmental Radioactivity, 147, 33-42 (2015)	Elsevier

	Takahashi, Y., Kubo, K., Yamaguchi, N., Kihou, N. and Shinano, T.			
13	Shinano, T.	2015 年	Effort to reconstruction of agriculture as a researcher. Japanese Journal of Science Communication. 17, 85-91 (2015). 農業再建への研究者としての取り組み, 科学技術コミュニケーション, 17, 85-91, 2015.	北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット (CoSTEP)
13	千葉晋・園田武・畠山信・横山勝英	2013 年	舞根湾に蘇った干潟におけるアサリの出現と動態 海洋と生物、209、575-581、20.	生物研究社
13	大下誠一, 安永円理子, 高田大輔, 田野井慶太郎, 川越義則	2012 年	放射性降下物の農畜水産物等への影響-7: 低濃度汚染土壌における野菜への放射性核種の移行, 化学と生物, 査読有, 50 巻, 2012, 904-906	公益社団法人日本農芸化学会
13	新山陽子	2012 年	「放射性物質の健康影響に対する市民の心理と双方向で密なリスクコミュニケーションー知識の獲得に必要な精緻な情報吟味プロセス」『農林業問題研究』第 188 号、第 48 巻・第 3 号、1-10 頁、2012 年 12 月	地域農林経済学会
13	新山陽子・鬼頭弥生・工藤春代・松尾敬子	2015 年	「市民の水平的議論を基礎にした双方向リスクコミュニケーションモデルとフォーカスグループによる検証ー食品を介した放射性物質の健康影響に関する精緻な情報吟味ー」『フードシステム研究』第 21 巻第 4 号、267-286 頁、2015 年 3 月	日本フードシステム学会

13	KOYAMA Ryota and ISHII Hideki	2014 年	THE Systemization of Radioactivity Inspection for Food Products and Steps to Counteract Reputational Damage in Fukushima, Japan, Journal of Commerce, Economics and Economic History (THE SHOGAKU RONSHU), Vol.82No.4, The Economic Society of Fukushima University, pp.15- 22, 2014 年 3 月	The Economic Society of Fukushima University
13	小松知未・小 山良太・小池 (相原) 晴 伴・伊藤亮司		「米全量全袋検査の運用実態と課題ー放射性物 質検査に関する制度的問題に着目してー」『農 村経済研究』	東北農業経済学会
13	Yasukazu SUZUKI, Tetsuo YASUTAKA, Shigeto FUJIMURA, Takao YABUKI, Mutsuto SATO, Kunio YOSHIOKA and Kazuyuki INUBUSHI	2015 年	Effect of the concentration of radiocesium dissolved in irrigation water on the concentration of radiocesium in brown rice、Soil Science and Plant Nutrition 第 61 巻 2 号 191 頁-199 頁 (2015 年 4 月)	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	鈴木安和・保 高徹生・矢吹 隆夫・犬伏和 之	2015 年	用水中に含まれる溶存態放射性セシウムヒマ ワリへの移行に関する研究、福島県農業総合セ ンター研究報告、第 7 号、31-36 頁 (2015 年 3 月)	福島県農業総合センター
13	De Souza, S., Kinoshita, Y. and	2015 年	Post-Disaster Local Infrastructure Reconstruction Finance: A Comparative Analysis of Policy Intervention in the Japanese Earthquake and Queensland Flood	SPAEF

	Dollery, B. E		Disasters. Public Finance and Management 15(1) 65-87 2015	
13	渡邊瑞恵、日 坂顕、中村 塑、町田武美	2014 年	題目？愛国学園大学人間文化研究紀要、201 4年3月、第16号、P61-77	愛国学園大学
13	Masami NANZYU, Hitoshi KANNO, and Akira TAKEDA	2014 年	Vertical distribution of radiocesium in side bar deposits of the Utsushi and Agano rivers, Japan. Clay Science, 18(2):43-52 (2014)	一般社団法人日本粘度学会
13	南條正巳	2015 年	津波被災農地の実態調査3. 宮城県の津波被災 農地の土壌と堆積物の性質, 日本土壌肥料学雑 誌, 86(6): 401-403 (2015)	一般社団法人日本土壌肥料学会
13	南條正巳	2015 年	大津波(2011年)に被災した宮城県沿岸部農地 土壌の概況, 土壌の物理性, 129: 5-12 (2015)	土壌物理学会
13	Yamashita J, Enomoto T, Yamada M, Ono T, Hanafusa T, Nagamatsu T, Sonoda S, Yamamoto Y.	2014 年	Estimation of soil-to-plant transfer factors of radiocesium in 99 wild plant species grown in arable lands 1 year after the Fukushima 1 Nuclear Power Plant accident. J Plant Res. 127:11-22 (2014)	Springer
13	Asano, R., Y. Nakai, W. Kawada, Y. Shimura, T. Inamoto and J. Fukushima	2011 年	"The sea water inundation by the Tohoku tsunami caused by the great east-Japan earthquake 2011, leaves strong impact for soil bacterial community after more than one year." Microbial Ecology 66(3): 639- 646.	Springer
13	Kinoshita H, Sato Y, Ohtake F, Ishida M,	2015 年	In vitro mass-screening of lactic acid bacteria as potential biosorbents of cesium and strontium. J.	Elsevier

	Komoda T, Kitazawa H, Saito T and Kimura K.		Microbiol. Biotechnol. Food Sci. 4 (5), 383-386 (2015)	
13	加藤一幾	2015 年	シイタケ廃菌床のスイートコーンへの直接施用. p. 67-74. 最新農業技術『土壌施肥 vol. 7』	農文協 編
13	三橋良太・水野 壯・佐伯真二郎・内山昭一・吉田誠・高松祐希・食用昆虫科学研究会・普後一	2013 年	福島県産イナゴの放射性セシウム量および福島県のイナゴ食文化の存続可能性：食品衛生学雑誌、54 (6) 410-411、2013 年 12 月	公益社団法人日本食品衛生学会
13	加藤 駿・石崎良佑・三橋良太・清水友恵・島田順・普後 一	2014 年	福島県川俣町養蚕業および霊山町天蚕業への放射性物質の影響：蚕糸・昆虫バイオテック、83 (1) 39-42、2014	一般社団法人日本蚕糸学会
13	大井誠明, 松本淳, 野上貞雄	2012 年	保護された東日本大震災被災犬における犬糸状虫の感染 状況. 家畜衛生学雑誌. 第 38 巻 第 3 号:126-127, 2012	家畜衛生学会
13	Yamashiro H, Abe Y, Fukuda T, Kino Y, Kawaguchi I, Kuwahara Y, Fukumoto Mo, Takahashi S, Suzuki M, Kobayashi J, Uematsu E,	2013 年	Effects of radioactive caesium on bull testes after the Fukushima nuclear plant accident. Scientific Reports. 3, 2850, 2013.	Springer Nature

	Tong B, Yamada T, Yoshida S, Shinoda H, Sato E, Sekine T, Isogai E, Fukumoto M.			
13	鳥田宏行・佐藤創・真坂一彦・阿部友幸・野口宏典・坂本知己・木村公樹	2014 年	簡易モデルを用いた津波に対する立木の抵抗性の評価、日本森林学会誌、96、206-211、2014	一般社団法人日本森林学会
13	田中規夫・庭田侑・佐藤創・鳥田宏行・野口宏典	2015 年	樹形による破断・転倒現象の相違を考慮した海岸林管理に資する津波計算法の構築、土木学会論文集 B2 (海岸工学) 71 巻 2 号、I_307-I_312、2015	公益社団法人土木学会
13	森山英樹・石井雅久・奥島里美・佐瀬勘紀	2011 年	東北地方太平洋沖地震の津波によるパイプハウスの被災特徴、農業施設、42(4)、193、200、2011 年	農業施設
13	阿部 佳之、小島 陽一郎、井上 秀彦、天羽 弘一	2014 年	堆肥化処理による放射能汚染牧草の減量化、農業食料工学会誌 76(2)、187-194、2014	農業食料工学会
13	小島陽一郎・阿部佳之・天羽弘一・井上秀彦・横江未央	2015 年	牧草サイレージの堆肥化処理における添加物の効果、農業食料工学会誌 77(5)、335-345、2015	農業食料工学会
13	横江 未央、小島 陽一	2015 年	発酵熱によるソフトバイオマスの乾燥 (第 1 報) 含水率別の熱発生特性と戻し堆肥の添加効果、農業施設 46(4)、82-89、2015	農業施設

	郎、天羽 弘 ー [他]			
13	江口文陽・吉 本博明・相場 幸敏・高畠幸 司・山中勝	2011 年	「福島原発事故による放射能汚染とその対策」 ～きのこを中心とした風評被害防止の観点から ～, 日本きのこ学会誌, 19, 132-135, 2011	日本きのこ学会
13	杉浦広幸・河 野圭助・香山 雪彦・村松康 行	2014 年	福島市で採取したシラカシ (<i>Quercus myrsinifolia</i>) の果実と葉における放射性セシ ウムの汚染状況と移行経路の解明, 園芸学研究 13 巻 2 号, p. 135~141. 2014	一般社団法人園芸学会
13	杉浦広幸・酒 井 創・香山 雪彦	2014 年	福島で栽培したシノブフユナ (<i>Brassica rapa</i>) の部位と栽培土壌における放射性セシウ ム濃度の推移, 日本放射線安全管理学会誌, 13 巻 2 号, 159-165, 2014	一般社団法人日本放射線安全管理 学会
13	Kyuji Watanabe	2015 年	Scenario analysis of the effects of the Great East Japan Earthquake on chum salmon population-enhancement system. Fisheries Science 2015	公益社団法人日本水産学会
13	塩沢 昌 ¹⁾ , 田野井 慶太 朗, 根本 圭 介, 吉田 修 一郎, 西田 和弘, 橋本 健, 桜井 健 太, 中西 友 子, 二瓶 直 登, 小野 勇 治	2011 年	福島県の水田土壌における放射性セシウムの震 度別濃度と移流速度, RADIOISOTOPES, 60, 323-328, 2011	公益社団法人日本アイソトープ協 会
13	飯塚和也、篠 田俊信、石栗 太、横田信 三、吉澤伸夫	2012 年	福島原発事故後 10 ヶ月間の栃木県における空 間放射線量率の記録、宇都宮大学農学部演習林 報告 Vol. 48 p. 161 -164, 2012-3	宇都宮大学

13	飯塚和也、篠田俊信、関菜穂子、牧野和子、逢沢峰昭、大久保達弘、石栗太、横田信三、吉澤伸夫	2013 年	森林・樹木における放射性セシウムの動態 (Ⅰ) ー福島原発事故後 10 ヶ月間の宇都宮大学船生演習林における記録ー宇都宮大学農学部演習林報告 Vol. 49 p. 77 -80、2013-3	宇都宮大学
13	飯塚和也、相蘇春菜、高嶋有哉、逢沢峰昭、大久保達弘、石栗太、横田信三	2014 年	森林・樹木における放射性セシウムの動態 (Ⅱ) ー宇都宮大学船生演習林におけるスギ材と放射性セシウムの関係ー宇都宮大学農学部演習林報告 no. 50 p. 91-93、2014-3	宇都宮大学
13	飯塚和也、大島潤一、逢沢峰昭、大久保達弘、石栗太、横田信三	2015 年	森林・樹木における放射性セシウムの動態 (Ⅲ) ースギの苗木および幼齢木における放射性セシウムの経根吸収、宇都宮大学農学部演習林報告 no. 51 p. 33-36、2015-4	宇都宮大学
13	長澤一衛、高橋大介、伊藤直樹、高橋計介、尾定誠	2016 年	東日本大震災後の宮城県雄勝湾における垂下式養殖ホタテガイの水深による成育の違いと生産性の評価、日本水産学会誌、82, (3), 321-329, 2016	公益社団法人日本水産学会
13	Kazue Nagasawa, Tomohiro Osugi, Iwao Suzuki, Naoki Itoh, Keisuke G. Takahashi, Honoo Satake, Makoto Osada	2015 年	Characterization of GnRH-like peptides from the nerve ganglia of Yesso scallop, Patinopecten yessoensis. Peptides, 71, 202-210, 2015 3. Kazue Nagasawa, Hitoshi Oouchi, Naoki Itoh, Keisuke G. Takahashi, Makoto Osada, In vivo administration of scallop GnRH-like peptide influences on gonad development in the Yesso scallop, Patinopecten yessoensis. PLoS ONE, 10(6): e0129571. 2015	PLoS ONE Corporation

13	Kado, R. & Nanba, N	2017 年	Succession of an intertidal community on a jetty on the northeast coast of Honshu Island after the Great East Japan Earthquake. Ecological Res, (accepted)	Springer
13	Nanba, N., Kado, R., Kamoshida, H., Shinotsuka, M.	2011 年	Effect of the 2011 Great East Japan tsunami on water quality in cultivation sites of Sanriku-Town area, southern Iwate Prefecture, Japan. Aquacult. Sci. 63: 469–474.	日本水産増殖学会
13	Masabumi Komatsu, Shinji Kaneko, Shinta Ohashi, Katsushi Kuroda, Tetsuya Sano, Shigeto Ikeda, Satoshi Saito, Yoshiyuki Kiyono, Mario Tonosaki, Satoru Miura, Akio Akama, Takuya Kajimoto,	2016 年	Characteristics of initial deposition and behavior of radiocesium in forest ecosystems of different locations and species affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident、Journal of Environmental Radioactivity、161、2–10、2016	Elsevier

	Masamichi Takahashi			
13	梶本 卓也, 川 齊藤 哲, 川 崎 達郎, 壁 谷 大介, 矢 崎 健一, 田 中 浩, 太田 敬之, 松本 陽介, 田淵 隆一, 清野 嘉之, 高野 勉, 黒田 克 史, 藤原 健, 鈴木 養樹, 小松 雅史, 大橋 伸太, 金子 真司, 赤間 亮夫, 高橋 正通	2015 年	福島原発事故で影響を受けた森林の放射性セシウムの挙動—事故後 2 年間の林冠から地表への移行過程からみた樹種特性性、日本森林学会誌、97、33-43、2015	一般社団法人日本森林学会
13	高橋 正通、 梶本 卓也、 高野 勉、池 田 重人、小 林 政広	2014 年	森林生態系における樹木・木材・土壌・渓流水の放射性セシウム動態調査法の利用ガイド、森林総合研究所研究報告、13、107-112、2014	森林総合研究所

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

13	田野井 慶太郎, 内田和幸; 土居千代; 二瓶直登; 広瀬農; 小林奈通子; 杉田亮平; 登達也; 中西友子; 菅野宗夫; 若林一平; 小川みいちゃ; 田尾陽一	2016, Mar. 8-10	“Investigation of radiocesium distribution in organs of wild boar grown in Iitate, Fukushima after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident”	第 17 回「環境放射能」研究会 ポスター発表（高エネルギー加速器研究機構 つくばキャンパス）
13	Tanoi, K.; Takata, D.; Kobayashi, N. I.; Hirose, A.; Nakanishi, T. M.	2015, Apr. 12 - 17	“Radiocesium behavior in a peach tree after the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant (FDNPP) accident.”	Methods and Applications of Radioanalytical Chemistry - Mar.C X, (Kailua-Kona, Hawaii USA) log 432
13	田野井 慶太郎; 廣瀬 農; 小林 奈通子; 石田 しほり; 中西 友子	2014, Sept. 9-11	“オートラジオグラフィ法における環境中放射性セシウム濃度の他核種による推定”	日本土壌肥料学会 2014 年度東京大会（東京農工大学小金井キャンパス）
13	田野井 慶太郎; 高橋 友継; 広瀬 農; 二瓶 直登; 小林 奈通子; 李 俊祐; 大手 信人; 村上 正志; 眞	2014, July 7-9	“東京大学農学部で実施している農業環境と食の安全を対象とした放射線教育(Education program based on radioisotope movement in agricultural environment and foods performing at Faculty of Agriculture, the University of Tokyo)” ,	第 51 回アイソトープ・放射線研究発表会（東京大学弥生講堂）

	鍋 昇; 中西 友子			
13	田野井 慶太 朗; 中西 友 子	2014, Mar. 18-20	“汎用 RI を用いた非破壊 RI イメージング (Radioisotopic imaging technique using conventional isotopes)”	第 55 回日本植物生理学会年会 (富山大学五福キャンパス)
13	田野井 慶太 朗; 登 達也; 広瀬 農; 中 西 友子	2013, Sept. 7	“オートサンプラー付き NaI (TI) シンチレー ションカウンターによる土壌および作物中の放 射性セシウム測定の実態”	日本土壌肥料学会 2013 年度名古屋 大会 (名古屋大学)
13	田野井 慶太 朗; 登 達也; 中西 友子	2013, July 3-5	“オートサンプラー付き NaI (TI) シンチレー ションカウンターを利用した土壌および作物等 の放射性セシウム定量方法”	第 50 回 アイソトープ・放射線研 究発表会 (東京大学) 1a-I-02.
13	田野井 慶太 朗; 真鍋 昇; 李 俊佑; 小 林 和彦; 安 永 円理子; 山田 利博; 中西 友子; 長澤 寛道	2012, July 10	“東京大学大学院農学生命科学研究科の取り組 み — 附属施設を活用した調査”	第 49 回 アイソトープ・放射線研 究発表会 (東京大学)
13	高田大輔	2015 年 4 月 25 日	「果樹園での Cs 動態—特に地下部におけるセ シウムの移動について」	第 11 回放射能の農畜水産物等へ の影響についての研究報告会. II. 樹木のセシウム動態と林業) 東京大学農学生命科学研究科主催
13	澁澤 栄	2013. 11. 18	農地の除染技術と精密復興農業のスキーム	日本学術会議シンポジウム
13	Hideki GOTO, Hiromitsu Niitsuma, Yasuhiro Noguchi, Akio Sashima,	June 25- 28, 2013, Korea	Precision restoring agriculture using spatial visualization technique	5th ACPA, Korea

	Koichi Kurumatani, Masakazu Kodaira, and Sakae Shibusawa			
13	柴田泰宙	2015 年 11 月 27 日	「漁業再開後の資源管理のあり方」	日本学術会議公開シンポジウム 「東日本大震災による原子力発電 所事故に伴う魚介類の放射能汚染 の問題と今後の展望」
13	柴田泰宙・山 田 学・伊藤 正木・山田陽 巳・早乙女忠 弘・和田敏 裕・水野拓治	2014 年 3 月 28 日	季節的な浅深移動を考慮した福島県沖ケムシカ ジカの資源量推定	平成 26 年度日本水産学会春季大 会
13	Sasaki M, Fujiwara K, Toda H, Choi D. S	2014 年 2 月 28 日	Radioactive caesium dynamics of 3 kinds forests in the different area of the deposition densities in Japan	International symposium Radionuclide dynamics and biological transfers in watershed ecosystems (RBTW), Tokyo, Fuchu
13	安江健・平井 美瑠・出口善 隆・八代田真 人・竹田謙 一・森田茂・ 佐藤衆介	2013 年 3 月 30 日	警戒区域内における保護牛収容放牧地のセシウ ム汚染状況に関するモニタリング調査	日本畜産学会第 116 回大会
13	Suzuki, Y	25 Jun. 2015	Effects of radiation on the health condition of carp from farm ponds in Fukushima	World Fisheries Congress, June, 25, 2015. Busan, Korea
13	H. Hosono, E. Yasunaga	5-8 August 2013	Do Japanese still worry about radiation contamination in foods? -Two years after the accident, an implication for the reconstruction of agricultural sector-	International Symposium on Quality Management of Fruits and Vegetables for Human

				Health (FVHH2013), Bangkok, Thailand
13	Kayoko Ogura、Wang Chunying、Sadao Eguchi、Kazunori Kohyama、Noriko Yamaguchi、Kanta Kuramochi、Ryusuke Hatano	2015 年 7 月 12-16 日	pplication of SWAT model to predict the material dynamics in an agricultural watershed.	13th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements, ICOBTE、Fukuoka、
13	小倉加世子・Wang Chunying・江口定夫・神山和則・山口紀子・倉持寛太・波多野隆介	2015 年 9 月 9-11 日	福島県の不作付け農業流域における放射性セシウム動態予測のための SWAT モデルの適用ー小流域への適用に関する問題点ー	日本土壌肥料学会 2015 年度京都大会
31	小松輝久	2013 年 11 月 29 日	日仏海洋学会・仏日海洋学会による震災からのカキ養殖復興に向けた取り組み、	日本学術会議「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」
13	浅野亮樹、早川敦、志村洋一郎、稲元民夫、福島淳	2014 年 10 月 21 日	東日本大震災の津波浸水による農地土壌微生物群集への影響.	環境微生物系学会合同大会、浜松市
13	浅野亮樹、早川敦、志村洋	2013 年 11 月 22 日	東日本大震災で津波浸水した農地土壌微生物群集における中長期的影響の解析	第 29 回日本微生物生態学会年次大会、鹿児島市

	一郎, 稲元民夫, 福島淳			
13	木下英樹, 佐藤友香, 大竹文香, 北澤春樹, 齋藤忠夫, 菰田俊一, 石田光晴, 木村和彦	2013 年 9 月 13 日	「乳酸菌を用いた内部被曝低減の可能性と豆乳ヨーグルトの試作」	平成 25 年度酪農科学シンポジウム,
13	木下英樹, 有我裕貴, 門脇彩希, 庄子百香, 星上大貴, 渡邊航平, 菰田俊一, 津志田藤二郎, 木村和彦	2015 年 9 月 25 日	「トリプルプロテクト乳酸菌を用いた内部被曝低減豆乳ヨーグルトの開発」	2015 年度酪農科学シンポジウム
13	大竹秀男・木村大輝	2012 年 5 月 26 日	津波による被害と土壌動物相との関係	日本土壌動物学会
	大竹秀男・木村大輝	2012 年 9 月 29 日	津波による被害と土壌性ダニ類との関係	日本ダニ学会
13	Hideo OTAKE	14-18 July, 2014	Soil mites at the tsunami-stricken (or suffered) areas	XIV international congress of acarology, Kyoto
13	佐藤創・田中規夫・野口宏典・鳥田宏行・真坂一彦・阿部友幸・岩崎健太	2015 年 3 月 26-29 日	樹木の被害を組み込んだ林帯の津波減衰効果のシミュレーション	第 126 会日本森林学会大会
13	石井雅久・森山英樹・奥島里美・相澤正	2011 年 8 月 26 日	東北地方太平洋沖地震によるガラス室・鉄骨ハウスの被害調査	2011 年度農業施設学会年次大会

	樹・常磐秀夫・田場昭男			
13	大川茂範・北川誉紘・浅井元朗	2014 年 3 月 29 日	宮城県の津波被災ノウチの復旧過程に伴う雑草植生の変化とコウキヤガラ発生リスクマップの精度検定	日本雑草学会第 53 回大会
13	飯塚他	2016 年 3 月 28 日	福島原発事故後 4 年 8 ヶ月におけるスギの木部半径方向の ^{137}Cs 濃度の特徴	第 66 回日本木材学会
13	飯塚他	2015 年 9 月 8 日	スギ樹体内に吸収された放射性セシウムとカリウムの挙動の関係	第 79 回日本植物学会大会
13	飯塚他	2015 年 7 月 8 日	スギの植栽による林業的除染の可能性の模索ー幼齡なスギに経根吸収された ^{137}Cs の実態調査ー	第 52 回アイソトープ・放射線研究発表会
13	紙谷紹夫、大越和加、西谷豪、遠藤宜成	2013 年 9 月	女川湾の微生物環構成生物は震災前後でどう変化したか	2013 年度日本海洋学会秋季大会、北海道大学、札幌
13	佐藤浩樹、西谷豪、大越和加、遠藤宜成	2015 年 9 月	女川湾におけるカイアシ類群集の季節変動と生産量について	日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会、北海道大学、札幌
13	宍戸雄太、遠藤宜成、大越和加、西谷豪	2015 年 9 月	女川湾における一次生産の季節変動	日本海洋学会 2016 年度春季大会、東京大学、東京

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	東京大学	2013 年	久保成隆・溝口勝、「福島復興農業工学会議（土壌除染の農業工学的研究）」活動報告、 http://utf.u-tokyo.ac.jp/2013/07/post-43c5.html	東京大学国際情報農学研究室
13	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援会議		http://www.ibaraki.ac.jp/common/pdf/generalinfo/h25_hukkou_project.pdf	

13	溝口勝	2012 年	http://www.iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp/mizo/edrp/fukushima/fsoil/	
13	東京大学大学院農学生命科学研究科	2012 年	http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/event/20120526.html	第 2 回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会
13	東京大学大学院農学生命科学研究科	2015 年	http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/event/20150425.html	第 11 回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会
13	飯舘村放射能エコロジー研究会	2014 年	http://iitate-sora.net/wp-content/uploads/2014/04/t2014_suzuki_slide_s.pdf	鈴木譲
13	農林水産省	2014 年	http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/pdf/youin_kome2.pdf	放射性セシウム濃度の高い米が発生する要因と その対策について ~要因解析調査と試験栽培等の結果の取りまとめ~ (概要 第 2 版)
13	農林水産省	2015 年	http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/pdf/youin_daizu_3.pdf	放射性セシウム濃度の高い米が発生する要因と その対策について ~要因解析調査と試験栽培等の結果の取りまとめ~ (概要 第 2 版)
13	農林水産省	2014 年	http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/pdf/h25soba_yoin.pdf	放射性セシウム濃度の高いそばが発生する要因と その対策について ~要因解析調査と試験栽培等の結果の取りまとめ~ (概要 第 2 版)
13	農林水産省	2015 年	http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/fukushima/index.html	福島県南相馬市の 25 年産米の基準値超過の発生要因調査について
13	農林水産省	2011 年	http://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/tya_taiou.html	お茶の放射性セシウムの検出問題への対応等について
13	農林水産省	2016 年	http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/001.html	飼料作物関係の対応
13	農研機構	2011-16 年	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/popular/result135	放射能対策技術一覧

13	農研機構	2016 年	http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/061963.html	営農再開に向けた牛舎・パドック（屋外運動場）清掃のポイント
13	日本雑草学会		http://wssj.jp/news/2012/20120322.html	震災復興支援情報
13	東京農工大学 農学部	2012-2016 年	http://web.tuat.ac.jp/~biof-pro/index.html	文部科学省特別経費プロ バイオ肥料プロジェクト
13	森林総合研究所	2014 年	http://www.ffpri.affrc.go.jp/rad/index.html	森林と放射能ほか

（８）データの公開・寄託

該当なし

（９）その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
13	柴田泰宙	2015 年	Spatial Surplus Production Model（空間構造を考慮した余剰生産モデル）をエクセルおよび統計解析ソフト R を用いて行うためのマニュアルの作成	福島県水産試験場
13	農林水産省	2012 年	農地土壌の放射性物質除去技術（除染技術）作業の手引き 第 1 版	

複合 31-13（１）報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-13	一ノ瀬友博・板川暢・矢ヶ崎太洋・有賀淳・清水拓海	2016 年	もうね語り部帖第三号	慶應義塾大学 SFC 気仙沼復興プロジェクト，藤沢，36pp
31-13	一ノ瀬友博・板川暢・矢ヶ崎太洋・樋口陽平・三澤義大	2014 年	もうね語り部帖第二号	慶應義塾大学 SFC 気仙沼復興プロジェクト，28pp

31-13	一ノ瀬友博・板川暢・矢ヶ崎太洋・伊藤渚生・金森貴洋・高橋麻里	2013 年	舞根語り部帖	慶應義塾大学気仙沼復興支援プロジェクト, 28pp
31-13	福島県水産試験場	2015 年	平成 27 年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業事後評価報告書（実用技術開発ステージ）、震災後の常磐周辺海域における底魚資源管理技術の開発	福島県水産試験場
31-13	Makita K	2012 年	三井物産環境基金プロジェクト報告書「被災地復興を目的とした環境アセスメント支援プロジェクト」	
31-13	関崎勉・細野ひろみ他	2013 年	平成 24 年度報告書「放射性物質汚染と畜産物の安全に関する調査事業」	食の安全研究センター
31-13	関崎勉・細野ひろみ他	2014 年	平成 25 年度報告書「畜産物の安全に関するリスクコミュニケーション事業」	食の安全研究センター
31-13	関崎勉・細野ひろみ他	2015 年	平成 26 年度報告書「福島県の畜産業復興のための調査及び情報提供事業」	食の安全研究センター
31-13	関崎勉・細野ひろみ他	2016 年	平成 27 年度報告書「被災地産畜産物に関する情報提供・理解醸成事業（福島県の畜産業復興のための国内外調査と情報提供事業）」	食の安全研究センター
31-13	小池康之	2012 年	津波で被災した三陸の養殖漁業復興のための活動, La mer, 50, 52-54, 2012.	日仏海洋学会
31-13	小池康之	2013 年	津波で被災した三陸の養殖漁業復興のための活動」報告, La mer, 51, 50, 2013	日仏海洋学会
31-13	小松輝久	2012 年	日仏共同研究プロジェクト「沿岸域の持続可能な開発に関する日仏共同研究：被災した三陸沿岸の復興を目指して」報告	日仏海洋学会
31-13	日仏海洋学会	2014 年	第 16 回日仏海洋学シンポジウムについて, La mer, 52, 108, 2014	日仏海洋学会
31-13	杉浦広幸・河野圭助・香山雪彦	2014 年	2011 年度東日本大震災復興助成（研究助成）「教育・福祉施設および一般家庭での放射性物質対策による園芸活動再興の研究」成果報告書	三井物産環境基金

複合 31-13 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-13	陽捷行・緒方 武比古・古矢 鉄矢	2012 年	東日本大震災の記録―破壊・絆・甦生―	養賢堂
31-13	公益社団法人 日本水産学会 東日本大震災 災害復興支援 検討委員会	2013 年	公益社団法人日本水産学会における東日本大震災への対応および復興支援の関連活動	公益社団法人日本水産学会東日本大震災災害復興支援検討委員会
31-13	公益社団法人 日本水産学会 東日本大震災 災害復興支援 検討委員会	2016 年	公益社団法人日本水産学会における東日本大震災への対応および復興支援の関連活動（続編）	公益社団法人日本水産学会東日本大震災災害復興支援検討委員会
31-13	坂田隆, 大竹 美登利、小川 宣子, 佐々井 啓, 中島明 子, 宮野道 雄, 生田英 輔、萬羽郁 子, 加藤浩 文、吉井美奈 子, 浜島京子, 久慈るみ子, 野田奈津実, 奥山みどり, 山崎泰央, 石 原慎士, 李東 勲	2014 年	「東日本大震災ボランティアによる支援と仮設住宅 家政学が見守る石巻の 2 年半」	建帛社

複合 31-13 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-13	Makita K, Inoshita K, Kayano T, Hagiwara K, Asakawa M, Ogawa K, Noda J, Sasaki H, Nakatani N, Higuchi H, Iwano H and Tamura Y.	2014 年	Temporal changes in environmental health risks and socio-psychological status in areas affected by the 2011 Tsunami in Ishinomaki, Japan. Environment and Pollution 3(1): 1-20.	Elsevier
31-13	Kohei Makita, Hidetomo Iwano and Yutaka Tamura ほか	2014 年	Temporal Changes in Environmental Health Risks and Socio-Psychological Status in Areas Affected by the 2011 Tsunami in Ishinomaki, Japan, Environment and Pollution; Vol. 3, No. 1; 2014	Canadian Center of Science and Education
31-13	Hiromi HOSONO, Yuko KUMAGAI, Tsutomu SEKIZAKI	2013 年	“Consumer awareness and attitude on radiocesium food contamination following Fukushima incident”, Journal of Disaster Research, 8:762-772, 2013	富士技術出版株式会社
31-13	関崎 勉、細 野ひろみ、局 博一	2012 年	「放射性物質汚染と畜産物の安全性に関する調査事業の概要」Biophilia 1(3):73-82, 2012.	株式会社 アドスリー
31-13	小松輝久	2012 年	巻頭言 三陸沿岸復興のグランドデザインをと もに描こう. 沿岸域学会誌, 24(2), 1, 2012	日本沿岸域学会
31-13	小松輝久	2011 年	干潟や藻場は回復するのか-藻場. 特集: 震災 後の生態系の変化を追う. 自然保護, 526, 9- 10, 2011	日本自然保護協会

31-13	小松輝久, 大瀧敬由, 阪本真吾, 澤山周平, 佐々修司	2012 年	三陸沿岸の沿岸漁業に及ぼした 2011 年 3 月 11 日の大津波の影響—自然的な基盤から考える. 日仏工業技術, 57 (2), 30-32, 2012	日仏工業技術会
31-13	小松輝久	2014 年	三陸における藻場生態系の復活, 海洋政策研究財団 ニューズレター, 327, 3, 2014	公益財団法人笹川平和財団
31-13	小松輝久, 寺内元基, 太齋彰浩, 青木優和, 名倉良雄, 佐々木久雄, 辻本良, 佐々修司, 阪本真吾, 柳哲雄	2014 年	東日本大震災からの沿岸漁業復興を目指す志津川湾藻場再生への取り組み. 沿岸海洋研究, 52, 103-110, 2014.	日本海洋学会 沿岸海洋研究会
31-13	Shinnosuke KagaEmail authorShigeru SatoYoshimasa KagaKimiaki NaikiShiho WatanabeYuichiro YamadaTakehiko Ogata	2015 年	Prediction of on-site depuration of paralytic shellfish poisoning toxins accumulated in the scallop <i>Patinopecten yessoensis</i> of Ofunato Bay, Japan. Fisheries Science July 2015, Volume 81, Issue 4, pp 635-642	公益社団法人日本水産学会
31-13	Makita K, Inoshita K, Kayano T, Hagiwara K, Asakawa M, Ogawa K, Noda J,	2014 年	Temporal dynamics in environmental and mental health risks in Tsunami affected areas in Ishinomaki, Japan. Environ. Poll., 3: 1-20.	Elsevier

	Sasaki H, Nakatani N, Higuchi H, Iwano H and Tamura Y			
31-13	Aoyagi T, Kimura M, Yamada N, Navarro RR, Itoh H, Ogata A, Sakoda A, Katayama Y, Takasaki M, Hori T.	2015 年	Dynamic transition of chemolithotrophic sulfur-oxidizing bacteria in response to amendment with nitrate in deposited marine sediments. Front Microbiol. 6:426. 2015	Frontiers Media S.A.
31-13	Hori T, Kimura M, Aoyagi T, Navarro RR, Ogata A, Sakoda A, Katayama Y, Takasaki M.	2014 年	Biodegradation potential of organically enriched sediments under sulfate- and iron-reducing conditions as revealed by the 16S rRNA deep sequencing. J Water Environ Technol. 12(4):357-366. 2014	公益社団法人日本水環境学会
31-13	杉浦広幸・河 野圭助・香山 雪彦	2013 年	福島第一原子力発電所事故後の福島市でのクロマツ(Pinus thunbergii) のマツカサと葉における放射性セシウムの汚染状況と子どもの遊び・工作としての利用見込みの検討. 日本放射線安全管理学会雑誌 12 巻 1 号 P60~65. 2013	一般社団法人日本放射線安全管理学会

複合 31-13 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-13	Yasuyuki Koike and Tetsuo Seki	2012 年 11 月 28 日	Collaboration of oyster culture between Japan and France,	Oyster World Congress, Arcachon, France
-------	--------------------------------------	---------------------	--	--

複合 3 1 - 1 3 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-13	京都大学農学 研究科・生物 資源経済学専 攻・農業組織 経営学分野	2011 年	http://www.agribusiness.kais.kyoto-u.ac.jp/houshanou.html	放射性物質の健康影響に関する科学情報
31-13	京都大学農学 研究科・生物 資源経済学専 攻・農業組織 経営学分野	2011 年	http://www.agribusiness.kais.kyoto-u.ac.jp/houshanou.html	「食品を介した放射性物質の健康への影響」
31-13	東日本大震災 日本家政学会 生活研究プロ ジェクト	2013 年	http://www.jshe.jp/project/index.html	日本家政学会
31-13	佐々井啓、中 島明子編	2015 年	http://www.jshe.jp/eiseibooklet.pdf	日本家政学会発行 2015 年 12 月に石巻専修大学で現地報告会を行った。2016 年にも開催予定である。
31-13	農研機構	2011 年	http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2011/220d0_10_08.html	放射性物質汚染サイレージは堆肥化により周囲を再汚染することなく減量できる
31-13	東北マリンサイエンス漁点 形成事業	2011 年～	http://www.i-teams.jp/j/index.html	文部科学省の海洋生態系研究開発拠点機能形成事業費補助金制度

分野：食料科学

担当：渡部 終五

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
14	上田 宏	2015 年	JST「復興促進プログラム」「水産加工サプライチェーン復興に向けた革新的基盤技術の創出」「東北地方の高回帰性サケ創出プロジェクト」「東北地方の高回帰性サケ創出プロジェクト」	JST

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
14	上田 宏編著	2015 年	三陸のサケ：復興のシンボル	北海道大学出版会
14	水産総合研究センター編	2016 年	海と魚の放射能汚染	成山堂書店
14	K. Nakata and H Sugisaki eds	2016 年	Impacts of the Fukushima Nuclear Accident on Fish and Fishing Grounds	Springer

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
14	Ueda H et al	2016 年	Involvement of hormones in olfactory imprinting and homing in chum salmon. Scientific Reports, 6, 21102, 2016	Springer Nature

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
14	Ueda H.	3 Nov. 2014	Current status and future prospects of Pacific salmon propagation systems in Japan	Aquaculture 2013, Palacio de Congresos de Canarias Convention Centre, Gran Canaria

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

分野：基礎医学

担当：山本 雅之

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
15		2015 年	1000 人ゲノム情報（活動報告書として毎年文科省へ提出）	
15	青木康博他	2014 年	激甚災害時における死体検案体制の整備および運用に関する研究：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金，総括・分担研究報告書，2010 年	
15	伊藤慎也	2016 年	放射線被ばくによる妊娠出産に対する不安のエンパワメント評価、研究活動スタート支援	科学研究費報告書
15	五十嵐 隆 他		被災後の子どものこころの支援に関する研究（五十嵐 隆 他 23, 24, 25 年度 総括・分担研究報告書）地域医療基盤開発推進研究事業 厚生労働科学研究費補助金	
15	鈴木信夫、他 5 名	2011 年	水から学ぶ健康の泉～被災・被曝・ストレス編、千葉大学大学院医学研究院環境影響生化学	
15	鈴木信夫、他 6 名	2013 年	ライフセラミックスから学ぶ健康の泉～放射線・生活習慣病編、NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク	
15	鈴木信夫、他 7 名	2015 年	ライフセラミックスが語る健康の泉、NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク	

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
15	Kikuya M, Miyashita M, Yamanaka G, Ishikuro M, Sato Y, Obara T, Metoki H, Nakaya N, Nagami F, Tomita H, Kiyomoto H, Sugawara J, Hozawa A, Fuse N, Suzuki Y, Tsuji I, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M, Kuriyama S.	2015 年	Protocol and Research Perspectives of the ToMMo Child Health Study after the 2011 Great East Japan Earthquake. Tohoku J Exp Med. 2015;236:123-30.	TOHOKU UNIVERSITY MEDICAL PRESS
15	Morio Iino, Yasuhiro Aoki	2016 年	The use of radiology in the Japanese tsunami DVI process, The journal of Forensic Radiology and Imaging, 4, 20-26	Elsevier
15	Morio Iino	2013 年	DVI for Japan tsunami 2011, APMLA Newsletter, 1, 15	
15	福士政広	2014 年	【福島原発事故後から求められる医療関係者の放射線教育とは】 原発災害の反省から求められる放射線教育 診療放射線技師の放射線防護教育. 医療放射線防護 Newsletter, (70) : 24-29	医療放射線防護連絡協議会

15	Kazumasa Inoue, Masahiro Hosoda, Yoshitaka Shiroma, Masahide Furukawa, Masahiro Fukushi, Kazuki Iwaoka, Shinji Tokonami	2015 年	Changes of ambient gamma-ray dose rate in Katsushika Ward, metropolitan Tokyo before and after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry, 303 : 2159-2163	Springer
15	S. Yanai, Y. Semba, S. Endo	2012 年	Remarkable Changes in Behavior and Physiology of Laboratory Mice after the Massive 2011 Tohoku Earthquake in Japan. PLoS ONE 7, e44475	PLOS
15	S. Yanai, Y. Semba, and S. Endo	2014 年	The effect of diazepam on mouse PTSD-like behaviors induced by the 2011 Tohoku earthquake. Behav Sci Res 53, 27-36	
15	柳井修一、遠藤昌吾	2015 年	巨大地震が飼育動物へ及ぼす影響、LABIO21, 59, 20-24	日本実験動物協会

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
15	Shinya ITO, Aya GOTO, Mie SASAKI, Nobuhiro KONNO, Seiji YASUMURA	2016 年 7 月	Fukushima future parents empowerment measure (FPEM): Reliability and validity assessment in Fukushima after the nuclear accident.	The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan,

15	Morio Iino	2015 年 5 月 14 日	DVI operation for Japan earthquake and tsunami 2011, The 4th Congress of International Society of Forensic Radiology and Imaging.	International Society of Forensic Radiology and Imaging
15	西形里絵	2015 年 10 月 30 日	福島県内の法医解剖例における甲状腺疾患の検討—特に甲状腺ラテント癌の頻度について—	第 16 回日本法医学会学術北日本地方集会
15	西形里絵	2016 年 6 月 17 日	福島県内の法医解剖例における甲状腺疾患の検討—特に甲状腺ラテント癌の頻度について—第 2 報	第 100 次日本法医学会学術全国集会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
15	東北メディカル・メガバンク機構	2016 年	http://www.megabank.tohoku.ac.jp/tommo/community/childhealthstudy201603	
15	個人の HP	2016 年	https://sites.google.com/site/shinyaitonohp/home	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
15			気仙沼市医療支援セントラルミーティングにて報告しました。また、セントラルミーティングリーダーであった、東京都医療支援リーダーの南多摩病院・田中譲先生の指名により、気仙沼防災本部会議に於いて口頭報告しました（気仙沼市長・国道交通省・宮城県・東北電力・気仙沼消防本部他の方々が参加しておられた、気仙沼の防災中央会議です）。	

複合 31-15 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15	富田博秋	2011 年	第 1 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所
31-15	富田博秋	2011 年	第 2 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所
31-15	富田博秋	2011 年	第 3 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所
31-15	富田博秋	2011 年	第 4 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所
31-15	富田博秋	2011 年	第 5 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所
31-15	富田博秋	2011 年	第 6 回七ヶ浜町健康調査報告書	東北大学災害科学国際研究所

複合 31-15 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15	Keiji Suzuki, Shunichi Yamashita	2015 年	Perspective: Health-risk implications of the Fukushima Nuclear Power Plant Accident. In Fukushima Nuclear Accident (ed by Shizuyo Suto)	Nova Science
31-15	田中司朗、角 山雄一、中島 裕夫、坂東昌 子（編集）	2016 年	放射線必須データ 32	創元社

複合 31-15 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15	Orita M, Nakashima K, Hayashida N, Endo Y, Yamashita S, Takamura N.		Concentrations of radiocesium in local foods collected in Kawauchi Village after the accident at the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station. Sci Rep in press	Nature

31-15	Nakashima K, Orita M, Fukuda N, Taira Y, Hayashida N, Matsuda N, Takamura N.	2015 年	Radiocesium concentrations in wild mushrooms collected in Kawauchi Village after the accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. PeerJ 3:e2417,	PeerJ
31-15	山下俊一、丹羽太貴、宮崎真他	2013 年	災害に対するレジリエンス構築：原子力災害からの復興に向けた課題と対応 学術の動向 12	日本学術会議
31-15	Yamashita S: Tenth Warren K.	2014 年	Keynote address-The Fukushima Nuclear Power Plant accident and comprehensive health risk management. Health Physics 106 (2): 166-180,	Wolters Kluwer Health, Inc.
31-15	Yamashita S, Takamura N	2015 年	Post-crisis efforts towards recovery and resilience after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. Jpn J Clin Oncol 45(8): 700-707	Oxford Academic
31-15	Yamashita S	2016 年	Comprehensive health risk management after the Fukusihma Nuclear Power Plant accident. Clinical Oncology 28(4): 255-262	Elsevier
31-15	Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Tsuji I, Hozawa A, Tomita H.	2015 年	The association between medical treatment of physical diseases and psychological distress after the Great East Japan Earthquake: The Shichigahama Health Promotion Project. Disaster Med Public Health Prep. 9(4): 374-381	Cambridge University Press
31-15	Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Tsuji I, Hozawa A, Tomita H.	2015 年	Unemployment risk among individuals undegoing medical treatment for chronic diseases. Occup Med (Lond). 66(2):143-149,	Oxford Academic

31-15	Nakaya N, Nakamura T, Tsuchiya N, Narita A, Tsuji I, Hozawa A, Tomita H.	2016 年	Prospect of the future housing and the risk of psychological distress at one year after an earthquake disaster. Psychiatry Clin Neurosci. 70(4):182-189.	Wiley-Blackwell
31-15	Miyashita M, Kikuya M, Yamanaka C, Ishikuro M, Obara T, Sato Y, Metoki H, Nakaya N, Nagami F, Tomita H, Kiyomoto H, Sugawara J, Hozawa A, Fuse N, Suzuki Y, Tsuji I, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M, Kuriyama S.	2015 年	Eczema and Asthma Symptoms among Schoolchildren in Coastal and Inland Areas after the 2011 Great East Japan Earthquake: The ToMMo Child Health Study. Tohoku J Exp Med. 2015;237:297-305.	TOHOKU UNIVERSITY MEDICAL PRESS
31-15	Uchiyama K. et al.	2015 年	A study of thyroid 131I activity of five human subjects exposed to a radioactive plume at Tamura City in Fukushima. Health Phys. Vol. 109 (No. 6): 573-581,	Wolters Kluwer Health, Inc.
31-15	香山雪彦、内藤哲雄、藤原	2013 年	放射能汚染に揺れる福島：避難をめぐるコミュニティと家族の葛藤。アディクションと家族 第 29 巻 pp. 164-170	日本嗜癮行動学会

	正子、日下輝 美			
31-15	香山雪彦	2015 年	避難生活によるコミュニティと家族の崩壊：原発事故から 4 年、福島は未来を示せるか？アディクションと家族 第 31 巻 pp. 71-79	日本嗜癪行動学会
31-15	小林紀代、 佐々木美恵、 市川陽子、香 山雪彦	2016 年	原子力発電所事故 3 年後の放射線不安下で幼児を育てる母親の求める支援。アディクションと家族 第 32 巻	日本嗜癪行動学会

複合 3 1 - 1 5 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15	Uchiyama K.	2015 年 5 月 27 日	Rivisit of Prophylaxis Oral Potassium Iodide Administration Based on Whole Body Counter Measurement Results at the Fukushima Accident.	15th International Congress of Radiation Research (ICRR2015)
31-15	Uchiyama K.	2014 年 7 月 17 日	Iodine-131 Thyroid Residual Activity In-Vivo Measurement Seventeen Hours after Radioactive Inhalation at Tamura in Fukushima Prefecture at 15 March 2011.	Health Physics Society, 59th Annual Meeting

複合 3 1 - 1 5 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15	東北大学		http://www.megabank.tohoku.ac.jp/3gen/	

複合 3 1 - 1 5 (9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-15			関係国際機関 (WHO, IAEA, UNSCEAR, ICRP など) や関係省庁における福島原発事故健康影響と放射線基礎知識の取り纏めに貢献	

分野：臨床医学

担当：山下 俊一

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16			災害医療コーディネーター設置に関わる都道府 県アンケート調査結果報告 http://www.irides- icdm.med.tohoku.ac.jp/pdf/2013-4-1.pdf	
16			HFA IRIDeS Review Report http://irides.tohoku.ac.jp/media/files/HFA _IRIDeS_ReviewReport_Web_20140612%281%29.p df	
16		2014 年	心の健康サポート事業報告書	学校法人 日本医科大学
16		2014 年	被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関す る研究	厚生労働科学研究分担者報告書
16	丹羽真一	2012 年	東日本大震災における精神疾患の実態について の疫学的調査と効果的な介入方法の開発につい ての研究	厚生労働科学研究分担者報告書
16	Kato K, Sekiguchi M, Nikaido T, Otoshi K, Matsuo Y, Kikuchi S, Konno S	2013 年	Psychosocial stress is associated with onset of low back pain with disability in college students: A longitudinal study before and after the disaster in Fukushima. ISSLS 40th annual meeting, Scottsdale, AZ USA, 064, p. 45	
16		2012-2014 年	被災後の子どもの心の支援に関する研究	厚生労働科学研究総括分担報告書
16	緑川早苗	2014 年	研究成果展開事業（先端計測分析技術・機器開 発プログラム）に係る委託研究開発 報告書	発行元 JST
16	金吉晴	2015 年	被災地における精神障害等の情報把握と介入効 果の検証及び介入手法の向上に資する研究	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

16	奥山真紀子	2016 年 3 月	東日本大震災が子供のメンタルヘルスに与える 長期的影響に関する研究	平成 27 年度 分担研究報告書 (H24～27 年度)
16			臨床研究・治験における大規模災害時の対応指 針の作成に関する研究	厚生労働科学研究平成 24－25 年 度総括・分担研究報告書
16	楠岡英雄	2012 年	医療技術実用化総合研究事業	厚生労働科研平成 23 年度総括研 究報告書
16	中井敏晴	2014 年 3 月	大震災における MRI 装置に起因する 2 次災害防 止と被害最小化のための防災基準の策定	厚生労働科学研究費地域医療基 盤開発推進研究事業 総括・分担 研究報告書

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16	中井敏晴他		大震災におけるMRI装置に起因する2次災害 防止と被害最小化のための防災基準の策定 厚 生労働科学研究成果データベース 総括； 2012、2013	

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16			子どものメンタルヘルスリスク軽減のための災 害マネジメント	
16	桑原齊、荒木 剛、安藤俊太 郎、金原明 子、笠井清登	2012 年	こころのケアの中・長期的支援—精神医療から 精神保健へ災害行動科学研究会＋島津明人 (編) 災害時の健康支援 行動科学からのアプ ローチ	誠信書房

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

16		2011 年	Shelter-acquired pneumonia after a catastrophic earthquake in Japan. J Am Geriatr Soc 59:1968-1970	
16		(in press)	Association between social ties and life satisfaction in quake-affected communities. 日本ストレス学会誌	
16	Takahashi H, Fujimura S, Ubukata S, Sato E, Shoji M, Utagawa M, Kikuchi T and Watanabe A	2012 年	Pneumonia after earthquake, Japan, 2011. Emerg Infect Dis 18:1909-1911	
16	渡辺 彰	2013 年	東日本大震災で痛感された感染症予防対策-ワクチン接種普及の必要性を中心に-. 化学療法の領域 29: 434-441	
16	高橋 洋、渡辺 彰	2012 年	東日本大震災における呼吸器感染症. 感染症 42(1): 10-14 (本文)、19-22 (解説 I)	
16	Daito H, Suzuki M, Shiihara J, Kilgore PE, Ohtomo H, Morimoto K, Ishida M, Kamigaki T, Oshitani H, Hashizume M, Endo W, Hagiwara K, Ariyoshi K, Okinaga S	2013 年	Impact of the Tohoku earthquake and tsunami on pneumonia hospitalisations and mortality among adults in northern Miyagi, Japan: a multicenter observational study. Thorax, 68(6):544-50	

16	Furukawa K, Ootsuki M, Kodama M, Arai H	2012 年	Exacerbation of dementia after the earthquake and tsunami in Japan. J Neurol. 2012; 259(6):1243	
16	Ishiki A, Okinaga S, Tomita N, Kawahara R, Tsuji I, Nagatomi R, Taki Y, Takahashi T, Kuzuya M, Morimoto S, Iijima K, Koseki T, Hiroyuki A, Furukawa K	2016 年	Changes in Cognitive Function in the elderly Living in Temporary Housing after the Great East Japan Earthquake. Plos One, 11(1):e0147025	
16	Shoji Yabuki, Kazuo Ouchi, Shin-ichi Kikuchi, Shin-ichi Konno	2015 年	Pain, quality of life and activity in aged evacuees living in temporary housing after the Great East Japan Earthquake of 11 March 2011: A cross-sectional study in Minamisoma City, Fukushima Prefecture. BMC Musculoskeletal Disorders 16: 246	
16	Shoji Yabuki, Kazuo Ouchi, Shin-ichi Kikuchi, Shin-ichi Konno	2015 年	Effects of exercise for aged evacuees living in temporary housing after the Great East Japan Earthquake: Differences between group and individual exercise programs. Int J Phys Med Rehabil 3: 283	
16	Naoko Fukuhara,	2016 年	High incidence of ANCA-Positive Interstitial Pneumonia after the 2011	

	Yoshinori Tanino, Suguru Sato, Takefumi Nikaido, Kenichi Misa, Atsuro Fukuhara, Manabu Uematsu, Kenichiro Hirai, Hiroyuki Minemura, Hiroshi Yokouchi, Kenya Kanazawa, Mitsuru Munakata		Fukushima Disaster. Allergol Int 65(1) 117-119	
16	Yoshinori Tanino, Kenichi Misa, Naoko Fukuhara, Takefumi Nikaido, Suguru Sato, Atsuro Fukuhara, Kenichi Hirai, Hiroyuki Minemura,	(in press)	Increase in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after the 2011 Fukushima disaster. Allergol Int	

	Manabu Uematsu, Hiroshi Yokouchi, Kenya Kanazawa, Mitsuru Munakata			
16	加藤欽志、関 口美穂、二階 堂琢也、大歳 憲一、松尾洋 平、紺野慎一	2013 年	心理社会的ストレスは本当に腰痛を悪化させる のか？－福島県立医科大学生における震災前後 での縦断研究－第 42 回日本脊椎脊髄病学会。 沖縄 J Spine Res 14 (3), 538	
16	笠井清登、門 脇裕美子、桑 原斉、安藤俊 太郎、金原明 子、熊倉陽 介、近藤伸 介、荒木剛	2015 年	こころのレジリエンス社会の構築へ —災害こ ころのケア活動から学んだこと。学術の動向 7 月号 : 33-43	
16	荒木剛、桑原 斉、安藤俊太 郎、笠井清登	2014 年	災害直後のこころのケアのあり方—東京大学医 学部附属病院災害医療マネジメント部の取り組 み—。精神神経学雑誌 116:189-195	
16	Kuwabara H, Araki T, Yamasaki S, Ando S, Kano Y and Kasai K	2014 年	Regional differences in post-traumatic stress symptoms among children after the 2011 tsunami in Higashi-Matsushima, Japan. Brain Dev. 37:130-6	
16	Shuntaro Ando, Hitoshi Kuwabara, Tsuyoshi	2016 年	Mental health problems in a community after the Great East Japan Earthquake in 2011: a systematic review. Harvard Review Of Psychiatry	

	Araki, Akiko Kanehara, Shintaro Tanaka, Ryo Morishima, Shinsuke Kondo, Kiyoto Kasai			
16	Matsubara H, Ishikuro M, Kikuya M, Chida S, Hosoya M, Ono A, Kato N, Yokoya S, Tanaka T, Isojima T, Yamagata Z, Tanaka S, Kuriyama S, Kure S	2015 年	Design of the Nationwide Nursery School Survey on Child Health Throughout the Great East Japan Earthquake. J Epidemiol. 2016;26(2):98-104	
16	Miyashita M, Kikuya M, Yamanaka C, Ishikuro M, Obara T, Sato Y, Metoki H, Nakaya N, Nagami F, Tomita H, Kiyomoto H, Sugawara J, Hozawa A,	2015 年	Eczema and Asthma Symptoms among Schoolchildren in Coastal and Inland Areas after the 2011 Great East Japan Earthquake: The ToMMo Child Health Study. Tohoku J Exp Med. 2015;237(4):297-305.	

	Fuse N, Suzuki Y, Tsuji I, Kure S, Yaegashi N, Yamamoto M, Kuriyama S			
16	Yokomichi H, Zheng W, Matsubara H, Ishikuro M, Kikuya M, Isojima T, Yokoya S, Tanaka T, Kato N, Chida S, Ono A, Hosoya M, Tanaka S, Kuriyama S, Kure S, Yamaga ta Z	2016 年	Impact of the great east Japan earthquake on the body mass index of preschool children: a nationwide nursery school survey. BMJ Open. 7;6(4):e010978	
16	Fujiwara T, Yagi J, Homma H, Mashiko H, Nagao K, Okuyama M, et al	2014 年	Clinically Significant Behavior Problems among Young Children 2 Years after the Great East Japan Earthquake . PLOS ONE 9(10):e109342	
16	Terasaka A, Tachibana Y, Okuyama M, Igarashi T	2014 年	Posttraumatic Stress Disorder in Children Following Natural Disasters: A Systematic Review of the Long-term Follow-up Studies. Journal of Child, Youth & Family Studies	

16	Fujiwara T, Mizuki R, Miki T, Chemtob C	2015 年	Association between facial expression and PTSD symptoms among young children exposed to the Great East Japan Earthquake: a pilot study. Front Psychol. 13;6:1534	
16	Seki T, Sasaki K, Mori S, Meguro K	2014 年	Use of Traditional East Asian Medicine to Diagnose and Kampo Medicine Kamishoyosan to Treat Survivors of the Great East Japan Earthquake 2011: A Retrospective Study. Altern Integ Med. 2014;3(4)	
16	高山 真 他	2011 年	東日本大震災における東洋医学による医療活動、日本東洋医学雑誌, 62 巻 5 号 Page621-626	
16	Takehiro Numata, et. al	2014 年	Treatment of posttraumatic stress disorder using the traditional Japanese herbal medicine saikokeishikankyoto: a randomized, observer-blinded, controlled trial in survivors of the great East Japan earthquake and tsunami, evidence based complementary and alternative medicine, 2014, http://www.hindawi.com/journals/ecam/2014/683293/	
16	Shin Takayama, et. al.	2012 年	Report on disaster medical operations with acupuncture/massage therapy after the great East Japan earthquake. Integrative medicine insight, 7:1-5	
16		2012-2016 年	日本小児救急医学会雑誌 Vol. 11 No. 1 2012、Vol. 12 No. 1 2013、Vol. 13 NO. 1 2014、Vol. 15 No. 1 2016	
16	前谷津文雄他	2014 年	東日本大震災の被災地宮城県における MR 装置被害の実態調査報告. 日本放射線技術学会雑誌 Vol. 70	
16	中井敏晴他	2013 年	東日本大震災による MR 装置 602 台の被害状況報告. 日本磁気共鳴医学界雑誌 : 33 (2) : 92-119	

16	中井敏晴他	2014 年	MR 検査室における震災対策-防災対策と緊急対処のための 2 指針について-日本磁気共鳴医学界雑誌：34（2）52-72	
16	町田好男他	2014 年	東日本大震災により被災した MR 検査室を訪ねて-被災地から伝えたいこと-;映像情報メディカル；350-355	
16	笹川嘉久、黒川新二、河合健彦ほか	2011 年	東日本大震災におけるこどもの心のケア 2011 年 3 月 26 日から 4 月 25 日までの気仙沼市での活動、市立札幌病院誌 71, 35-41	

（6）学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16	江川新一、佐々木宏之、児玉光也、伊藤潔	2014 年 2 月 26 日	災害医療（保健・福祉を含む）コーディネータ設置の現状と課題	第 19 回日本集団災害医学会学術集会
16		2014 年 10 月 1 日		日本ストレス学会発表
16	渡辺 彰	2012 年 8 月 25 日	東日本大震災後に急増した肺炎に耐性菌はどう関与したか？	第 10 回中部耐性菌フォーラム学術講演会
16	渡辺 彰	2012 年 9 月 6 日	呼吸器感染症診療の最近の話題 ～東日本大震災後に急増した肺炎の実態を含めて～	第 2 回盛岡南地区感染対策講演会
16	渡辺 彰	2013 年 6 月 1 日	日本呼吸器学会の院内肺炎ガイドラインの現状と展望～東日本大震災後に急増した感染症の実態解析を含めて～.	第 7 回検査技師と研修医のための感染症フォーラム
16	渡辺 彰	2014 年 4 月 26 日	東日本大震災の経験から見てきた肺炎球菌ワクチンの重要性と今後の展望	第 54 回日本呼吸器学会学術講演会・イブニングセミナー
16		2014 年 2 月 1 日		国際シンポジウム「災害と子どものメンタルヘルス
16		2014 年 9 月 1 日		国際セミナー
16	荒木 剛	2013 年 10 月 4 日	宮城県東松島市における精神医療・精神保健	第 21 回日本精神科救急学会学術総会

16	荒木 剛	2013 年 12 月 15 日	宮城県東松島市における東京大学精神科の支援 について	全生活支援の中でのメンタルヘル ス専門家の役割と国境・県境を越 えた学際・職際連携を考える東日 本大震災長期支援のための国際遠 隔連携シンポジウム
16		2012 年 4 月 21 日	岩手県沿岸部中核病院における震災復興医療支 援モデルの構築	日本小児科学会学術集会
16		2012 年 6 月 1 日	東日本大震災支援特別委員会 活動報告	日本小児救急医学会学術集会
16		2012 年 6 月 28 日	Medical experience of an academic society in the great east japan earthquake and tsunami	international conference on emergency medicine

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16			http://tohoku-cancer.com/	作成中
16			http://www.ganpro.med.tohoku.ac.jp/	
16		2013 年	災害医療国際協力学分野 http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp	
16		2011 年 4 月 8 日	国立感染症研究所感染症情報センター（現 感 染症疫学センター） http://idsc.nih.go.jp/idwr/pdf-back26.html	
16	国立成育医療 研究センター 子どもの心の 診療ネットワ ーク	2013 年	「支援する思いを重いに変えないために」 http://www.shiensa.jp/	
16	福島県		福島県民健康調査 https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21045 b/	
16	福島県立医科 大学		放射線医学県民健康管理センター http://fukushima-mimamori.jp/outline/	

16	東北大学		東北大学小児科 http://www.ped.med.tohoku.ac.jp/311childhealth/index.html	
16			https://www.sh.go.jp	
16			http://www.hosokunagaku.jp/	
16	日本磁気共鳴医学会		日本磁気共鳴医学会ホームページ http://www.jsrm.jp/	

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16	乳幼児成長データ	寄託先を検討中		

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
16			中間報告として、平成 28 年 6 月 6 日開催の第 23 回「県民健康調査」検討委員会にて報告予定	予定

複合 31-16 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-16	Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Ohira T, Niwa S, Ohtsuru A, Mashiko H, Maeda M, Abe M; Mental Health Group of the	2015 年	Psychological distress and the perception of radiation risks: the Fukushima health management survey. Bull World Health Organ. 93(9):598-605	

	Fukushima health management survey			
	Yabe H, Suzuki Y, Mashiko H, Nakayama Y, Hisata M, Niwa S, Yasumura S, Yamashita S, Kamiya K, Abe M; Mental Health Group of the Fukushima Health Management Survey	2014 年	Psychological distress after the Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: results of a mental health and lifestyle survey through the Fukushima Health Management Survey in FY2011 and FY2012. Fukushima J Med Sci. 60(1):57-67	
31-16	Suzuki Y, Yabe H, Yasumura S, Niwa S, Ohtsuru A, Mashiko H, Maeda M, Masafumi A, on behalf of the Mental Health Group of the Fukushima	2014 年	Gender and age differences on psychological distress among evacuees of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident: The Fukushima Health Management Survey. World Psychiatric Association Section on Epidemiology and Public Health-2014 Meeting, Symposium on Mental Health Consequences of Radiation Disasters. Nara 10. 16-18	

	Health Management Survey			
31-16	S. Tokonami, M. Hosoda, S. Akiba, A. Sorimachi, I. Kashiwakura, M. Balonov	2012 年	Thyroid doses for evacuees from Fukushima nuclear accident, Scientific Reports, 2:507	

31-16 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-16			http://fukushima-mimamori.jp/outline/report/index06.html	
31-16			http://fukushima-mimamori.jp/publications/2016/01/000240.html	

分野：健康・生活科学

担当：山下 俊一

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17		2016 年	災害時の精神保健医療に関する研究	2015 年度厚生労働科学研究費分担 研究報告書
17	田畑 泉	2013 年	限られた場所でも行える運動プログラム	2011 年度文部科学省「復興教育支 援事業」立命館大学報告書
17	浦田秀子	2016 年 2 月	福島県川内村の帰村促進のための取り組み	環境省受託研究放射線の健康影響 に係る研究調査事業研究成果報告 書
17	小西恵美子	2013 年	公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財 団助成金による国内教頭研究報告書	
17	宮崎 真		まるとと線量評価に基づく詳細なリスク分析に 伴ったリスクコミュニケーションの確立 http://www.env.go.jp/chemi/rhm/reports/h2703c_5.pdf P. 428-445	
17		2013 年 3 月	被災地の応急仮設住宅に暮らす高齢者の健康支 援の実態調査及びガイドライン作成事業	公益財団法人 日本訪問看護財団

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17		2012 年	家庭学からの提言 震災にそなえて	一般社団法人日本家政学会

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17	福島県立医科 大学	2013 年	県民健康調査データベース http://fukushima-mimamori.jp/	

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17	坂田 隆・大 竹美登利他	2014 年	東日本大震災ボランティアによる支援と仮設住宅 —家政学が見守る石巻の2年半—	建帛社
17		2014 年	炊き出し衛生マニュアル	一般社団法人日本家政学会

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17	Mari Sato, Fumi Atogami, Yasuka Nakamura, Toyoko Yoshizawa		Experiences of public health nurses in remote communities during the Great East Japan Earthquake, Health Emergency and Disaster Nursing, 2(2), Available on line 8 Se	
17	Mari Sato, Fumi Atogami, Yasuka Nakamura, Yuko Kusaka, Toyoko Yoshizawa	2014 年	Committed to Working for the Resident with Strong Conviction: Experience of a Public Health Nurse in a Remote Community During the Great East Japan Earthquake, Health Care for Women International, Available on line 1 Oct 2014	
17	Mari Sato, Fumi Atogami, Yasuka Nakamura, Yuko Kusaka, Toyoko Yoshizawa	2014 年	Remote Community-Based Public Health Nursing During a Disaster: An Ethnographic Case Study in Japan, Australasian Emergency Nursing Journal, 2014 Aug;17(3):106-11	

17	Mizuno K, Okamoto- Mizuno K	2014 年	Actigraphically Evaluated Sleep on the Days Surrounding the Great East Japan Earthquake. Natural Hazards,	
17	田邊素子、小 林大介、水野 一枝、庭野賀 津子、水野 康	2014 年	避難所を想定した条件が筋硬度と睡眠に及ぼす影響について. 東北理学療法学 26: 184-188	
17	Okamoto- Mizuno K, Mizuno K, Tanabe M, Niwano K	2016 年	Effect of cardboard under a sleeping bag on sleep stages during daytime nap. Applied Ergonomics, 54, 27-32	
17	多屋淑子・竹 崎康子	2015 年	アンケート調査に見る空間放射線量の高い地域における衣生活の現状、日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科、第 21 号、197-205	
17	龍田希、仲井 邦彦、佐藤 洋、村田勝敬	2015 年	東日本大震災の子ども IQ に及ぼす影響. 小児科雑誌 167 巻 745~751	
17	奥山みどり・ 小川宣子・大 竹美登利・坂 田隆・佐々井 啓・中島明 子・浜島京 子・生田英 輔・吉井美奈 子・萬羽郁 子・山崎泰 央・石原慎 士・宮野道 雄・李東勲・ 久慈るみ子・	2015 年	東日本大震災におけるボランティアによる炊き出しメニューの栄養評価からみた献立提案の試み、日本家政学会誌、66 巻 4 号、pp158-166	

	加藤浩文・野田奈津実			
17	Ishii K, Goto A, Ota M, Yasumura S, Abe M, Fujimori K. Pregnancy and Birth Survey Group of the Fukushima Health Management Survey.	2016 年	Factors Associated with Infant Feeding Methods after the Nuclear Power Plant Accident in Fukushima: Data from the Pregnancy and Birth Survey for the Fiscal Year 2011 Fukushima Health Management Survey. Matern Child Health J	
17	Masatsugu Orui, Shuichiro Harada, Mizuho Hayashi	2014 年	Changes in suicide rates in disaster-stricken areas following the Great East Japan Earthquake and their effect on economic factors: an ecological study, Environ Health Prev. Med. 19(6), 459-66.	
17	Masatsugu Orui, Yasuhiro Sato, Kanako Tazaki, Ikuko Kawamura, Shuichiro Harada and Mizuho Hayashi	2015 年	Delayed Increase in Male Suicide Rates in Tsunami Disaster-Stricken Areas following the Great East Japan Earthquake: A Three-Year Follow-Up Study in Miyagi Prefecture, Tohoku J. Exp. Med. 235, 215-22.	
17	KONISHI Emiko et al	2016 年	Post-Fukushima radiation education for public health nursing students: a case	

			study. International Nursing Review 63, 292-299	
17	Kotaro Otsuka, Norito Kawakami, Seiichiro Kobayashi, Akira Ogawa, Kozo Tannno, Tooshiyuki Onoda, Yumi Yaegashi, Kiyomi Sakata	2014 年	Mental Health and Related Factors after the Great East Japan Earthquake and Tsunami. PLOS one Vol.9(Issue7) e102497	
17	Sugisawa H, Sugisaki H, Ohira S, et al	2015 年	Factors in mental health problems among Japanese dialysis patients in heavily damaged prefectures two years after the Great East Japan Earthquake. Advances in Psychiatry, 2015 (2015), Article ID 265907	
17	Kakamu T, Hidaka T, Hayakawa T, Kumagai T, Jinnouchi T, Tsuji M, Nakano S, Koyama K, Fukushima T.	2015 年	Risk and preventive factors for heat illness in radiation decontamination workers after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. J Occup Health. 57; 331-338	
17	上野まり、渋谷得江、岡村圭子、佐藤美穂子	2013 年 3 月	看護職による応急仮設住宅に暮らす住民へのアウトリーチー東日本大震災から 18 か月後の調査結果から一、千葉大学大学院研究科紀要第 38 号, 75-80	

17	上野まり、窪川真佐美、佐藤美穂子	2012 年	被災地と訪問看護－仮設住宅における支援活動－，日本在宅ケア学会誌 15（2）	
----	------------------	--------	--	--

（6）学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17	家光素行	2013 年 8 月 30 日	東日本大震災からの復興に向けて－体育・スポーツ分野が貢献できることは？	日本体育学会第 64 回大会
17	野口智博、鈴木淳也	2011 年 10 月 15 日	東日本大震災の大津波から生還した被災者の水泳経験	日本水泳・水中運動学会 2011 年次大会
17	野口智博、鈴木淳也	2012 年 1 月 1 日	東日本大震災の大津波からの避難成功者の運動経験	桜門体育学会大会
17	森藤香奈子ほか	2016 年 6 月 5 日	福島県川内村における子育て世代の抱える多重ストレスに関する質的研究	原子爆弾後障害研究会
17	萬羽郁子 他 16 名	2013 年	災害ボランティアの東日本大震災被災地支援に関する調査－第 1 報 石巻市における支援内容の時系列変化－	日本家政学会第 65 回大会
17	吉井美奈子 他 16 名	2013 年	災害ボランティアの東日本大震災被災地支援に関する調査－第 2 報 石巻市における子どもへの支援－	日本家政学会第 65 回大会
17	生田英輔 他 16 名	2013 年	災害ボランティアの東日本大震災被災地支援に関する調査－第 3 報 石巻市の被災状況と支援形態－	日本家政学会第 65 回大会
17	奥山みどり 他 16 名	2013 年	東日本大震災におけるボランティアによる炊き出しメニューの調査－ピースボートの場合－	日本家政学会第 65 回大会
17	野田奈津実 他 16 名	2015 年	料理教室と料理コンテストによる「郷土の味」の伝承と提案－参加者の意識・意欲の変化－	日本家政学会第 67 回大会
17	萬羽郁子 他 16 名	2015 年	被災者支援活動からみる生活支援の諸相（第 1 報）－震災後 3 年半の被災者ニーズおよび支援の課題－	日本家政学会第 67 回大会
17	生田英輔 他 16 名	2015 年	東日本大震災における応急仮設住宅の家政学視点からの検証	日本家政学会第 67 回大会

17	中島明子 他 14 名	2016 年	東日本大震災における宮城県石巻市の福祉仮設住宅	日本家政学会第 68 回大会
17	吉井美奈子 他 14 名	2016 年	東日本大震災で被災した学校の教員が取り組んだ仕事とその課題	日本家政学会第 68 回大会
17	萬羽郁子 他 14 名	2016 年	宮城県石巻市における仮設住宅の居住環境に関する調査—入居後 3 年間の居住環境の実態と変化—	日本家政学会第 68 回大会
17	野田奈津実	2016 年	仮設住宅への転居による食生活の変化	日本家政学会第 68 回大会
17		2012 年 7 月 1 日	What did we learn from the 3-11 (the Great East Japan Earthquake) disaster and What is a sustainable lifestyle? and how do we need to reconsider a sustainable life ?	国際家政学会
17		2015 年 10 月 12 日		東日本大震災生活研究プロジェクト研究会
17	大類 真嗣	2015 年	東日本大震災におけるこころのケア活動から見てきた被災者の心理的・社会的背景についての考察	第 35 回日本社会精神医学会
17	大葉 隆	2015 年 3 月 28 日	個人の生活に合わせた放射線防護とそのためのコミュニケーション	第 85 回 日本衛生学会学術総会
17		2013 年	東日本大震災の透析患者への影響と震災への備えに対する調査	透析医療研究会
17	Kakamu T, Hidaka T, Kumagai T, Tsuji M, Hayakawa T, Jinnouchi T, Nakano S, Koyama K, Fukushima T	2015 年	Factors associated with increasing anxiety in radiation decontamination workers in Fukushima.	31st International Congress on Occupational Health
17	Kakamu T, Hidaka T, Kumagai T,	2014 年	Risk factors of heat illness in radiation decontamination workers after the	The 21st Asian Conference on Occupational Health. Fukuoka, Japan.

	Tsuji M, Jinnouchi T, Nakano S, Koyama K, Fukushima T		Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident.	
17	上野まり、渋谷得江、佐藤美穂子、湯本晶代	2015 年	看護職による応急仮設住宅に暮らす人々への健康支援の実際	第 20 回日本在宅ケア学会学術集会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17	立命館大学スポーツ健康科学部田畑泉研究室	2016 年 4 月	http://www.tabatatraininglabo.com/	
17	立命館大学	2013 年	http://www.ritsumeit.ac.jp/news/detail_j/topics/11686/year/2013/publish/1	
17		2013 年	日本家政学会東日本大震災生活研究プロジェクト http://www.jshe.jp/disaster/index.html	
17			http://healthresearch-iwate.jp/	
17	福島産業保健総合支援センター		平成 25 年度産業保健調査研究・平成 26 年度産業保健調査研究 http://www.fukushimas.johas.go.jp/	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
17			東京電力に対しての提言を行った	

17	Emiko Konishi		Nurses' responsibilities in radiation emergency. The International Center for Nursi	
----	------------------	--	---	--

複合 3 1 - 1 7 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-17	Kazumi Tagami, Izumi Nagata, and Keisuke Sueki	2014 年	Estimated environmental radionuclide transfer and deposition into outdoor swimming pools. Journal of Environmental Radioactivity 136: 30-35	
31-17	Yoshida- Ohuchi H et al	2014 年	Reduction factors for wooden houses due to external γ -radiation based on in situ measurements after the Fukushima nuclear accident, Sci.Rep. 4 : 7541	
31-17	Yoshida- Ohuchi H et al	2016 年	Indoor radiocaesium contamination in residential houses within evacuation areas after the Fukushima nuclear accident, Sci.Rep. 6: 26412	
31-17	金田英子	2015 年	大規模複合災害における被災者の心理過程の特徴」東洋法学、58 (2) 2015	

3 1 - 1 7 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-17		2015 年 5 月 1 日	発表	住居学研究会（岩手県盛岡市）
31-17		2015 年	知見の公開	建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2015 におけるセミナーなど

3 1 - 1 7 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-17	東北大学	2016 年 5 月 30 日	東北大学 広報 http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2016/05/press20160530-01.html	
31-17			http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/228195.html	

分野：歯学

担当：山下 俊一

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
18			放射線の健康影響に係る研究調査事業 報告書	環境省（2012～2014 年度）原子力 災害影響調査等事業
18	佐々木啓一	2014-2016 年	放射線の健康影響にかかわる研究調査事業	原子力災害影響調査等事業 研究 成果報告書
18	小林誠一郎他 著	2013-2017 年	岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究	厚生労働科研 健康安全・危機管理 対策総合研究事業
18	岸 光男	2013 年	岩手県の調査、8020健康調査研究報告 http://www.8020zaidan.or.jp/sp/pdf/houkoku_h25.pdf	
18	研究代表者 青木康博	2012 年 5 月	激甚災害における死体検案体制の整備および運用に関する研究	厚生労働下顎特別研究事業
18	研究代表者 小室歳信	2013 年	大規模災害時の身元確認に資する歯科診療情報の標準化に関する研究	厚生労働科学特別研究事業

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
18	富士岳志、鈴木敏彦、坪井	2013 年	『東北大学における災害歯科学への取り組み』 みちのく歯学誌 44 巻 1・2 号 22-23	

	明人、小坂健、笹野泰之、高橋信博、佐々木啓一			
18	佐藤亨至, 小林正子, 有阪治, 伊藤善也, 鳥居俊, 宮下和久, 村田光範, 山内太郎, 横谷進, 田中敏章	2013 年	東日本大震災が小児の成長に及ぼす影響に関する実態調査. 日本成長学会雑誌 19(1): 35-43	
18		2011 年	1. 東日本大震災における身元確認作業に従事して. 111(6): 561-567	
18		2012 年	3. 歯科衛生士の皆様へ 東日本大震災における活動を通じて. 東京都歯科衛生士会学術誌, 28, 18-19	
18	Fukuda T, Kino Y, Shinoda H, Fukumoto M et al	2013 年	Distribution of artificial radionuclides in abandoned cattle in the evacuation zone of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. PLoS One 2013;a(1)e54312	
18	Koarai K, Kino Y, Sasaki K, Fukumoto M, Shinoda H, et al	2016 年	90Sr in teeth of cattle abandoned in evacuation zone: Record of pollution from the Fukushima-Daiichi Nuclear Power Plant accident. Scientific Reports 2016; 6:24077	
18	Tsuboya T, Aida J, Hikichi H, Subramanian SV, Kondo K,	2016 年	redictors of depressive symptoms following the Great East Japan earthquake: A prospective study. Soc Sci Med 161:47-54	

	Osaka K, Kawachi I			
18	Sato Y, Aida J, Takeuchi K, Ito K, Koyama S, Kakizaki M, Sato M, Osaka K, Tsuji I	2015 年	Impact of Loss of Removable Dentures on Oral Health after the Great East Japan Earthquake: A Retrospective Cohort Study. J Prosthodont 2015;24(1):32-6	
18	Matsuyama Y, Aida J, Hase A, Sato Y, Koyama S, Tsuboya T, Osaka K.	2016 年	Do community- and individual-level social relationships contribute to the mental health of disaster survivors?: A multilevel prospective study after the Great East Japan Earthquake. Soc Sci Med. 151:187-95.	
18	Kishi M, Aizawa F, Matsui M, Yokoyama Y, Abe A, Minami K, Suzuki R, Miura H, Sakata K, Ogawa A	2015 年	Oral health-related quality of life and related factors among residents in a disaster area of the Great East Japan Earthquake and giant tsunami. Health and Quality of Life Outcomes 13:143	
18	Kishi M, Aizawa F, Matsui M, Suzuki R, Miura H, Yokoyama Y, Sakata K, Ogawa A	2014 年	Factors Related to Oral Health Status of Disaster Victims 9 Months after Great East Japan Earthquake. Journal of the Academy for Health Behavioral Science 29(1):12-22	

18	北浦英樹、出口徹、池田悦子、竹下信郎、橋本敬、清流正弘、伊藤麻卯、木村桂介、藤井俊哉、石田国彦、山本照子	2012 年	東北大学病院における東日本大震災後の矯正歯科患者の実態調査、東北歯学雑誌、31(1):1-7	
18	川野知子、村井一見、門井謙典、柳澤高道	2013 年	東日本大震災被災者における口腔衛生状況と口腔内環境に関する調査報告. 日本口腔衛生学会雑誌. Vol. 7 No. 2. 58-63	
18	笹嶋 龍	2015 年	身元確認に資する歯科所見の標準化に関する研究—所見の分類別および不一致歯数を考慮した分類システムの構築—大歯学 89, 31-40	
18	Hagiwara Y, Yabe Y, Sugawara Y, Sato M, Watanabe T, Kanazawa K, Sonofuchi K, Koide M, Sekiguchi T, Tsuchiya M, Tsuji I, Itoi E	2016 年	Influence of living environments and working status on low back pain for survivors of the Great East Japan Earthquake. J Orthop Sci. 2016 Mar;21(2):138-42	
18	Tsuchiya M, Aida J, Hagiwara Y, Sugawara Y, Tomata Y, Sato M,	2015 年	Periodontal Disease Is Associated with Insomnia among Victims of the Great East Japan Earthquake: A Panel Study Initiated Three Months after the Disaster. Tohoku J Exp Med. 2015;237(2):83-90	

	Watanabe T, Tomita H, Nemoto E, Watanabe M, Osaka K, Tsuji I.			
18	田島聖士, 小 野寺勉, 阿部 公喜, 海老沢 政人, 飯塚浩 道	2013 年	東日本大震災直後における歯科診療ニーズおよ び現地歯科医師会と海上自衛隊歯科による診療 支援 口腔衛生誌 63: 344-350	
18	熊谷正浩, 逸 見晶子, 逸見 健明, 加藤雄 大, 百々美 奈, 神田直 典, 小田島健 二	2016 年 2 月	東日本大震災直後の東北公済病院歯科口腔外科 新患の特徴について、共済医報、 65 巻、20 頁-27 頁	
18	大村克彦		東日本大震災における子供たちの矯正歯科から みた現状と課題 アンケートからみた秋田の現 状、東北矯正歯科学会雑誌、Vol. 20 No. 1 103- 104	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
18	富士岳志、鈴 木敏彦、小坂 健、笹野泰 之、 高橋信 博、坪井明 人、佐々木啓 一	2014 年 7 月 4-5 日	東北大学歯学部災害歯科学に対する取り組み	第 33 回日本歯科医学教育学会総 会および学術大会

18	富士岳志、鈴木敏彦、坪井明人、小坂健、笹野泰之、高橋信博、佐々木啓一	2013 年 10 月 19-20 日	東北大学における災害歯科学への取り組み	第 66 回東北地区歯科医学会
18	富士岳志、洪光、笹野泰之、笹野高嗣、佐々木啓一	2013 年 7 月 12-13 日	東北大学総合地域医療研究センターにおける歯学教育の取り組み	第 32 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
18		2012 年	2. 法歯学の最前線 ― 歯科的個人識別の落とし穴と新技術 ―	第 54 回奥羽大学歯学会特別講演
18	高橋 温、岡壽崇、木野康志、篠田壽、佐々木啓一 他	2015 年 9 月 19 日	歯を用いた個体被ばく線量評価 ― 電子スピン共鳴法を用いた検討 ―	歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い
18	岸 光男	2015 年 10 月 23 日	被災地継続支援のための次世代の医療人養成プロジェクト構築の試み	文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業 健康長寿社会を担い歯科医学教育改革平成 27 年度連携シンポジウム
18	尾臺令奈、荻原 孝、五十嵐公英、渡部茂	2014 年 6 月	東日本大震災被災地における震災前後の小・中学校歯科健康診断結果	第 61 回日本小児保健協会学術集会
18	小室歳信、伊澤 光	2013 年 7 月	身元確認に資する歯科所見の照合検索システムの検討	日本法歯科医学会第 7 回学術大会
18	小室歳信	2013 年 4 月	特別講演 法医学から見たデジタル情報の今と未来	第 4 回日本歯科 CAD/CAM 学会学術大会
18	田島聖士、光末久美子、海	2011 年	東日本大震災における海上・航空自衛隊の巡回歯科医療活動	第 60 回日本口腔衛生学会

	老沢政人、飯塚浩道			
18	田島聖士、小野寺勉、阿部公喜、海老沢政人、飯塚浩道	2012 年	東日本大震災 宮城県本吉郡南三陸町、気仙沼市大島における歯科患者実態調査	第 57 回防衛衛生学会
18	田島聖士、小野寺勉、阿部公喜、海老沢政人、飯塚浩道	2012 年	東日本大震災直後における歯科診療ニーズおよび現地歯科医師会と海上自衛隊歯科による診療連携 宮城県本吉郡南三陸町、気仙沼市大島において	第 61 回日本口腔衛生学会
18	台丸谷隆慶 齋藤壽彦 大村克彦 田口大 古町瑞郎 富塚 亮 窪田道男	2015 年 6 月 13 日、14 日	広報・IT・危機管理委員会	東北矯正歯科学会
18		2011 年 11 月 23 日		東北矯正歯科学会・平成 23 年度 秋季セミナー
18	丸谷隆慶 齋藤壽彦 大村克彦 田口大 古町瑞郎 富塚 亮 窪田道男	2015 年 6 月 13 日、14 日	東北矯正歯科学会における広報・IT・危機管理委員会としての取り組み	東北矯正歯科学会山形大会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
18	JAGES (Japan Gerontological		日本老年学的評価研究 プロジェクト http://www.jages.net/#!untitled/c120	

	Evaluation Study)			
--	----------------------	--	--	--

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
18			東北 6 県の実態調査のシンポジウムのまとめは 小冊子に纏める予定、その後、学会 Web に掲載 予定	予定

分野：薬学

担当：山下 俊一

本分野は、書誌情報なし。

分野：環境学

担当：矢川 元基、岩澤 康裕

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	水産総合研究 センター	2012 年	放射線物質影響解明調査事業報告書	

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	桜美林大学国 際学研究所 編	2012 年	東日本大震災と知の役割	勁草書房

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	S. Tateishi et al.	2015 年	What Occupational Health Needs Arise in Workplaces Following Disasters? A Joint Analysis of Eight Cases of Disaster in Japan	Journal of Occupational & Environmental Medicine
20	松岡 朱理 他	2015 年	産業保健専門職向け危機対応マニュアルの開発	産業医科大学学会雑誌
20	森晃爾, 立石 清一郎	2015 年	危機事象発生時の産業保健ニーズ	安全と健康 vol16

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

20	R. Sekizawa, K. Ichii, M. Kondo	2015 年	Satellite-based detection of evacuation-induced land cover changes following the Fukushima Daiichi nuclear disaster	Taylor&Francis online
20	市井和仁	2016 年	リモートセンシングによる福島原発事故後の植生被覆分布変化の把握	第 63 回日本生態学会大会、仙台 (学会発表)
20	K. Nakata, H. Sugisaki	2015 年	Impacts of the Fukushima Nuclear Accident on Fish and Fishing grounds	Springer Japan
20	K. Fujimoto et al.	2015 年	Use of otolith for detecting strontium-90 in fish from the harbor of Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant.	Environ Science and Technology 49
20	Y. Shigenobu et al.	2014 年	Radiocesium contamination of greenlings (Hexagrammos otakii) off the coast of Fukushima.	Scientific Reports
20	D. Ambe et al.	2014 年	Five-minute resolved spatial distribution of radiocesium in sea sediment derived from the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant.	Journal of Environmental Radioactivity
20	J. Li	2014 年	Sorption equilibrium and kinetics of cesium on sediment in water environment	岐阜大学
20	J. LI et al.	2013 年	SORPTION CHARACTERISTICS OF CESIUM ONTO RESERVOIR SEDIMENT	土木学会論文集 G (環境)
20	J. Li et al.	2013 年	Behavior of Cesium in Dam Reservoir-Investigation Based on Sediment Columns	Journal of Water Resource and Protection,

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	中塚圭子	2012 年	災害時に於ける 人と犬との共生のための感性 一東日本大震災石巻市におけるペットと飼い主 支援活動を通して	第 7 回日本感性工学会 感性哲 学部会
20	R. Sekizawa, K. Ichii, M. Kondo	2013 年	Satellite-based vegetation changes in Fukushima Prefecture after Fukushima Daiichi nuclear disaster	

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	福島県民健康 調査委員会	2015 年	県民健康調査の最新の調査状況	福島県
20	福島県立医科 大学 放射線 医学県民健康 管理センター 英語サイト		http://fmu- global.jp/2016/02/16/proceedings-of-the- 22nd-prefectural-oversight-committee- meeting-for-fukushima-health-management- survey/	

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
20	石川幹子		いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点 としてのコミュニティの実装	戦略的創造研究推進事業
20	日本学術会議 環境学委員会 環境政策・環 境計画分科会 日本学術会議 東日本大震災 復興支援委員 会 災害に対 するレジリエ ンスの構築分 科会	2014 年	「いのちを育む安全な沿岸域の形成に向けた海 岸林の再生に関する提言」 「災害に対するレジリエンスの向上に向け て」	
20	玄田有史	2015 年	危機と雇用 災害の労働経済学	岩波書店
20	石川幹子	2014 年	震災復興と美しい東北の再生	『ランドスケープデザイン』、 2014 年 7 月、97 号

20	M. Ishikawa	2015 年	“A Study on Community-Based Reconstruction from Great East Japan Earthquake Disaster: A Case Study of Iwanuma City in Miyagi-Pref.”, Journal of Disaster Research”, Vol.10 No.5, pp. 807–817.	
20	A. Murakami, E. Kumakura, M. Ishikawa	2015 年	“Reconstruction of Coastal Villages Swept Away by Tsunami by 3D Digital Model” Journal of Disaster Research”, Vol. 10 No. 5, pp.818–829	
20	石川幹子, 大 和広明, 大澤 啓志	2013 年	「東北地方太平洋沖地震津波による海岸林の被災分析と文化的景観の特質に関する研究：宮城県仙南平野岩沼市沿岸部を対象として」, 都市計画論文集 48(3), 1005–1010 頁.	
20	矢部辰男, 石 川善大	2015 年	東日本大震災の津波被災地におけるネズミの生息状況. 衛生動物、東日本大震災津波被災地の一瓦礫置き場で捕獲されたドブネズミの胃内容物	
20	福島県	2015 年	福島県. 避難指示区域におけるネズミ対応マニュアル～自治体版.	

複合 31-20 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	日本海洋学会	2013 年	東日本大震災にかかわる日本海洋学会の諸活動に関する報告書	
31-20	日本海洋学会	2011 年	「震災に伴う海洋汚染に関する相談会」、震災対応 WG による「福島第一原子力発電所事故に関する海洋汚染調査について（提言）」、生態系 SWG による「東日本大震災による海洋生態系影響の実態把握と今後の対応策の検討（提言）」を特設サイト上に掲載	
31-20	中島映至, 大 原利眞, 植松	2014 年	原発事故環境汚染 福島第一原発事故の地球科学的側面	東京大学出版会

	光夫, 恩田 裕一			
31-20	Z. Bumann et al.	2011 年	Tracking the Fukushima Radionuclides, Science, 336(6085), Fukushima-derived radionuclides in the ocean and biota off Japan. PNAS, 109 (16), Oceanus (2013) special issue for “Fukushima and the Ocean” https://www.whoi.edu/oceanus/viewArticle.do?id=166829	
31-20	東北復興次世代エネルギー 研究開発機構 ／東北大学大学院環境科学研究科		http://web.tohoku.ac.jp/netpj/	
31-20	鶴田猛彦	2016 年	創造的復興のための技術開発・支援と地域連携教育の推進－最終報告書	八戸工業大学防災技術社会システム研究センター
31-20	A. Shiga, T. Tsuruta	2015 年	Removal of Cesium, Cobalt and Strontium from the Aqueous Solution Using Microorganism or Persimmon Gel	ICOBTE 2015, FUKUOKA
31-20	A. Shiga et al.	2014 年	Removal of Cobalt, Strontium, or Cesium from the Aqueous Solution Using Microbial Cells or Biomass	15th IUMRS-ICA2014
31-20	T. Tsuruta et al.	2013 年	Adsorption of Cesium, Cobalt, or Strontium using Microorganism	FOA 11
31-20	日本原子力研究開発機構	2015、2016 年	平成 26 年度原子力規制庁委託事業「東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の分布データの集約及び移行モデルの開発」成果報告書、平成 27 年度原子力規制庁委託事業「東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の分布データの集約」成果報告書	

31-20	日本原子力研究開発機構	2013、2014 年	放射能測定調査委託事業「福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の長期的影響把握手法の確立」成果報告書	
31-20	S. Kinase, T. Takahashi, S. Sato, R. Sakamoto, K. Saito	2014 年	Development of Prediction Models for Radioactive Caesium Distribution within the 80km-Radius of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant,	
31-20	S. Kinase, T. Takahashi, S. Sato, H. Yamamoto, K. Saito,	2015 年	“Prediction of Ambient Dose Equivalent Rates for the Next 30 Years after the Accident,”	
31-20	木名瀬 栄	2016 年	30 年後の福島環境放射線レベル推定とその技術開発	日本原子力学会誌
31-20	吉原利一, 長岡亨, 橋田慎之介, 若松孝志	2012 年	環境中に拡散した放射性物質対策に関する基礎的検討(その1) 空間線量率の測定による汚染分布状況の把握	電力中央研究所 研究報告
31-20	吉原利一, 松村秀幸, 橋田慎之介, 長岡亨	2012 年	環境中に拡散した放射性物質対策に関する基礎的検討(その2) 木本性植物近傍の空間線量率と植物体の放射性セシウム濃度	
31-20	長岡亨, 横山信吾, 中田弘太郎, 吉原利一	2012 年	環境中に拡散した放射性物質対策に関する基礎的検討(その3) —GM 計数管を用いた土壌中の放射性セシウム分布特性評価—	
31-20	吉原利一, 松村秀幸, 津崎昌東, 若松孝志	2014 年	樹木の枝・葉における放射性セシウム濃度の経年変化(2011~2013)	
31-20	吉原利一, 橋田慎之介, 長	2015 年	半導体型積算線量計による環境放射能の測定(その1) —従来測定法との比較による可能性評価—	

	尾悠人, 河地 有木, 藤巻秀			
31-20	T. Yoshihara, H. Matsumura, S-N. Hashida, T. Nagaoka	2013 年	Radiocesium contaminations of 20 wood species and the corresponding gamma-ray dose rates around the canopies at 5 months after the Fukushima nuclear power plant accident.	J. Env. Radioactivity
31-20	津崎昌東, 佐 藤歩, 長岡 亨, 若松孝 志, 吉原利一	2013 年	福島第一原子力発電所事故後の千葉県北部における土地利用形態別空間線量率の特徴と時間変化 (Characteristics and transition of air dose rate by land use pattern in northern Chiba prefecture after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident)	環境放射能除染学会誌
31-20	T. Yoshihara et al.	2014 年	A time dependent behavior of radiocesium from the Fukushima-fallout in litterfalls of Japanese flowering cherry trees	J. Env. Radioactivity
31-20	T. Yoshihara et al.	2014 年	F. Changes in radiocesium contamination from Fukushima in foliar parts of 10 common tree species in Japan between 2011 and 2013	J. Env. Radioactivity
31-20	Kawachi, N., Yin Y.-G., Suzui N., Ishii S., Yoshihara, T., Watabe, H., Yamamoto, S., Fujimaki S.	2016 年	Imaging of radiocesium uptake dynamics in a plant body by using a newly developed high-resolution gamma camera	J. Env. Radioactivity

31-20	Hashida S- N., Yoshihara, T.	2016 年	Disparate radiocesium leaching from two woody species by acceleration of litter decomposition using microbial inoculation	J. Env. Radioactivity
-------	---------------------------------------	--------	---	-----------------------

複合 31-20 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	山田奈海葉	2013 年	2012 年度 青い海助成事業 成果報告書	日本海洋学会 青い海助成事業
31-20	山田奈海葉	2013 年	「提言 東日本大震災による海洋生態系への影 響調査に関わる情報共有ネットワーク構築につ いて」に関する報告	日本海洋学会 青い海助成事業
31-20	山田奈海葉	2013 年	東日本大震災による海洋生態系への影響調査に 関わる 情報共有ネットワーク構築について	日本海洋学会 青い海助成事業
31-20	日本学術会議 東日本大震災 復興支援委員 会放射能対策 分科会	2014 年	復興に向けた長期的な放射能対策のために	日本学術会議
31-20	恩田裕一	2014 年	「福島第一原発事故の概要」2-7, 「陸域への放 射性物質の拡散と沈着」127-142, 「河川のも ニタリング」173-174, 「森林調査への科学者 の貢献」266-268,	東京大学出版会
31-20	中島映至, 大 原利真, 植松 光夫, 恩田裕 一 編		『原発事故環境汚染 福島第一原発事故の地球 科学的側面』	東京大学出版会

複合 31-20 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	TEAMS	2011 年	http://www.i- teams.jp/j/database/index.html	

31-20	防災科学技術研究所	2012 年	http://dil-opac.bosai.go.jp/publication/nied_natural_disaster/	
31-20	311 まるごとアーカイブス	2011 年	311 まるごとアーカイブプロジェクト	
31-20	Usuda, Y., Taguchi, H. and Nagasaka, T.	2011 年	The Effect of Web-Mapping System in Disaster Preparedness for Local Communities and Individuals	25th International Cartographic Conference and the 15th General Assembly of the International Cartographic Association, web.
31-20	李泰榮 他	2011 年	東日本大震災におけるボランティアセクターでの空間情報の活用と課題	第 20 回地理情報システム学会講演論文集
31-20	田口仁, 李泰榮, 臼田裕一郎, 長坂俊成	2015 年	効果的な災害対応を支援する地理情報システムの一提案	日本地震工学会論文集

複合 31-20 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	森口祐一	2012 年	災害廃棄物ー将来への教訓	東京大学都市持続再生研究センター
31-20	森口祐一	2013 年	震災復興と循環型社会の形成, 大西・城所・瀬田編著「東日本大震災復興まちづくり最前線」	学芸出版社
31-20	森口祐一	2012 年	震災、原発事故後の廃棄物・リサイクル政策の針路	環境経済・政策研究
31-20	細野靖晴, 佐野健二, 小林英樹	2012 年	東日本大震災の被災地復興に向けた銅使用量の推計	日本 LCA 学会誌

複合 31-20 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-20	川口慎介 他	2012 年	東北地方太平洋沖地震による深海の化学環境および微生物生態系の変化	Scientific Reports
31-20	松岡俊二	2012 年	『フクシマ原発の失敗—事故対応過程の検証とこれから—』	早稲田大学出版部
31-20	松岡俊二	2013 年	いわきおてんと SUN 企業組合（編）『フクシマから日本の未来を創る：復興のための新しい発想』	早稲田大学出版部
31-20	松岡俊二	2015 年	「『フクシマの教訓』と原子力リスクガバナンス」	早稲田大学出版部
31-20	松岡俊二，師岡慎一，黒川哲志	2013 年	『原子力規制委員会の社会的評価：3 つの基準と 3 つの要件』	早稲田大学出版部
31-20	桑谷立，中村謙吾，渡邊隆弘，小川泰正，駒井武	2014 年	主成分分析を用いた次元圧縮に基づく東北地方太平洋沖地震による津波堆積物の地球化学的特性評価・地学雑誌	東京地学協会
31-20	江刺洋司	2011 年	東日本大震災・東北復興プラン～エネルギー問題・少子高齢化社会を考える～	本の森出版社

複合 31-20 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	鶴田治雄 他	2016 年	福島原発事故直後の大気中 Cs-137 高濃度現象とその気象学的考察	第 17 回環境放射能研究会
31-20	鶴田治雄 他	2016 年	「福島第一原子力発電所事故による放射性物質の大気環境影響調査研究の現状と課題」	大気環境学会誌
31-20	鶴田治雄 他	2016 年	「大気浮遊粒子状物質 (SPM) 自動測定器の使用済みテープ状フィルターの放射性核種測定（その 3）：福島原発事故直後の大気中 Cs-137 高濃度現象とその気象学的考察」	第 17 回環境放射能研究会
31-20	山西弘城，芳原新也，若林源一郎	2016 年	福島県川俣町における環境放射線調査—土壤中放射性セシウム濃度—，Radioisotopes 東電福島第 1 原子力発電所事故に起因する環境中放射性 Cs の福島県川俣町における調査，	

31-20	山西弘城	2012 年 6 月	福島県川俣町における近畿大学の活動	日本保健物理学会第 46 回研究発表会
31-20	近畿大学東日本大震災復興支援室	2016 年	” オール近大” 川俣町復興支援プロジェクト	
31-20	玄地裕, 井原智彦, 亀卦川幸浩	7-9 Mar 2012	AIST-CMBEM による冬季節電対策の効果検討	第 7 回日本 LCA 学会研究発表会
31-20	安部竜一郎	2014 年 5 月 18 日	「環境リスクの質的定義と擬制的外部化」	2014 年度エントロピー学会春の研究集会
31-20	安部竜一郎	2014 年 8 月 12 日	“How We Failed to Manage Nuclear Risk?:The Myth of Nuclear Supremacy and Politics of Discommunication”	the 25th General Conference of International Peace Research Association
31-20	安部竜一郎	2015 年 10 月 7 日	“Who Pays for It ?”	Asia-Europe Peoples Forum
31-20	安部竜一郎	2013 年	「開発の環境リスク」郭洋春編著『開発リスクの政治経済学』	文眞堂
31-20	安部竜一郎	2014 年 5 月 18 日	環境リスクの質的定義と擬制的外部化	2014 年度エントロピー学会春の研究集会

複合 31-20 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	日本気象学会		原子力関連施設の事故に伴う放射性物質の大気拡散監視・予測技術の強化に関する提言	
31-20	福島大学		International workshop on dispersion and deposition modeling for nuclear accident release http://venus.iis.u-tokyo.ac.jp/english/workshop/newE.htm	

複合 31-20 (8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考

31-20	海洋研究開発 機構	2014 年	粒状態放射性セシウムの沈降速度	
-------	--------------	--------	-----------------	--

複合 3 1 - 2 0 (9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-20	こども環境学 会	2013 年	「子どもを元気にする環境づくりに向けた専門 家派遣と行動計画」 「ふくしまっこ遊び力育 成プログラム-元気に遊ぶ子どもたちの育成の ために-」「子どものからだを育む遊び力育成の 普及と検証」 2015 年度	
31-20	こども環境学 会	2014 年	「こども環境復興マスタープラン-子どもの参 画による、子どもにやさしいまちの復古再生」	
31-20	こども環境学 会	2015 年	「子どものからだを育む遊び力育成の普及と検 証」	

分野：数理科学

担当：矢川 元基、岩澤 康裕

本分野は、書誌情報なし。

分野：物理学

担当：矢川 元基、岩澤 康裕

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	東京大学宇宙 線研究所	2014 年	Annual Report	
22		2011 年	委託業務成果報告書	
22	国立高等専門 学校機構		原子力人材育成連携事業報告	毎年(7 年目)

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	日本アーカイ ブズ学会・日 本物理学会共 同声明		福島第一原発事故に関わる放射線測定データの 保全と後世へのアーカイブズ化を	

(3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	北海道大学大 学院理学研究 院附属原子核 反応データベ ース研究開発 センター	2011 年	北海道の環境放射線モニタリング	
22	佐々木侑輝 他	2013 年	福島県の磁性土壌に対する放射性セシウム濃度 分析	J R I A
22	菖蒲川由郷	2015 年	南相馬市空間線量率地図（印刷版）	新潟大学
22	内藤眞	2013 年	BISHAMON の軌跡－南相馬・浪江リポーター	新潟日報事業者

22	J. Goto et al.		"Development of a Portable Gamma-ray Survey System for Measurements of Dose Rates in the Air"	JPS Conference Proceedings
22	Y. Kawano, A. Munaim, J. Goto, Y. Shobugawa, M. Naito,		Sensing Space: Augmenting Scientific Data with Spatial Ethnography	GeoHumanities
22	後藤淳, 天谷吉宏, 泉川卓司, 遠藤良, 椎谷友博, 菖蒲川由郷		指向性があるガンマ線自動車走行サーベイステムの開発状況	日本原子力学会 2015 年秋の年会

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	中島 映至 編	2014 年	原発事故環境汚染 福島第一原発事故の地球科学的側面	東京大学出版会
22	大阪大学	2011 年	福島土壌調査 http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/dojo/	
22	飽本一裕	2014 年	放射性物質の再浮遊と移流による 2 次汚染	日本保健物理学会
22	飽本一裕	2015 年	Annual and Weekly Cycles of Radioactivity Concentration Observed in Fukushima City	Health Physics
22	飽本一裕	2013 年	福島第一原発事故による Cs 起源放射線の福島県における時間, 位置および気象依存性	環境放射能除染学会
22	親松和浩	2012 年	福島第 1 原子力発電所の原子炉崩壊熱の見積もり、愛知淑徳大学リポジトリ、2012 年 3 月 15 日	愛知淑徳大学論集 人間情報学部 篇

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

22	N. Adachi	2015 年	Measurement and comparison of individual external doses of high-school students living in Japan, France, Poland and Belarus-the 'D-shuttle' project-	Journal of Radiological Protection
22	Minoru Tanigaki	2016 年	Development and Operation of a Carborne Survey System, KURAMA	Springer Japan
22	S. Takahashi	2014 年	Radiation Monitoring and Dose Estimation of the Fukushima Nuclear Accident	Springer Japan
22	M. Tanigaki	2016 年	Development and current status of a carborne gamma-ray survey system, KURAMA-I	IRPA 14
22	M. Tanigaki, R. Okumura, K. Takamiya, N. Sato	2015 年	Development of KURAMA-II and its Operation in Fukushima	Nuclear Inst. and Methods in Physics Research
22	M. Tanigaki, R. Okumura, K. Takamiya, N. Sato	2013 年	Development of a car-borne γ -ray survey system, KURAMA	Nucl. Instr. Meth.
22	R. S. Hayano et al.	2013 年	Internal radiocesium contamination of adults and children in Fukushima 7 to 20 months after the Fukushima NPP accident as measured by extensive whole-body-counter surveys	Proceedings of the Japan Academy, Series B
22	R. S. Hayano et al.	2014 年	Whole-body counter survey results 4 months after the Fukushima Dai-ichi NPP accident in Minamisoma City, Fukushima	Journal of Radiological Protection
22		2015 年	福島県における自動車走行サーベイモニタリング https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025d/soukou.html	福島県
22		2011 年	放射線量等分布マップ拡大サイト http://ramap.jaea.go.jp/map/ , 2011 年	
22		2011 年	GPS 連動型放射線自動計測システム KURAMA http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/kurama/	京大原子炉

22		2011 年	KURAMA-II 実証試験 http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/kurama/kouiki/kurama2_test.html	京大原子炉
22	K. Fushimi, S. Nakayama, M. Sakama, Y. Sakaguchi	2011 年	Measurement of airborne radioactivity from the Fukushima reactor accident in Tokushima, Japan	INSPIRE
22	S. Motai et al.	2016 年	Mineralogical characterization of radioactive particles in Fukushima soil using μ -XRD with synchrotron radiation	Journal of Mineralogical and Petrological Sciences

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	浅井 雅人 他	2012 年 2 月 27 日	土壌試料中の ^{134}Cs , ^{131}I 定量のための γ 線検出効率決定法とカスケードサムの定量的評価	第 13 回「環境放射能」研究会
22	T.K. Sato et al.	2012 年	Measurement of Radioisotopes on Soil in Ibaraki Prefecture Discharged by the Accident of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant	JAEA-Tokai Tandem Annual Report 2011
22	金谷 佑亮, 佐藤 哲也, 浅井 雅人, 塚田 和明, 豊嶋 厚史, 大江 一弘,	2012 年	茨城県北部土壌における福島原発由来の放射性核種の分布	KEK Proceedings 2012-6
22	Mizumoto	2013 年	A performance study of an electron-tracking Compton camera with a compact system for environmental gamma-ray observation	J. of Instrum. 10
22	D.Tomono	2013 年	First application to environmental gamma-ray imaging with an electron tracking compton camera	IEEE MIC Conference Record
22	D.Tomono	2015 年	"Development of electron tracking Compton camera for fine imaging and quantitatively	PITCON 2015

			dose-monitoring to environmental gamma-ray”	
22	大嶋晃敏	2011 年	国立天文台三鷹キャンパスにおける土壌放射能調査と環境放射線モニタリング	第 31 回天文学に関する技術シンポジウム
22	森島邦博	2015 年	原子核乾板を用いた宇宙線ミュオンラジオグラフィによる福島第一原子力発電所 2 号機の炉内状況の推定	日本物理学会 2015 年秋季大会

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	京都大学原子炉実験所グループ	2015 年	福島県における自動車走行サーベイモニタリング	
22	大阪大学 核物理研究センター		福島土壌調査 https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/dojo/	

(9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
22	新田伸也	2012 年	ミニホットスポット簡易検出法と対処法	

複合 3 1 - 2 2 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22		2011 年	東日本大震災災害廃棄物有効活用報告書	

複合 3 1 - 2 2 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考

31-22	農林水産技術 会議事	2012 年	「重要政策課題への機動的対応の推進及び総合 科学技術会議における政策立案のための調査」 「放射性物質による環境影響への対策基盤の確 立」東京電力株式会社福島第一原子力発電所の 事故に伴い放出された放射性物質の分布状況等 に関する調査研究結果	文部科学省 原子力災害対策支援 本部農林水産省
31-22	中島映至, 大 原利真, 植松 光夫, 恩田裕 一 編	2014 年	原発事故環境汚染 福島第一原発事故の地球科 学的側面	東京大学出版会
31-22	日本原子力学 会	2014 年	「福島第一原子力発電所事故 その全貌と明日 に向けた提言 ―学会事故調最終報告書―」	丸善出版
31-22	日本原子力学 会	2014 年	「The Fukushima Daiichi Nuclear Accident – Final Report of the AESJ Investigation Committee」	Springer

複合 3 1 – 2 2 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22	中村英雄	2011 年	東日本群発巨大地震データ他 http://research.kek.jp/people/eijinaka/DSE00311/index.htm	

複合 3 1 – 2 2 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22	川村康文	2011 年	「つながる思いプロジェクト―第 1 回 福島県 西郷村での実践―」	エネルギー環境教育研究, 第 6 巻, 第 1 号
31-22	川村康文	2012 年	「東日本大震災 つながる思いプロジェクト― 岩手県久喜小学校での実践とその後―」	日本エネルギー学会誌, 第 91 巻, 第 3 号
31-22	川村康文	2013 年	「エネルギー分野におけるサイエンスコミュニ ケーションの実践」	第 22 回日本エネルギー学会大会
31-22	川村康文	2012 年	「自分で作る太陽光発電」	総合科学出版
31-22	川村康文	2012 年	「自分で作るハブダイナモ風力発電+」	総合科学出版

31-22	川村康文	2011 年	「Science Window 特集 放射線をどう教える？」	科学技術振興機構
-------	------	--------	--------------------------------	----------

複合 3 1 - 2 2 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22	久米恭, 高田 卓志, 長谷川 崇, 村上雅之	2012 年 4 月 13 日	原発事故で汚染された可能性のある飲料水のガンマ線検査手法の考察 環境省ホームページ http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/6000/5511/24/114_0712.pdf	第 103 回日本医学物理学会学術大会
31-22	保科静香 他	2016 年 7 月 7 日	山岳地域における放射線の天候, 地形および地質による影響	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会

複合 3 1 - 2 2 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22	日本原子力研究開発機構	2011 年	放射線量等分布マップ拡大サイト	
31-22	山田廣成	2013 年	民間福島原発事故収束委員会公式サイト http://blog.goo.ne.jp/minnkannjikosyuusoku iinnkai	

複合 3 1 - 2 2 (9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-22	柏市生涯学習ボランティア協議会		kashiwa-manabi.com/ に測定・実験結果を掲載	
31-22			民間福島原発事故収束委員会公式サイト http://blog.goo.ne.jp/minnkannjikosyuusoku iinnkai	

分野：地球惑星科学

担当：大久保 修平

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	中山浩成・竹見哲也	2015 年	原子力災害時の緊急対応のためのマルチスケール大気拡散予測モデリングに関する研究	京都大学防災研究所一般共同研究報告書 25G-05
23	黒木貴一ほか	2014 年	都市域における時空間地理情報を用いた氾濫原の特性評価の研究	平成 23 年度～平成 25 年度科学研究費補助金(基盤研究(c)一般)研究成果報告書, 142p
23	小口 高ほか	2013 年	東北地方太平洋沖地震による津波の陸地における挙動と水流による地形変化の研究	戦略的国際科学技術協力推進事業 震災関連研究を対象とした国際緊急共同研究・調査支援プログラム 研究報告書 19
23			広田湾流況調査経過報告書	東北マリンサイエンス拠点形成事業「海洋生態系の調査研究」実績報告書
23	小平秀一ほか	2013 年	「震源域における緊急地下構造調査 ー 日米共同によるデータ処理・解析ー」	戦略的国際科学技術協力推進事業 国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID) 研究・調査終了報告書
23	産業技術総合研究所地質分野研究企画室	2014 年	巨大地震による複合的地質災害に関する調査・研究報告書	産業技術総合研究所地質調査総合センター速報 no. 66。 https://www.gsj.jp/researches/project/multiple-geohazards/index.html
23	海洋研究開発機構	2012 年	平成 23 年度東日本大震災に伴う洋上漂流物に係る緊急海洋表層環境モニタリング調査業務報告書	
23	海洋研究開発機構	2013 年	平成 24 年度東日本大震災に伴う洋上漂流物に係る緊急海洋表層環境モニタリング調査業務報告書	

23	海洋研究開発機構	2014 年	平成 25 年度東日本大震災に伴う洋上漂流物に係る緊急海洋表層環境モニタリング調査業務報告書	
23	(独) 水産総合研究センター、(独) 森林総合研究所、(独) 海上技術安全研究所 (国) 東京大学生産技術研究所、(国) 東京大学生産技術研究所、 栃木県水産試験場	2013 年	高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明のための緊急調査研究	平成 24 年度科学技術戦略推進費 「重要政策課題への機動的対応の推進及び総合科学技術会議における政策立案のための調査」、刊行元：(独) 水産総合研究センター (https://www.fra.affrc.go.jp/eq/Nuclear_accident_effects/seiryaku_summary.pdf に掲載)
23	池田安隆	2011 年	東北日本島弧-海溝系における歪みの蓄積-解放過程と超巨大歪解放イベントの可能性	地震予知連絡会会報, 86, 687-698

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

分野番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	本多亮・澤田明宏・古瀬慶博・工藤健・田中俊行・平松良浩	2012 年	「金沢大学重力データベース」 http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/gravity_database.html	
23	海洋研究開発機構		TEAMS データ案内所「リアス」 http://www.i-teams.jp/j/database/index.html	東北マリンサイエンス拠点形成事業「海洋生態系の調査研究」

23	海洋研究開発 機構		地下構造探査データベース https://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/IFREE_center/	
----	--------------	--	---	--

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	Chester, F.M., Mori, J., Eguchi, N., Toczko, S., and the Expedition 343/343T Scientists	2012 年	Proceedings of the Integrated Ocean Drilling Project Vol. 343/343 T	Integrated Ocean Drilling Program Management International, Inc.

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	Heki, K	2011 年	Ionospheric electron enhancement preceding the 2011 Tohoku-Oki earthquake, Geophys. Res. Lett., 38, L17312, doi:10.1029/2011GL047908.	
23	Heki, K. and Y. Enomoto	2013 年	Preseismic ionospheric electron enhancements revisited, J. Geophys. Res., 118, 6618–6626, doi:10.1002/jgra.50578.	
23	Heki, K. and Y. Enomoto	2015 年	Mw dependence of preseismic ionospheric electron enhancements, J. Geophys. Res. Space Phys., 120, 7006–7020, doi:10.1002/2015JA021353.	
23	中串孝志 古 川邦之	2015 年	「福島県内の避難指示区域等でない市街地と県 外との外部被ばく線量比較」, 観光学, 12, 41–47	

23	Hasegawa, A, K. Yoshida , and T. Okada , .	2011 年	Nearly complete stress drop in the 2011 Mw9.0 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, Earth Planets Space, 63 (No. 7), 703-707.	
23	Hasegawa, A, K. Yoshida, Y. Asano, T. Okada, T. Iinuma, and Y. Ito	2012 年	Change in stress field after the 2011 great Tohoku-oki earthquake, Earth Planet. Sci. Lett., 355-356, 231-243	
23	Hasegawa, A., and Yoshida, K	2015 年	Preceding seismic activity and slow slip events in the source area of the 2011 Mw 9.0 Tohoku-Oki earthquake: a review, Geoscience Letters, 2:6	
23	瀬尾菜々美・ 大串健一	2014 年	東北地方太平洋沖地震津波により岩手県久慈市に形成された津波堆積物, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要 8, 1, 97-102	
23	瀬尾菜々美・ 大串健一	2012 年	岩手県普代川河口域に遡上した津波堆積物の予察的調査報告, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 5(2), 157-164.	
23	Arai, N., M. Iwakuni, S. Watada, Y. Imanishi, T. Murayama and M. Nogami,	2011 年	Atmospheric boundary waves excited by the tsunami generation related to the 2011 great Tohoku-Oki earthquake, Geophys. Res. Lett., 38, L00G18, doi:10.1029/2011GL049146	
23	Watada, S., S. Kusumoto, and K. Satake	2014 年	Traveltime delay and initial phase reversal of distant tsunamis coupled with the self-gravitating elastic Earth, J. Geophys. Res., 119, 4287-4310	
23	海上保安庁海 洋情報部・海 洋研究開発機	2011 年	「東北沖の海底地形データの取りまとめ」, 地震学会ニュースレター, Vol. 23 No 2, 35-36	

	構 (JAMSTEC)			
23	木戸ゆかり、 富士原敏也	2011 年	海洋研究開発機構 JAMSTEC の観測航海で取得されたマルチナロービーム音響測深機による日本海溝付近の海底地形データの紹介, 情報地質, 22	
23	Nakayama, H., T. Takemi, H. Nagai	2015 年	Large-eddy simulation of turbulent winds during the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident by coupling with a meso-scale meteorological simulation model. Advances in Science and Research, Vol. 12, pp. 127-133.	
23	Tanaka, K. et al.	2016 年	Baroclinic circulation and its high frequency variability in Otsuchi Bay on the Sanriku ria coast, Japan. Journal of Oceanography. DOI:10.1007/s10872-015-0338-9	
23	Sakamoto T T et al	2016 年	Numerical Simulation of Pacific Water Intrusions into Otsuchi Bay, northeast of Japan, with a nested-grid OGCM. Journal of Oceanography. DOI:10.1007/s10872-015-0344-y	
23	斎藤靖二	2013 年	「自然史標本の意義について」, 化石, 93 巻, 131-135	
23	早川裕弐・小口 高・齋藤仁・小林明才・小松吾郎・後藤和久	2015 年	三陸海岸における津波による侵食地形の特徴: 地上レーザ測量による解析, 地学雑誌, 124 (2), 241-258.	
23	Hayakawa, Y.S., Oguchi, C.T., Ariga, N., Aoki, H.	2015 年	Spatial distribution of changes in rockwall surface at Yoshimi-Hyakuana cave, central Japan, revealed by repeated terrestrial laser scanning. Procedia Earth and Planetary Science, 15, 619-626	

23	Komatsu, G., Goto, K., Baker, V.R., Oguchi, T., Hayakawa, Y.S., Saito, H., Pelletier, J.D., Mcguire, L., Iijima, Y. (2014. 01)	2014 年	Effects of tsunami wave erosion on natural landscapes: Examples from the 2011 Tohoku-oki Tsunami, in T. Takahashi (eds.), Tsunami Events and Lessons Learned; Environmental and Societal Significance, pp. 243-253.	Springer, doi:10.1007/978-94-007-7269-4_13
23	Toyofuku, T., Duros, P., Fontanier, C., Mamo, B., Bichon, S., Buscail, R., Chabaud, G., Deflandre, B., Goubet, S., Gremare, A., Menniti, C., Fujii, M., Kawamura, K., Koho, K. A., Noda, A., Namegaya, Y., Oguri, K.,	2014 年	Unexpected biotic resilience on the Japanese seafloor caused by the 2011 Tohoku-Oki tsunami: Sci Rep, v. 4, p. 7517.	

	Radakovitch, O. , Murayama, M. , de Nooijer, L. J. , Kurasawa, A. , Ohkawara, N. , Okutani, T. , Sakaguchi, A. , Jorissen, F. , Reichart, G. J. , and Kitazato, H.			
23	Christophe Fontanier, Pauline Duros, Takashi Toyofuku, Kazumasa Oguri, Karoliina Annika Koho, Roselyne Buscail, Antoine Grémare, Olivier Radakovitch,	2014 年	LIVING (STAINED) DEEP-SEA FORAMINIFERA OFF HACHINOHE (NE JAPAN, WESTERN PACIFIC) : ENVIRONMENTAL INTERPLAY IN OXYGEN-DEPLETED ECOSYSTEMS. , The Journal of Foraminiferal Research, , 44 (3), 281-299 ; DOI: 10. 2113/gsjfr. 44. 3. 281.	

	Bruno Deflandre, Lennart Jan De Nooijer, Sabrina Bichon, Sarah Goubet, Anastasia Ivanovsky, Gérard Chabaud, Christophe Menniti, Gert-Jan Reichart, Hiroshi Kitazato.			
23	Shuichi Kodaira, Tetsuo No, Yasuyuki Nakamura, Toshiya Fujiwara, Yuka Kaiho, Seiichi Miura, Narumi Takahashi, Yoshiyuki Kaneda, Asahiko Taira	2012 年	Coseismic fault rupture at the trench axis during the 2011 Tohoku-oki earthquake, Nature Geoscience, 5, 646-650, 10.1038/NGE01547	

23	Yasuyuki Nakamura, Shuichi Kodaira, Seiichi Miura, Christine Regalla and Narumi Takahashi	2013 年	High-resolution seismic imaging in the Japan Trench axis area off Miyagi, northeastern Japan, Geophysical Research Letters, 40, 2013, 10.1002/grl.50364	
23	Lin W., and Exp. 343 scientists	2013 年	Stress state in the largest displacement area of the 2011 Tohoku-oki Earthquake, Science, 339, 687-690, 10.1126/science.12293	
23	Gaku Kimura, Shoko Hina, Yohei Hamada, Jun Kameda, Takeshi Tsuji, Masataka Kinoshita, Asuka Yamaguchi	2012 年	Runaway slip to the trench due to rupture of highly pressurized mega thrust beneath the middle trench slope: Thetsunamigenesis of the 2011 Tohoku earthquake off the east coast of northern Japan. Earth and Planetary Science Letters, 339-340, 32-45	
23	Kawamura, H., T. Kobayashi, S. Nishikawa, Y. Ishikawa, N. Usui, M. Kamachi, H. Aso, Y.	2014 年	Drift simulation of tsunami debris in the North Pacific. Global Environment Research, 18, 81-96.	

	Tanaka, and T. Awaji			
23	Masumoto, Y., Y. Miyazawa, D. Tsumune, T. Tsubono, T. Kobayashi, H. Kawamura, C. Estournel, P. Marsaleix, L. Lanerolle, A. Mehra, and Z. D. Garraffo	2012 年	Oceanic dispersion simulations of Cesium 137 from Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, ELEMENTS, 8, 207–212, doi: 10.2113/gselements.8.3.207.	
23	松多信尚ほか	2012 年	東北地方太平洋沖地震による津波被災マップの 作製経緯と意義, E-journal GEO, 7, 214–224	
23	新妻信明	2011 年	じっきょう理科資料, 70, 1–6	
23	柴田健一郎	2012 年	2011 年東北地方太平洋沖地震による茨城県北部 の屋根瓦損壊と地盤特性. 横須賀市博研報 (自 然), 59 号, 1–10	
23	Kitamura, A.	2016 年	Examination of the largest-possible tsunamis (Level 2 tsunami) generated along the Nankai and Suruga troughs during the past 4000 years based on studies of tsunami deposits from the 2011 Tohoku-oki tsunami, Progress in Earth and Planetary Science, 3:12 DOI: 10.1186/s40645-016- 0092-7	

23	北村晃寿・若山典央	2011 年	宮城県仙台平野大沼周辺における遡上した津波堆積物の調査. 静岡大学地球科学研究報告, 38, 1-2	
23	池田安隆・岡田真介	2011 年	島弧—海溝系における長期的歪み蓄積過程と超巨大地震, 科学, 81, 1071-1076	
23	Ikeda, Y	2014 年	Strain buildup in the Northeast Japan orogen with implications for gigantic subduction earthquakes, Episodes 37, 234-245	
23	池田安隆・岡田真介・田力正好	2012 年	東北日本島弧—海溝系における長期的歪み蓄積過程と超巨大歪み解放イベント, 地質学雑誌, 118, 294-312	
23	Goldfinger, C., Y. Ikeda, R. S. Yeats, and J. Ren	2013 年	Superquakes and supercycles, Seism. Res. Lett., 84, 24-32	
23	池田安隆	2012 年	東北地方太平洋沖地震を地質学的時間スケールでみると何が見えるか? milsil, 5 (5), 14-19, 国立科学博物館	
23	Goldfinger, C., Y. Ikeda, and R. S. Yeats	2013 年	Superquakes, supercycles, and global earthquake clustering: recent research and recent quakes reveal surprises in major fault systems, Earth, 58 (1), 34-43, American Geosciences Institute	
23	林 慶一	2011 年	日本海溝でのマグニチュード9クラスの地震をなぜ予想できなかったのか, 甲南大学紀要 (理工学編), 58 巻, 11-20 頁	
23	笠間友博・石浜佐栄子・新井田秀一	2015 年	平成 23 (2011) 年東北地方太平洋沖地震での液状化に関連して行った博物館出張授業, 地学教育, 67 (4), 157-170	
23	Blair Thornton, Seiki	2013 年	Distribution of local ¹³⁷ Cs anomalies on the seafloor near the Fukushima Dai-ichi	

	Ohnishi, Tamaki Ura, Naoteru Odano, Shun Sasaki, Tsuneo Fujita, Tomowo Watanabe, Kaoru Nakata, Tsuneo Ono, Daisuke Ambe		Nuclear Power Plant, Marine Pollution Bulletin, 74, 344-350	
23	Chester et al.	2013 年	Structure and composition of the plate- boundary slip zone for the 2011 Tohoku-Oki earthquake, Science, Vol. 342, Issue 6163, pp. 1208-1211	
23	Ujiie et al.	2013 年	Low coseismic shear stress on the Tohoku- Oki megathrust determined from laboratory experiments, Science, Vol. 342, Issue 6163, pp. 1211-1214	
23	池田安隆	2014 年	変動帯に立地する原子力関連施設の耐震安全性 評価に関わる地質学的問題, 日本地震学会モノ グラフ 3, 12-19	
23	Fulton et al.	2013 年	Low coseismic friction on the Tohoku-Oki fault determined from temperature measurements, Science, Vol. 342, Issue 6163, pp. 1214-1217	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	Wada S., Sawada A.,	2015 年 12 月 17 日	Fault structures of the eastern boundary fault zone of the Niigata plain, central	American Geophysical Union, 2015 Fall Meeting

	Hiramatsu Y., Okada S., Tanaka T., Honda R. ,		Japan, revealed by gravity survey and analysis	
23	澤田明宏・本 多亮・平松良 浩	2015 年 9 月 24 日	金沢大学重力データベースの改良	物理探査学会第 133 回（平成 27 年度秋季）学術講演会
23	和田茂樹・澤 田明宏・平松 良浩・岡田真 介・田中俊 行・本多亮	2015 年 5 月 27 日	重力異常からみた新潟平野東縁断層帯の特徴	日本地球惑星科学連合 2015 年大 会
23	瀬尾菜々美・ 大串健一	2014 年 1 月 1 日	2011 年東北地方太平洋沖地震による津波堆 積物中の有孔虫・粒度組成—久慈市、東松島 市・石巻市の事例	日本古生物学会例会 2014 年
23	斎藤靖二・大 石雅之	2015 年 5 月 1 日	自然史研究の意義—東日本大震災の標本のレス キュー活動に関連して—.	日本地球惑星科学連合 2015 大 会, ユニオン・セッション「連合 は環境・災害にどう向き合ってい くのか？」
23	磯 望・黒木 貴一・後藤健 介	2012 年 1 月 22 日	東北地方太平洋沖地震津波被害報告—仙台平野 を中心に—.	福岡地理学会 2011 年度冬季例会 資料.
23	黒木貴一・磯 望・後藤健 介・宗建郎・ 黒田圭介	2014 年	仙台・石巻平野の津波による生垣の被害と経過	2014 年春季学術大会日本地理学会 発表要旨集, 85, p323.
23	新妻信明	2012 年 5 月 25 日	「東北地方太平洋沖地震 M9.0 の歪は太平洋プ レート周縁隆起帯に蓄積」	地球惑星科学連合同大会 2012
23	新妻信明	2015 年 5 月 24 日	「発震機構オイラー回転による東日本大震災の 本震判定」	地球惑星科学連合同大会 2015
23	柴田健一郎	2011 年 9 月 1 日	2011 年東北地方太平洋沖地震による茨城県北部 の屋根瓦損壊	日本地質学会第 118 年学術大会・ 日本鉱物科学会 2011 年年会合同 学術大会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	日本地理学会	2011 年	日本地理学会災害対応本部津波被災マップ http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html .	
23	新妻信明	2011 年～	[月刊地震予報] http://www.niitsuma-geolab.net/ 、	
23	東京大学空間 情報科学研究 センター地形 鮮明化プロジ ェクト		三陸海岸・姉吉 ～津波侵食による地形の変化 ～ http://topography.csis.u-tokyo.ac.jp/resources/aneyoshi/	
23	海洋研究開発 機構		「東北地方太平洋沖地震調査掘削」特設ページ http://www.jamstec.go.jp/chikyu/j/exp343/index.html	
23	水産庁	2013 年	高濃度に放射性セシウムで汚染された 魚類の 汚染源・汚染経路の解明のための 緊急調査研 究 http://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/pdf/kouhyou.pdf	
23	東京大学大気 海洋研究所 プロジェグラ ンメーユ事務 局	2012 年	大槌湾海洋環境モニタリングリアルタイム中継 http://www.icrc.aori.u-tokyo.ac.jp/member/ktanaka/contents_j/kankyo-monitor/index_kankyo.html	

(8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
23	Integrated Ocean Drilling Program		IODP data open site, Japan Trench Fast Drilling (JFAST), Exp. 343	http://sio7.jamstec.go.jp/

23	Integrated Ocean Drilling Program		Hole C0019A, J-CORES, Expedition 343	http://sio7.jamstec.go.jp/jcores.data/343/C0019A/
23	東京大学空間情報科学研究センター		CSIS 共同研究利用システム JoRAS	https://joras.csis.u-tokyo.ac.jp/dataset/list_all

(9) その他

該当なし

複合31-23 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-23	鈴木康弘	2015 年	防災・減災につなげるハザードマップの活かし方	岩波書店
31-23	Kaoru Nakata, Hiroya Sugisaki	2015 年	国立研究開発法人水産研究・教育機構 第12号叢書「Impacts of the Fukushima Nuclear Accident on Fish and Fishing Grounds」	Springer

複合31-23 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-23	Takemura, T., H. Nakamura, M. Takigawa, H. Kondo, T. Satomura, T. Miyasaka, and T. Nakajima	2011 年	A numerical simulation of global transport of atmospheric particles emitted from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant, SOLA, 7, 101-104	

31-23	菊地 真	2015 年	災害・防災をテーマとした展示と大学地理教育, 兵庫地理, 60 号	
31-23	Kajino, M., Ishizuka, M., Igarashi, Y., Kita, K., Yoshikawa, C., and Inatsu, M.	2016 年	Long-term assessment of airborne radiocesium after the Fukushima nuclear accident: Re-suspension from bare soil and forest ecosystems, Atmos. Chem. Phys. Discuss., doi:10.5194/acp-2016-270, in review.	
31-23	Ishizuka, M., M. Mikami, T. Y. Tanaka, Y. Igarashi, K. Kita, Y. Yamada, N. Yoshida, S. Toyoda, Y. Satou, T. Kinase, K. Ninomiya, A. Shinohara	2016 年	Use of a size-resolved 1-D resuspension scheme to evaluate resuspended radioactive material associated with mineral dust particles from the ground surface, Journal of Environmental Radioactivity, JENR_JENVRAD-D-15-00721, doi:10.1016/j.jenvrad.2015.12.023, pp. 1-13	
31-23	石井 透	2012 年	「地震動の応答継続時間スペクトル ー評価手法の提案と 2011 年東北地方太平洋沖地震およびその前震・余震・誘発地震による東京の地震動への適用例ー」, 日本建築学会構造系論文集, 第 77 巻, 第 676 号, pp. 843-850	
31-23	Suzuki, Y., Kumaki, Y., Sugai, T., and Sugito, N.	2015 年	Geographical Investigation on the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster, Focusing on the Regional Diversity of Tsunamis and Geo-hazards” Journal of Geograh, 124, 147-150	

31-23	鈴木康弘・熊木洋太・須貝俊彦・杉戸信彦	2015 年	特集号「東日本大震災の地理学的検証ー津波・地盤災害の多様性と地域性ー」巻頭言, 地学雑誌, 124, 151-156	
31-23	杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・内田主税・千田良道・鈴木康弘	2015 年	津波浸水域データと数値標高モデルの GIS 解析に基づく 2011 年東北地方太平洋沖地震の津波遡上高の空間分布. 地学雑誌, 124, 157-176	

複合 3 1-2 3 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-23	名古屋大学災害地理・地震ハザード研究チーム	2013 年	災害地理学・地震ハザード情報ポータルー防災・減災のための詳細情報サイトー http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/disaster_geography/	
31-23	日本地理学会	2011 年	東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部 津波被災マップ (e コミマップ版) http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/20110311/ecom.html	
31-23	東北地方太平洋沖地震・日本地理学会災害対応本部	2011 年	災害緊急速報 http://www.ajg.or.jp/disaster/201103_Tohoku-eq.html	
31-23	東京大学大気海洋研究所 プロジェクト ンメニュー事務局		プロジェクトメニュー http://teams.aori.u-tokyo.ac.jp/	

複合 3 1-2 3 (9) その他

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-23	菊地 真	2016 年	災害と文化財保存の歴史地理：阪神・淡路大震災 20 年を越えて	神戸大学附属図書館震災文庫
31-23	神戸大学大学院人文学研究科・文学部地理学教室	2014 年	展示会「歴史地震(貞観地震)に学ぶ津波の実態」資料集：阪神・淡路大震災、および歴史地震から学ぶ災害・災厄	神戸大学附属図書館震災文庫
31-23	杉戸信彦・松多信尚ほか	2013-2014 年	東北地方太平洋沖地震津波遡上詳細地図(資料集)、名古屋大学減災連携研究センター	

分野：情報学

担当：目黒 公郎

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
24	被災地支援活動における情報交換と ICT 活用に関する調査研究チーム	2014 年	被災地支援活動における情報交換と ICT 活用に関する調査報告書	
24	岩手大学三陸復興推進機構	2015 年	『「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを東日本大震災から 4 年目の取り組み H26. 4～H27. 3』	
24		2012-2015 年	『いいことマップ』 Vol. 1～6	いずれも陸前高田をテーマとした情報誌
24		2014 年	『たかたび』	
24		2015 年	『たかたび+』	

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
24	八木 徹, 神部 順子, 中	2013 年	放射性物質の滞留半減期関数	Journal of Computer Chemistry, Japan

	山 榮子, 長 嶋 雲兵, 青 山 智夫			
24	若月 泰孝, 青山 智夫, 滝川 雅之	2014 年	2011 年 3 月 15～16 日の福島県中通り地方の空 間線量率シミュレーション	
24	青山 智夫, 若月 泰孝	2015 年	放射性 plume 軌跡のためのシミュレータ開発	

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
24	Shoko Miyagawa	2015 年	ICT Utilization for Disaster Management.	Proceedings of Asia Internet Technology Joint Symposium
24	宮川祥子他	2015 年	東日本大震災における支援団体の ICT の活用状 況と課題	日本 NPO 学会

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 3 1－2 4 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-24			平成 24 年度報告書 大震災における MR I 装 置に起因する 2 次災害防止と被害最小化のため の防災基準の策定	厚生労働科学研究費補助金 地域 医療基盤開発推進研究事業

31-24			平成 25 年度報告書 大震災におけるMRI 装置に起因する 2 次災害防止と被害最小化のための防災基準の策定	日本建築学会
31-24			総合報告書（平成 24-25 年度）	
31-24	吉野涼二	2015 年	東日本大震災合同調査報告 建築編 8 建築設備・建築環境 第 4 章 建物機能・環境への影響(被災地:東北地方) 4.4 非住宅建築物 4.4.2 病院施設	

複合 31-24 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-24	中井敏晴、山口さち子、土橋俊男、前谷津文雄、引地健生、清野真也、丹治一、安達廣司郎、武蔵安德、菱沼誠、阿部喜弘、石森文朗、砂森秀昭、榎田喜正、松本浩史、栗田幸喜、藤田功、磯田治夫、小山修二、村田和子、水口紀代美、木戸義	2014 年	MR 検査室における震災対策 - 防災対策と緊急対処のための 2 指針について	日本磁気共鳴医学会雑誌

	照、野口隆 志、梁川 功、町田好男			
31-24	土橋 俊男、 松本 浩史、 榊田 喜正、 石森 文朗、 砂森 秀昭、 藤田 功、中 井 敏晴	2016 年	MRI 装置の緊急停止システム用統一シールの提 案	日本診療放射線技師会誌
31-24	中井敏晴、山 口さち子、土 橋俊男、前谷 津文雄、引地 健生、清野真 也、丹治 一、安達廣司 郎、武蔵安 徳、菱沼 誠、阿部喜 弘、石森文 朗、砂森秀 昭、榊田喜 正、松本浩 史、栗田幸 喜、藤田 功、磯田治 夫、野口隆 志、梁川 功	2013 年	東日本大震災による MR 装置 602 台の被害状況 報告	日本磁気共鳴医学会誌
31-24	Nakai T, Maeyatsu F, Adachi K, Musashi Y,	2014 年	The Tsunami Disaster and MR Scanners in the Great East Japan Earthquake in 2011	Magnetic Resonance in Medical Sciences 13

	Hikichi T, Hishinuma M, Abe Y, Yamaguchi S, Machida Y, Yoshioka K			
31-24	礪田治夫 小 山修司 山口 さち子 中井 敏晴	2015 年	東海・南海地区における MR 検査室の防災対策 の現況調査	日本磁気共鳴医学会雑誌

複合 3 1 - 2 4 (6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-24	阿児雄之, 奥 本素子, 加藤 幸治	2015 年 7 月	モノとつながるエピソードデータベースー東北 学院大学「牡鹿半島のくらし展」を通じて	日本文化財科学会
31-24	阿児雄之, 奥 本素子, 加藤 幸治	2014 年 6 月	被災文化財レスキュー活動の記録情報群に基づ く活動再現への試み	2014 年度アート・ドキュメンテー ション学会年次大会, 2014 年度ア ート・ドキュメンテーション学会 年次大会
31-24	鳥海重喜	2011 年 9 月	大規模地震発生後の首都圏鉄道路線の運転再開	日本オペレーションズ・リサーチ 学会 2011 年秋季研究発表会

分野：化学

担当：岩澤 康裕

(1) 報告書

該当なし

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
25	高貝慶隆	2014 年	2013（平成 25）年度 年報	公益財団法人新技術開発財団
25	高貝慶隆, 古 川真, 亀尾 裕, 鈴木勝彦	2014 年	放射性物質の吸着・除染および耐放射線技術に おける材料・施工・測定の新技術	技術情報協会
25	Y. Takagai, M. Furukawa, Y. Kameo, K. Suzuki	2014 年	“Sequential Inductively Coupled Plasma Quadrupole Mass-spectrometric Quantification of Radioactive Strontium-90 Incorporating Cascade Separation Step for Radioactive Contamination Rapid Survey”	Analytical Methods
25	高瀬つぎ子, 高貝慶隆	2013 年	“東京電力福島第一原子力発電所事故にかかわ る玄米中の放射性セシウム分析におけるゲルマ ニウム半導体検出器と NaI (Tl) シンチレーショ ン検出器との定量値の比較”	分析化学
25	高貝慶隆, 古 川真, 長橋良 隆, 高瀬つぎ 子, 敷野修, 亀尾裕	2011 年	“マイクロウェーブ加熱分解／ICP-MS 分析によ る土壌中 235U 及び 238U の同位体比分析と福島 第一原子力発電所事故に係わる広域土壌調査”	分析化学

25	福島大学	2014 年	マルチフェーズ型研究教育による分析技術者人材育成と廃炉措置を支援加速する難分析核種の即応的計測法の実用化に関する研究開発 http://decommission.sss.fukushima-u.ac.jp/	
----	------	--------	---	--

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
25	鈴木開登, 上杉正樹, 横山明彦	2015 年	土壌試料中の Pu, Am 逐次分析における溶解と前濃縮の迅速化の検討	KEK Proceedings
25	H. Kimura, M. Uesugi, A. Muneda, R. Watanabe, A. Yokoyama, T. Nakanishi	2015 年	The situation of Ag and Pu radioisotopes in soil released from Fukushima Daiichi nuclear power plants	J. Radioanal. Nucl. Chem.
25	木村元, 上杉正樹, 鈴木開登, 横山明彦, 中西 孝	2014 年	福島第一原子力発電所事故に対応した Pu 分析法の検討及び放出された Pu の存在状態に関する研究	KEK Proceedings
25	平尾 法恵 他	2016 年	真空加熱による粘土鉱物からのセシウム脱離挙動：放射光を用いた X 線光電子分光法及び昇温脱離法による分析	分析化学
25	Y. Baba, I. Shimoyama, N. Hirao, T. Izumi	2015 年	Interaction between ultra-trace amount of cesium and oxides studied by total-reflection X-ray photoelectron spectroscopy	e-J. Surf. Sci. Nanotech

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

25	白崎謙次, 永井満家, 山村朝雄	2016 年	セシウム、ストロンチウムの選択的抽出の検討 リスクフリー溶媒による溶媒抽出化学 III	日本原子力学会 2016 春の年会
25	永井満家, 白崎謙次, 坂本清志, 山村朝雄	2015 年	溶媒抽出法による中性溶液からの Cs、Sr の選択的抽出のための基礎的研究 II	第 39 回日本原子力学会東北支部交流会
25	永井満家, 白崎謙次, 坂本清志, 山村朝雄	2015 年	セシウム、ストロンチウムの選択的抽出の検討 リスクフリー溶媒による溶媒抽出化学 III	2015 日本放射化学会・第 59 回放射化学討論会
25	永野利典	2012 年	福島市東部地区における除染ボランティア参加時の被ばく線量	平成 24 年度放射線安全取扱部会年次大会
25	Y. Jiao, H. Imaizumi, N. Kano	2012 年	Hohhot, China, Seasonal variation of tritium and major element in snow and short term precipitation in Niigata Japan	(ICEEP) 2012
25	片岡憲昭, 今泉洋, 狩野直樹	2012 年	新潟市における降水中のトリチウム濃度調査で得られた福島第一原発事故の影響	日本原子力学会 (2012 春の年会) 講演抄録 (M28)
25	守橋真菜美 他	2012 年	新潟市における降水中のトリチウム濃度測定や他のイオン測定と気団解析から得られた福島第一原発事故の影響評価	第 49 回アイソトープ・放射線研究発表会講演要旨集
25	D. Aoki et al.	2015 年	Chemical Mapping of Plant Biomolecules by cryo Time-of-Flight Secondary Ion Mass Spectrometry	ALC' 15
25	D. Aoki et al.	2015 年	Behavioral analyses of a detergent in kraft-pulp washing process by cryo-TOF-SIMS/SEM	ISWFPG2015
25	徳川勝洋 他	2015 年	Cryo-TOF-SIMS を用いたパルプ洗浄工程における洗浄剤の挙動分析	第 82 回紙パルプ研究発表会
25	浅井龍太郎, 青木弾, 富岡利恵, 松下泰幸, 福島和彦	2015 年	cryo-TOF-SIMS による水溶性セシウムの樹木内移動の追跡	第 65 回日本木材学会大会

25	D. Aoki, Y. Hanaya, Y. Matsushita, M. Yoshida, K. Kuroda, R. Takama, and K. Fukushima	2015 年	Chemical mapping of organic/inorganic chemicals in frozen-hydrated biological samples	SISS-17
----	---	--------	---	---------

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
25	東北大学		東北化学同窓会ホームページ http://alumni-tohochem.sakura.ne.jp/	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 31-25 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-25	A. Kirishima, M. Hirano, T. Sasaki, N. Sato	2015 年	Leaching of actinide elements from simulated fuel debris into seawater	J. Nucl. Sci. Technol.
31-25	T. Sasaki, Y. Takeno, A. Kirishima, N. Sato	2015 年	Leaching test of gamma-emitting Cs, Ru, Zr, and U from neutron-irradiated UO ₂ /ZrO ₂ solid solutions in non-filtered surface seawater	J. Nucl. Sci. Technol.

複合 31-25 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-25	原発事故・エネルギー問題 検討会	2011 年	福島第一原子力発電所事故後の電気エネルギー の円滑な供給に向けて EAJ Information No. 150	(公社) 日本工学アカデミー
31-25	松方正彦, 古 山通久 (監 修) 化学工学会緊 急提言委員会 (編集)	2012 年	ゼロから見直すエネルギー	丸善出版
31-25	化学工学会	2011 年	震災に伴う東日本エネルギー危機に関する緊急 提言	
31-25	Y. Fukushima, Y. Kikuchi, Y. Kajikawa, M. Kubota, T. Nakagaki, M. Matsukata, Y. Kato, M. Koyama	2011 年	Tackling power outages in Japan: the earthquake compels a swift transformation of the power supply	Journal of Chemical Engineering of Japan 44
31-25	化学工学会		震災に伴う東日本エネルギー危機に関する緊急 提言 http://www.scej.org/act- eve/organization/teigen.html	

分野：総合工学

担当：矢川 元基、岩澤 康裕

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
26	笠木伸英 他	2014 年	2013 年度 CRDS 環境・エネルギーユニット報告 原子力発電に関わる課題	科学技術振興機構 研究開発戦略 センター
26	日本アイソト ープ協会	2016 年	平成 27 年度原子力災害影響調査等事業（福島 県外における住民の個人被ばく線量把握事業） 報告書	
26	原寛道 他	2012 年	2012 年度 デザイン総合プロジェクト 活動報告 書	千葉大学環境デザイン研究室
	原寛道 他	2013 年	2013 年度 デザイン総合プロジェクト 活動報告 書	千葉大学環境デザイン研究室
	原寛道 他	2014 年	2014 年度 植物環境デザインプログラム 活 動報告書	千葉大学環境デザイン研究室

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
26	横断型基幹科 学技術研究団 体連合	2011 年	震災の克服と強靱な社会の再構築に向けて	横幹連合 H P
26	横断型基幹科 学技術研究団 体連合	2012 年	「横幹連合会員学会の震災克服調査研究の連携 による強靱な社会の再構築に向けた横断型基幹 科学技術の展開」	横幹連合機関紙「横幹」第 6 巻第 2 号

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
26	出口 光一郎, 岡谷 貴之	2013 年	3.11 東日本大震災の被災と復興の画像アーカイブの構築とコンピュータビジョンによる被災市街地の時空間モデリング	電子情報通信学会
26	吉田 至孝	2013, 2014, 2015 年	福島第一原子力発電所 1 号機の再現解析と考察	日本原子力学会
26	S. Takahashi	2014 年	Radiation Monitoring and Dose Estimation of the Fukushima Nuclear Accident	Springer

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
26	宇埜 正美	2015 年	ナトリウム冷却高速炉における格納容器破損防止対策の有効性評価技術の開発 (1) 全体概要	日本原子力学会 2015 年春の大会
26	青柳光裕	2015 年	ナトリウム冷却高速炉における格納容器破損防止対策の有効性評価技術の開発 (2) ナトリウム燃焼時の熱影響詳細評価手法の開発	日本原子力学会 2015 年春の大会
26	河口宗道	2015 年	ナトリウム冷却高速炉における格納容器破損防止対策の有効性評価技術の開発 (3) 炉心溶融物/ナトリウムとコンクリート構造物との反応挙動	日本原子力学会 2015 年春の大会

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 3 1 - 2 6 (1) 報告書

	Eckert, E. Shibata, T. Nakamura			
31-26	D. Kozak, M. Panigrahi, M. Grabda, E. Shibata, T. Nakamura	2015 年	Ferrocene redox in trihexyl(tetradecyl)phosphonium bis-2,4,4- (trimethylpentyl) phosphinate (Cyphos IL- 104)/ethanol at glassy carbon and platinum working electrodes	Electrochimica Acta 163, 41- 47

複合 3 1 - 2 6 (3) データベース

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-26	杉野雅人	2015 年	群馬県における環境放射線データベース	放射線地学研究所

分野：機械工学

担当：和田 章

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
27			平成 24 年度茨城大学復興支援プロジェクト成果報告書	平成 28 年度日本機械学会関東支部茨城講演会にて発表予定
27			平成 25 年度茨城大学復興支援プロジェクト成果報告書	
27			平成 26 年度茨城大学復興支援プロジェクト成果報告書	
27			NEDO 報告書他	
27	Nathan Michael, Shaojie Shen, Kartik Mohta, Yash Mulgaonkar, Vijay Komar, Keiji Nagatani, Yoshito Okada, Seiga Kiribayashi, Kazuki Otake, Kazuya Yoshida, Kazunori Ohno, Eijiro Takeuchi, Satoshi Tadokoro	2012 年	Collaborative mapping of an earthquake-damaged building via ground and aerial robots	Journal of Field Robotics

27	Keiji Nagatani, Seiga Kiribayashi, Yoshito Okada, Kazuya Yoshida, Satoshi Tadokoro, Takeshi Nishimura, Tomoaki Yoshida, Eiji Koyanagi, Mineo Fukushima, Shinji Kawatsuma	2013 年	Emergency response to the nuclear accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plants using mobile rescue robots	
27		2014-2017 年	岩手大学三陸復興機構報告書	
27		2013 年	東日本大震災合同調査報告 機械編	日本機械学会
27	東日本大震災 合同調査報告 書編集委員会	2013 年	東日本大震災合同調査報告	丸善出版
	藤田聡, 中村 いずみ, 古屋 治, 他 5 名	2012 年	Seismic Damage of Mechanical Structures by the 2011 Great East Japan Earthquake	15th World Conference on Earthquake Engineering
27	運輸安全委員 会	2012-2013 年	鉄道事故等報告書	
27	東日本大震災 合同調査報告 書編集委員会	2013 年	東日本大震災合同調査報告 機械編	日本機械学会

(2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
27	圓山翠陵	2012 年	小説 FUKUSHIMA	養賢堂
27	圓山翠陵	2016 年	みんなの熱科学	東北大学出版会
27	円山 重直	2012 年	福島第一原子力発電所 1 号機事故の熱流動現象 の推定-非常用復水器が作動していた場合-	保全学
27	円山 重直	2012 年	福島第一原子力発電所 3 号機事故の熱流動現象 の推定-高圧注水系 (HPCI) が途中で止まった 場合-	
27	円山 重直	2012 年	福島第一原子力発電所 2 号機事故の熱流動現象 推定 (熱力学モデルによる事故シナリオの検証)	日本機械学会論文集 B 編

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
27	Mitsuru Endo, Mai Endo, Takao Kakizaki	2014 年	Washing operation of a road surface washing mechanism for decontaminating radioactive substances	Robomech Journal, Vol.1, No.13
27	遠藤央, 遠藤 麻衣, 柿崎隆 夫	2015 年	放射性物質除去を目的とした路面洗浄ロボット システム -放射性物質除染実験-	計測自動制御学会論文集, Vol.51, No.6
27	Mitsuru Endo, Mai Endo, Takao Kakizaki	2014 年	Road Surface Washing System for Decontaminating Radioactive Substances	(IROS2014), pp.1956-1961

27	Keiji Nagatani, Seiga Kiribayashi, Yoshito Okada, Kazuki Otake, Kazuya Yoshida. Satoshi Tadokoro, Takeshi Nishimura, Tomoaki Yoshida, Eiji Koyanagi, Mineo Fukushima, Shinji Kawatsuma,	2013 年	Emergency Response to the Nuclear Accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plants using Mobile Rescue Robots	Journal of Field Robotics
27	白石直	2015 年	加圧水型軽水炉用高性能蓄圧タンクの研究	東京大学の博士論文
27	鶴田 俊	2012 年	「福島第一原子力発電所原子炉建屋の爆発現象 の画像解析による検討」	日本燃焼学会誌
27	鶴田 俊	2013 年	「東日本大震災と原発問題」	日本燃焼学会誌
27	鶴田 俊	2013 年	Hydrogen Explosion Hazards in Degraded Core Accidents in Nuclear Power Plants	ISFEH7

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
27	調査活動に参加したメンバ	2014 年 8 月 29 日	Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake Disaster、Report of the JSME	2014 The Japan Society of Mechanical Engineers

	一がそれぞれの視点から多くの研究発表を行っている (日本機械学会論文集等)		Research Committee on the Great East Japan Earthquake Disaster	
27	高木基樹, 三好扶	2016 年	胸鰭機構を有する水中ロボットの開発	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2016
27	佐藤和幸, 高木基樹, 森隼人, 三好扶	2016 年	水中環境調査を目的とした水中ロボットの開発 第 1 報: 試作機の開発	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2016
27	小山猛, 米倉達郎, 萩原義裕, 明石卓也, 金天海, 佐々木誠, 高木基樹, 三好扶	2016 年	水槽底掃除を目的とした水中ロボットの開発	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2016

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
27	日本機械学会		http://www.jsme.or.jp/shinsai3.11/	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

複合 3 1-2 7 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考

31-27	吉岡律夫、淵上正朗、飯野謙次	2016 年 3 月 1 日	福島原発における津波対策研究会・最終報告書	
-------	----------------	-------------------	-----------------------	--

複合 3 1 - 2 7 (7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-27	東北大学未来 科学技術共同 研究センター フロンティア 研究イニシア ティブ		http://www.fri.niche.tohoku.ac.jp/workshop 2012	
31-27	東北大学未来 科学技術共同 研究センター フロンティア 研究イニシア ティブ		http://www.fri.niche.tohoku.ac.jp/workshop 2014	
31-27	東北大学未来 科学技術共同 研究センター フロンティア 研究イニシア ティブ		http://www.fri.niche.tohoku.ac.jp/workshop 2016	

分野：電気電子工学

担当：和田 章

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
28	MRI/NMR/MEG 被災調査連絡 会議 MEG 担 当	2011 年	2011 年 3 月 11 日発生の東日本大震災による MEG 等の被災調査報告書	日本生体磁気学会

(2) 提言書・意見書

該当なし

(3) データベース

該当なし

(4) 学術書

該当なし

(5) 論文

該当なし

(6) 学会発表

該当なし

(7) ウェブサイト

該当なし

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

該当なし

分野：土木工学・建築学

担当：和田 章、目黒 公郎

(1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
29			東北関東大震災調査報告 (3 大学合同調査)	
29	地盤工学会	2015 年 3 月	平成 26 年度文部科学省 国家課題対応型研究 開発推進事業廃止措置等基盤研究・人材育成プ ログラム委託費, 汚染水対策・デブリ取出しか ら廃炉までを想定した地盤工学の新技術開発と 人材育成プログラム, 成果報告書	
29	地盤工学会	2016 年 3 月	平成 27 年度文部科学省 国家課題対応型研究 開発推進事業英知を結集した原子力科学技術・ 人材育成推進事業, 福島第一原子力発電所構内 環境評価・デブリ取出しから廃炉までを想定し た地盤工学の新技術開発と人材育成プログラ ム, 成果報告書	
29	乾 康代	2013 年	茨城県における県外避難の特徴と避難者の情報 把握・支援策にむけた提案, 平成 24 年度茨城 大学復興支援プロジェクト調査研究報告書, pp. 35-42	茨城大学大震災・放射能汚染復興 支援運営委員会
29	乾 康代	2014 年	避難者の実質的支援に向けた取り組みと調査, 平成 25 年度茨城大学復興支援プロジェクト調 査研究報告書, pp. 9-16	茨城大学大震災・放射能汚染復興 支援運営委員会
29	原口弥生, 乾 康代ほか		広域避難の実態把握にもとづく避難者支援の枠 組み評価, 平成 26 年度茨城大学復興支援プロ ジェクト調査研究報告書, pp. 8-15	茨城大学大震災・放射能汚染復興 支援運営委員会
29	原口弥生, 乾 康代ほか		平成 26 年度 茨城大学復興支援プロジェクト 調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興 支援運営委員会
29			平成 24 年度茨城大学「復興支援プロジェクト 事業」報告書	
29			平成 25 年度茨城大学「復興支援プロジェクト 事業」報告書	

29			平成 26 年度茨城大学「復興支援プロジェクト事業」報告書	
29			浦安市の液状化対策検討の報告書 2016	準備中
29	日本大学理工学研究所	2012 年 7 月	東日本大震災復興支援研究プロジェクト - 平成 23 年度研究成果報告書	
29	日本大学理工学研究所	2013 年 7 月	東日本大震災復興支援研究プロジェクト - 平成 24 年度研究成果報告書	
29	日本大学理工学研究所	2014 年 3 月	東日本大震災復興支援研究プロジェクト - 平成 25 年度研究成果報告書	
29	日本大学理工学研究所	2011 年 8 月	特集号「2011 年東北地方太平洋沖地震被害調査報告」	日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル 125 号
29			土木学会東日本大震災報告書	
29	土木学会	2014 年	東日本大震災合同調査報告書編集委員会, 東日本大震災合同調査報告 共通編 2 津波の特性と被害	
29	土木学会東北支部	2013 年	東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会, 東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会報告書	
29	日本建築学会	2011 年	2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報	
29	山田哲、松本由香、伊山潤、五十子幸樹、吉敷祥一、池永昌容、島田侑子、小山毅、見波進、浅田勇人	2012 年	東北地方太平洋沖地震等で被災した鉄骨造文教施設の調査－調査の概要－	日本建築学会技術報告集
29	小山毅、吉敷祥一、山田哲、伊山潤、松本由香、浅田勇人	2013 年	東北地方太平洋沖地震による鉄骨造文教施設の津波被害	日本建築学会技術報告集

29	吉敷祥一、山田哲、松本由香、島田侑子、小山毅、浅田勇人	2013 年	東北地方太平洋沖地震等による鉄骨造文教施設の柱脚・定着部被害	日本建築学会技術報告集
29			文化財ドクター派遣事業 調査結果報告	土木学会
29	佐藤滋他	2016 年	コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン 研究開発プロジェクト「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
29	浅野光行他	2015 年	新ぐるりんこー運行システム実装実験報告書	
29	早稲田大学都市・地域研究所	2012 年	「2012 年度上半期報告書 『浪江町-復興への道筋と 24 のプロジェクト-』」	千葉景房
29	早稲田大学都市・地域研究所	2012 年	「2012 年度後期報告書『浪江宣言 13・03』」	千葉景房
29	早稲田大学都市・地域研究所	2012 年	『なみえ復興塾 浪江町「協働復興まちづくりワークショップ」の記録 2012. 5. 12～8. 18』	千葉景房
29	早稲田大学都市・地域研究所＋都市計画佐藤滋研究室（協力）	2013 年	『浪江宣言 13・03』 なみえ復興塾, まちづくり NPO 新町なみえ, 浪江町（協力）	
29	浪江復興まちづくり協議会、まちづくり NPO 新町なみえ、安達運動場仮設住宅自治会、早稲田大学都市・地域研究所	2014 年	報告書「住宅・コミュニティ再建デザイン・ゲーム-二本松市石倉地区に整備する浪江町町外コミュニティに関する復興まちづくり体験-」	

29	佐藤滋監修	2013 年	「復興まちづくりの現在-2013年秋-」	丸善出版
29		2012 年	「なみえ復興塾 2012 年」	千葉景房
29		2012 年	「浪江町 2012 年初夏の風景 QuickTime H 264」	千葉景房
29		2012 年	「浪江実景 2 2012 秋 QuickTime H 264」	千葉景房
29		2012 年	「なみえ復興塾 2012 年」	千葉景房
29	伊津野和行	2011 年	2011 年度東日本大震災に関する研究推進プログラム研究成果報告書	立命館大学
29	糸永航・中尾尚史・伊津野和行・小林紘士	2012 年	鉾桁橋に対する津波の作用力に関する実験的研究	土木学会論文集
29	中尾尚史・糸永航・野阪克義・伊津野和行・小林紘士	2012 年	矩形断面桁に作用する津波の圧力特性に関する実験的研究	
29	東京大学 新領域創成科学研究科 神田研究室	2011 年	唐丹小白浜・尾崎白浜における建物の津波被害外観調査報告書	東京大学 新領域創成科学研究科 神田研究室
29	乾 康代	2011 年	住宅被害と避難所の問題, 茨城大学東日本大震災調査報告書	茨城大学東日本大震災調査団
29	乾 康代	2012 年	東日本大震災における茨城県の住宅被害の特徴と再建支援課題, 茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
29	乾 康代	2013 年	茨城県における県外避難の特徴と避難者の情報把握・支援策にむけた提案, 平成 24 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
29	乾 康代	2014 年	避難者の実質的支援に向けた取り組みと調査, 平成 25 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学大震災・放射能汚染復興支援運営委員会
29	森田芳朗, 乾康代	2015 年	茨城県の区分所有マンションにおける居住と管理の現状 (続報)	日本建築学会大会オーガナイズドセッション

29	原口弥生, 乾 康代ほか	2015 年	広域避難の実態把握にもとづく避難者支援の枠組み評価, 平成 26 年度茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学社会連携センター
29	原口弥生, 乾 康代ほか	2015 年	平成 26 年度 茨城大学復興支援プロジェクト調査研究報告書	茨城大学社会連携センター
29	奈良岡浩二、 高橋郁夫	2012 年	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震における企業の被災状況分析	日本建築学会技術報告集
29	奈良岡浩二、 高橋郁夫	2012 年	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震における生産施設の被災状況分析	日本建築学会技術報告集
29	清水建設株式会社 技術研究所	2011 年	http://www.shimz.co.jp/theme/earthquake/report004.html	
29	東日本大震災アーカイブ宮城	2011 年	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震ー生産施設の被災状況分析ー	
29	地下空間研究委員会主催 第 17 回地下空間シンポジウム		東日本大震災に伴う仙台地区地下空間調査報告書	
29	古川高密度地震観測研究グループ	2014 年	大崎市古川高密度地震観測プロジェクト成果報告書	
29	稲谷昌之, 後藤浩之, 盛川仁, 小倉祐美子, 徳江聡, Xin-rui Zhang, 岩崎政浩, 荒木正之, 澤田純男, Aspasia Zerva	2013 年	大崎市古川高密度地震観測を利用した表層地盤構造の推定	土木学会論文集

29	Hiroyuki Goto, Hitoshi Morikawa, Masayuki Inatani, Yumiko Ogura, Satoshi Tokue, Xin- Rui Zhang, Masahiro Iwasaki, Masayuki Araki, Sumio Sawada and Aspasia Zerva	2012 年	Very dense seismic array observations in Furukawa district, Japan	Seismological Research Letters
29		2013 年	複合構造レポート 08 : 巨大地震に対する複合構 造物の課題と可能性	土木学会
29	東北地方太平 洋沖地震津波 合同調査グル ープ		2011 年東北地方太平洋沖地震津波に関する合同 現地調査の報告, 津波工学研究報告	
29	Mori, N., T. Takahashi, T. Yasuda and H. Yanagisawa	2011 年	Survey of 2011 Tohoku earthquake tsunami inundation and run-up	
29	東日本大震災 合同調査報告 書編集委員会	2014-2015 年	「東日本大震災合同調査報告」共通編 3 地盤災 害 (2014 年 4 月)、地盤編 1 (2015 年 3 月)、地 盤編 2 (2015 年 3 月)	丸善出版
29	柿沼太郎・辻 本剛三・安田 誠宏・玉田崇	2011 年	宮城県北部における津波痕跡調査	東北地方太平洋地震津波に関する 合同調査報告会

29		2013 年	平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震災害調査報告書	東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会
29	日本建築学会	2011 年	2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報	日本建築学会
29	全国土木コンクリートブロック協会	2013 年	東日本大震災により被災した海岸堤防の復旧に用いるコンクリートブロック被覆工構造に関する水理実験委託業務報告書	
29	全国土木コンクリートブロック協会	2015 年	粘り強い海岸堤防用被覆コンクリートブロック	

（２）提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
29	一般社団法人 日本建築学会	2015 年	一般社団法人日本建築学会編：東日本大震災合同調査報告 建築編 8 建築設備・建築環境	
29	一般社団法人 日本建築学会	2013 年	建築の原点に立ち返る-暮らしの場の再生と革新 東日本大震災に鑑みて（第二次提言）	
29	望月悦子, 吉澤望, 岩田利枝, 宗方淳, 平手小太郎, 明石行生	2013 年	東日本大震災に伴うオフィスの節電照明環境の実態その 1（2011 年の節電対策がオフィス照明環境に与えた影響）	日本建築学会環境系論文集, 第 78 巻, 第 683 号, pp. 9-16
29	成島雄一, 宗方淳, 岩田利枝, 谷口智子, 望月悦子	2016 年	我が国のオフィス照明環境と執務者評価の変遷に関する研究	第 81 巻, 第 719 号, pp. 49-56
29	Sakura KANO, Daisuke ITO, Etsuko MOCHIZUKI, Toshie IWATA and Yoshiki NAKAMURA	2014 年	Pilot Study of Reconsideration of the Lighting Environment in Train Stations under the Restriction of Power Use due to the Aftermath of the Great East Japan Earthquake	Journal of Light & Visual Environment, Vol. 38, pp. 12-21

29	大石哲	2012 年	陸前高田市高田町川原川の治水に関する質問と要望	
29	岸井隆幸・大沢昌玄	2015 年 1 月	「東日本大震災合同調査報告書（都市計画編）冊子版・DVD 版」	（株）丸善
29	岸井隆幸	2016 年 3 月	「東日本大震災から 5 年：到達点と課題」	（公財）都市計画協会
29	岸井隆幸（濱田政則、今村文彦・磯部雅彦・堀宗朗氏と共著・編集協力）	2015 年 10 月	「耐津波学 -津波に強い社会を創る-」	森北出版（株）
29	住民提案		山元町浜通り復興まちづくりビジョン～たおやかな風土に育まれる町～	
29	菊池義浩	2014 年	コミュニティ再建支援研究 山元町の住民組織における復興活動の支援から	東日本大震災と農村計画学会
29	菊池義浩，沼野夏生	2014 年	震災による生活行動への影響と住民主体の生活圏再編成－宮城県山元町を対象として－	農村計画学会誌
29	菊池義浩，沼野夏生，大沼正寛	2013 年	平野部における津波被災状況と住民主体による復興まちづくり活動－宮城県山元町花釜区・笠野区での事例－	2013 年度日本建築学会大会農村計画部門研究懇談会資料
29	神田順	2013 年	唐丹小白浜における防潮堤高さと災害危険区域指定に関する意見 釜石市副市長宛て	
29	神田順	2014 年	Consideration for effective height of sea walls against tsunami	Structure and Infrastructure Engineering
29	神田順	2014 年	津波防潮堤の費用対効果	日本建築学会大会論文梗概集
29	神田順	2014 年	防潮堤の費用対効果について	日本景観学会春季大会
29	伊丹絵美子，伊丹康二，横田隆司，ほか 2 名	2014 年	入居後約 2 年を経た仮設住宅団地における外部支援の現状と課題	地域施設計画研究

（３）データベース

該当なし

(4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
29	柴山知也	2011 年	3.11 津波で何が起きたか 被害調査と減災戦略	早稲田大学出版部
29	柴山知也・松丸 亮・高木泰士・Miguel Esteban・三上貴仁	2012 年	2011 年東北地方太平洋沖地震による津波災害の宮城県以南における現地調査	土木学会
29	Mikami, T., Shibayama, T., Esteban, M. & Matsumaru, R.	2012 年	Field survey of the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami in Miyagi and Fukushima Prefectures	Coastal Engineering Journal
29	Shibayama, T., Esteban, M., Nistor, I., Takagi, H., Nguyen, D. T., Matsumaru, R., Mikami, T., Aranguiz, R., Jayaratne, R. & Ohira, K.	2013 年	Classification of Tsunami and Evacuation Areas	Natural Hazards

(5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

29	平山洋介・間野博・糟谷佐紀・佐藤慶一	2012 年	「東日本大震災における被災者の住宅事情——岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に関する実態調査を通して」	日本建築学会計画系論文集
29	平山洋介・間野博・糟谷佐紀・佐藤慶一	2014 年	「東日本大震災後の住宅確保に関する被災者の実態・意向変化——岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に対する『2011 年夏』と『2012 年夏』のアンケート調査から」	
29	平山洋介	2014 年	「被災者実態をふまえた住宅復興を」	環境と公害
29	Murao, O	2014 年	Regional Comparison of Temporary Housing Construction Processes after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami, Tohoku Recovery: Challenges, Potentials and Future	Springer
29	Murao, O., Hoshi, T	2014 年	Comparative Study of the Post-tsunami Recovery Plans after the 2011 Great East Japan Earthquake	Journal of Disaster Research
29	杉安和也, 村尾修, 川崎拓郎, 韓海燕, シャーエムディフォエズ	2012 年	航空写真を用いた東日本大震災被災地における住宅変遷の評価	日本地震工学会論文集, 地震工学会
29	村尾修, 礪山星	2012 年	岩手県沿岸部津波常襲地域における住宅立地の変遷 —明治および昭和の三陸大津波被災地を対象として—	日本建築学会
29	斎尾直子, 山崎真美子	2016 年	東日本大震災後の公立小中学校の移動プロセスと復興過程の課題	日本建築学会計画系論文集
29	竹田萌美, 斎尾直子	2016 年	東日本大震災被災地における子どもの放課後の居場所確保の実態と課題	農村計画学会誌
29	大垣宏介, 斎尾直子	2014 年	東日本大震災津波被災漁村における復興の動向と課題	農村計画学会誌
29	菊池義浩, 南正昭	2015 年	東日本大震災で被災した学校施設における避難空間計画に関する研究—現地再建した岩手県沿岸小中学校を対象として—	日本都市計画学会

29	菊池義浩, 南正昭	2014 年	東日本大震災における学校施設の津波避難行動に関する調査研究－岩手県沿岸小中学校を対象として－	日本都市計画学会
29	松林由里子, 藤森直人, 久保奈央, 堺茂樹	2014 年	「東北地方太平洋沖地震津波時とその後の岩手県の小中学校での津波避難行動」	土木学会論文集 B2 (海岸工学)
29	倉内文孝	2014 年	” STEN (Space-Time Extended Network) を用いた最適津波避難計画モデルの構築”	土木計画学研究・講演集
29	安藤宏恵, 倉内文孝, 杉浦聡志	2016 年	” 時空間拡張ネットワークを用いたリンクベース最適避難計画モデルの構築”	土木学会論文集
29	Nao Kamei-Ishikawa, Ayumi Ito, Teruyuki Umita	2013 年	Fate of stable strontium in the sewage treatment process as an analogue for radiostrontium released by nuclear accidents	J. Hazard. Mater
29	Nao Kamei-Ishikawa, Ayumi Ito, Keiko Tagami, Teruyuki Umita	2013 年	Fate of radiocesium in sewage treatment process released by the nuclear accident at Fukushima	Chemosphere
29	石川奈緒, 畑中拓真, 伊藤歩, 海田輝之	2014 年	セシウムとストロンチウムの下水中の存在形態と下水処理過程での挙動との関係	土木学会論文集 G(環境)
29	日本建築学会	2011 年	2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報	日本建築学会
29	余 剣華, 金久保利之, 八十島章	2014 年	2011 年東北地方太平洋沖地震における茨城県内の公立学校建物の被害傾向	日本地震工学会論文集
29	金久保利之, 余 剣華, 八十島章, カス	2014 年	2011 年東北地方太平洋沖地震における茨城県内の公立学校 RC 造建物の被害	日本建築学会大会学術講演梗概集

	トロ・ホワ ン・ホセ			
29	関口徹, 中井 正一	2012 年	千葉市美浜区の液状化被害に与えた表層地盤構 造の影響	日本地震工学会論文集
29	日本建築学会	2014 年	学会誌「建築雑誌」2014 年 7 月号 「震災復興 ブレイクスルー」	マルモ出版
29	日本建築学会	2014 年	「ランドスケープデザイン」2013 年 9 月 92 号	マルモ出版
29	後藤浩之, 羽 田浩二, 澤田 純男, 吉田 望, 大内徹	2016 年	常時微動観測と臨時余震観測による福島県浪江 町市街地の地盤震動特性評価	日本地震工学会論文集
29	後藤浩之, 澤 田純男, 吉田 望, 羽田浩二	2014 年	2011 年東北地方太平洋沖地震の地震動による福 島県浪江町建築被害の悉皆調査	土木学会論文集 A1 (構造・地震工 学)
29	奥村与志弘, 後藤浩之	2013 年	海溝型地震の分岐断層破壊シナリオで発生する 津波の特徴に関する一考察	土木学会論文集 A1 (構造・地震工 学)
29	Hiroyuki Goto, Yojiro Yamamoto and Saeko Kita	2012 年	Dynamic rupture simulation of the 2011 off the Pacific coast of Tohoku earthquake: multi-event generation within dozens of seconds	Earth, Planets and Space
29	川崎昭如, ヘンリー マ イケル, 目黒 公郎	2013 年	東日本大震災後の各国政府の勧告と在住外国人 の行動との関係	地域安全学会
29	川崎昭如, ヘンリー マ イケル, 目黒 公郎	2012 年	言語能力の違いに着目した東日本大震災後の外 国人の災害情報収集分析	地域安全学会
29	川崎昭如, ヘンリー マ イケル, 目黒 公郎	2013 年	2011 年タイ洪水時の社会格差と災害情報収集に 関する分析	地域安全学会

(6) 学会発表

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
29	轟朝幸, 引頭雄一、荒谷太郎, 平田輝満, 長田哲平, 花岡伸也	2013 年	災害時における多様な航空機活動を支える空港運用のあり方に関する研究 - 東日本大震災の空港利用実態調査を踏まえて	航空政策研究会
29	Shojiro Motoyui	2016 年	UNSTABLE BEHAVIOR OF SUSPENDED CEILING DURING EARTHQUAKES	The 3rd workshop of SPONSE, Christchurch New Zealand
29	Shojiro Motoyui, Yasuaki Sato	2013 年	Impact force on JPN style of ceiling, US-JAPAN Joint Group Meeting of Earthquake Response of Non-structural Components	Reno US
29			東日本大震災合同調査報告書編集委員会、「東日本大震災合同調査報告一機械編一」	日本機械学会
29	日本建築学会	2014 年	学会誌「建築雑誌」2014 年 7 月号 「震災復興ブレイクスルー」	日本建築学会

(7) ウェブサイト

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
29	東北大学災害科学国際研究所	2012 年	http://www.tsunami.civil.tohoku.ac.jp/hokusai3/J/irides_etrisk/index_j.html	
29	一般社団法人京都ビジネスリサーチセンター	2011 年	kbrc.sakura.ne.jp/sbs	

(8) データの公開・寄託

該当なし

(9) その他

分野	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----	-----	-----	------	--------

番号				
29	東京大学		BOSS (BOSai System) : 災害対応支援システム	

複合 31-29 (1) 報告書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-29			震災復興企業実態調査 http://rirc.econ.tohoku.ac.jp/data/docs.html	
31-29	松本暢子、加藤仁美、小川美由紀、西田奈保子	2015 年	災害公営住宅における高齢者の生活支援仕組みに関する研究、第 8 回 ECOMO 交通バリアフリー研究助成成果報告	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
31-29		2012 年	2011 年度報告書：災害対応ロボットと運用支援の在り方プロジェクト	産業競争力懇談会 COCN 報告書
31-29		2013 年	2012 年度報告書：災害対応ロボットと運用支援の在り方	産業競争力懇談会 COCN 報告書
31-29		2014 年	2013 年度報告書：災害対応ロボットセンター設立構想	産業競争力懇談会 COCN 報告書
31-29		2015 年	2014 年度報告書：災害対応ロボットの社会実装	産業競争力懇談会 COCN 報告書

複合 31-29 (2) 提言書・意見書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-29	平川新・今村文彦（共編）	2013 年	「東日本大震災を分析する」地震・津波のメカニズムと被害の実態、震災と人間・まち記録	明石書店
31-29	今村文彦（共著）		津波の発生メカニズムと被害『今を生きる-東日本大震災から明日へ！復興と再生への提言-5 自然と科学』	東北大学出版会

複合 31-29 (4) 学術書

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考

31-29		2013 年 6 月	防災意識と非常持ち出し品に関する調査研究	日本人間工学会
31-29		2013 年 6 月	非常持ち出し品に関する研究	日本デザイン学会
31-29		2013 年 8 月	防災意識と準備行動に関する比較調査研究	日本福祉のまちづくり学会

複合 31-29 (5) 論文

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
31-29	山中浩明, 津野靖士, 地元孝輔, 山田伸之, 福元俊一, 江藤公信	2011 年	2011 年東北地方太平洋沖地震の余震観測と微動探査による K-NET 築館観測点周辺での地盤増幅特性の評価	物理探査
31-29	津野靖士, 地元孝輔, 山中浩明	2011 年	東北地方太平洋沖地震の余震観測記録と微動観測記録の解析から推定された茨城県中部に於ける S 波速度構造 —東茨城台地に注目して—	物理探査
31-29	山中浩明, 津野靖士, 地元孝輔, 新色隆二	2012 年	2011 年東北地方太平洋沖地震の余震観測と微動アレイ観測による KiK-net 芳賀観測点周辺での地盤震動特性の評価	日本地震工学会論文集
31-29	松本暢子, 加藤仁美, 小川美由紀	2013 年	東日本大震災における復興まちづくりのプロセスに関する考察—福島県いわき市豊間地区のふるさと復興協議会の活動とその支援—	(社)日本都市計画学会編『都市計画論文集』
31-29	西田奈保子, 小川美由紀, 松本暢子	2015 年	福島県いわき市における津波・地震被災者向け公営住宅の供給に関する考察—豊間地区におけるコミュニティ形成をめざしたグループ入居に注目して—	(社)日本都市計画学会編『都市計画論文集』
31-29	小川美由紀, 西田奈保子, 松本暢子	2016 年	東日本大震災における借上げ仮設住宅「一般型」の供給実態に関する考察	(社)日本都市計画学会編『都市計画論文集』

複合 31-29 (8) データの公開・寄託

分野 番号	著者名	発行年	タイトル	出版社・備考
----------	-----	-----	------	--------

31-29			3. 11 からの学びデータベース－IRIDeS から発信する東日本大震災の教訓空間 http://311manabi.irides.tohoku.ac.jp/TopPage 震災教訓文献データベース	
-------	--	--	--	--

分野：材料工学

担当：和田 章

本分野は、書誌情報なし。